

山口大学埋蔵文化財資料館年報  
—平成29・30年度—

2022

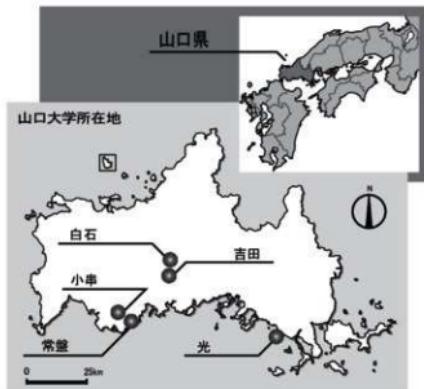
山口大学埋蔵文化財資料館



# 山口大学埋蔵文化財資料館年報

平成29・30年度 山口大学埋蔵文化財資料館活動報告

平成29・30年度 山口大学構内遺跡発掘調査概報



2022

山口大学埋蔵文化財資料館



## 序

山口大学埋蔵文化財資料館は、吉田構内をはじめ小串・常盤・白石・光構内に所在する山口大学構内遺跡における埋蔵文化財の保護を基幹業務としています。発掘調査にて得られた諸成果については、学術的な調査報告書(埋蔵文化財資料館年報)を刊行するだけでなく、実物資料展示や広報誌などを通じて、広く地域社会に公開しています。大学教育においても、当館の展示見学が複数の授業で採用されており、また当館専任教員が学芸員資格課程の授業を担当するなど一定の役割を担っています。

平成29(2017)年度は、埋蔵文化財保護業務に関しては、本発掘調査1件、予備発掘調査1件、立会調査4件を、平成30(2018)年度は立会調査15件を吉田構内、白石構内、小串構内、光構内にて実施しました。その中でも、吉田構内で実施した福利厚生施設(山口大学生活協同組合「FAVO」)新営に伴う発掘調査では、予備発掘調査段階で遺跡の現地保存を働きかけましたが、計画変更には至らず、やむなく記録保存を保護手段とした本発掘調査を行うことになりました。年度をまたぎ長期間に及んだ調査の成果は、古墳時代中期の初期須恵器を伴う4棟の竪穴式住居跡や、縄文時代の河川の確認など目覚ましいものがありましたが、本学が掲げる埋蔵文化財保護理念と、利便性を求める大学運営の両立が困難であることを痛感することになりました。

その他の取り組みでは、平成27年度に締結した山口県立山口博物館との連携協力協定の下、平成29年度は萩市大井にて、平成30年度は長門市深川にて遺跡を探訪する市民講座「古代ウォーキング」を開催しました。展示活動としては、平成29年度は2回の企画展のほか、山口県立山口博物館にて開催された山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携特別展に参加し、山口大学所蔵学術資産継承事業委員会事業成果展「第6回 宝山の一角」を共催にて開催しました。平成30年度は1回の企画展のほか、自館にて山口県大学ML連携特別展を開催し、山口大学所蔵学術資産継承事業委員会事業成果展「第7回 宝山の一角」を共催にて開催しました。これらの継続的な学術資料公開活動が学内外に及ぼす影響は大きく、年間の入館者は平成25年(2013)度以降、約2,000名を維持続けています。

本書には、当館が同年に実施した構内遺跡の調査成果をはじめ、収蔵資料の展示活動や社会連携活動、館員の研究活動を収録しております。本書が山口大学および学外研究機関、地域社会において幅広く活用されることを願います。

当館は、人的な埋蔵文化財保護体制をはじめ、出土品や調査記録の整理・保管場所の不足が年々深刻化するなど多くの課題を抱えていますが、学内ばかりでなく地域に開かれた学術研究・教育の場として活用していただけるよう、全力を尽くして取り組む所存です。これまで当館の調査・研究活動にご支援、ご協力を頂いた関係機関、関係各位に心から厚く御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご理解、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年3月

山口大学埋蔵文化財資料館長

根ヶ山 徹



## 例言

1. 本書は、山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」と呼称）が平成29年度から30年度にかけて実施した、山口大学構内の遺跡発掘調査成果報告と、同年度に資料館が実施した社会教育等の活動報告を記したものである。
2. 構内遺跡発掘調査に関しては、現地での調査は資料館員である田畠直彦（埋蔵文化財資料館助教）・横山成己（埋蔵文化財資料館助教）・水久保祥子（埋蔵文化財資料館技術職員※平成30年4月1日～）が担当した。また、現地での本発掘調査および予備発掘調査に際しては、有限会社久富工務店に協力を依頼した。
3. 発掘調査における現地での実測と写真撮影は田畠・横山・水久保が行った。出土遺物に関しては、整理を乃美友香（事務局学術基盤部学術基盤推進課技術補佐員）が行い、実測・写真撮影を水久保が行った。製図・整図は田畠・横山・水久保・乃美が行った。
4. 発掘調査に伴う事務は、事務局情報環境部学術情報課総務係（当時）が統括した。
5. 発掘調査の諸記録類と出土資料は資料館で適正に保管している。
6. 掲載した石器の石材は、加納隆氏（本学名誉教授）に鑑定いただいた。
7. 福利厚生施設新営工事に伴う本発掘調査のドローン撮影では、岩谷潔氏（株式会社アグリライト研究所）に協力いただいた。
8. 壑穴式住居出土炭化材の年代測定及び樹種同定は、渡邊正巳氏（文化財調査コンサルタント株式会社）に委託した。
9. 本文の執筆分担は目次または文末に記した。
10. 本書の編集は館員の補助を得て横山が行った。

## 凡例

1. 山口大学の吉田・白石・小串・常盤・光構内は、いずれもが文化財保護法(法律第214号)で示される「周知の埋蔵文化財包蔵地」内に位置する。各構内の位置する遺跡名は以下の通りである。

吉田構内～吉田遺跡 白石構内～白石遺跡 小串構内～山口大学医学部構内遺跡  
常盤構内～山口大学工学部構内遺跡 光構内～御手洗遺跡・月待山遺跡

2. 吉田構内における調査区および層位・遺構の位置は、日本測地系に基づいた国土座標を基準として北から南へ1～24、西から東へA～Zの番号を付して50m方眼に区画した。構内地区割のA～24区南西隅を起点(構内座標x=0, y=0)とする構内座標値で表示している。なお、平面直角座標系第III系における座標値(X, Y)と構内座標値(x, y)とは下記の計算式で変換される。

$$x = X + 206,000$$

$$y = Y + 64,750$$

3. 平成29年度に実施した本発掘、予備発掘に関しては、以下の略号により資料整理を行っている。

福利厚生施設新営工事に伴う予備発掘調査・本発掘調査……………YD2017-1

4. 各遺構は下記の記号で表記することがある。

堅穴住居……SB	掘立柱建物……SH	土壤……SK
溝……SD	柱穴・ピット……Pit・SP	落ち込み……SX

5. 本書で使用した方位は、吉田構内では国土座標を基準とした真北、他の構内では磁北を示す。

6. 標高数値は海拔標高を示す。

7. 土層および土器の色調記号は、農林省農林水産技術会事務局監修『新版標準土色帖』(1976)に準拠した。

8. 遺物の実測図は、下記のように分類した。

断面黒塗り……須恵器、陶器、磁器  
断面白抜き……縄文土器、弥生土器、土師器、土師質土器、瓦質土器、石器、木器、金属器

## 本文目次

第1章 平成29・30年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告	(横山)	1
第1節 平成29年度 資料館における展示・情報公開活動		
1 第38回企画展『大きさくらべ～大きいモノと小さいモノ～』	(横山)	3
2 第39回企画展『40年の歩み～館蔵品展～』	(横山)	4
3 山口県大学ML連携特別展『やまぐちの大学～University College Yamaguchi～』に参加…(横山)	5	
4 第6回山口大学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』を共催にて開催…(横山)	7	
5 平成29年度刊行物	(横山)	8
第2節 平成29年度 資料館における社会教育活動		
1 山口県立山口博物館との共催事業『講座 古代ウォーク(萩市大井)』	(横山)	9
第3節 平成30年度 資料館における展示・情報公開活動		
1 第40回企画展『大学発遺跡行き2～やまぐち時空列車の旅～』	(横山)	11
2 山口県大学ML連携特別展『ひらく～山口大学吉田キャンパス開拓史～』	(横山)	12
3 第7回山口大学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』を共催にて開催…(横山)	13	
4 平成30年度刊行物	(横山)	14
第4節 平成30年度 資料館における社会教育活動		
1 山口県立山口博物館との共催事業『講座 古代ウォーク(長門市深川)』	(横山)	15
第2章 平成29・30年度山口大学構内遺跡の調査		
第1節 平成29・30年度に実施した遺跡調査の概要	(横山)	17
第2節 平成29年度 吉田構内(吉田遺跡)の調査		
1 福利厚生施設新営工事に伴う予備発掘調査	(横山)	21
2 福利厚生施設新営工事に伴う本発掘調査	(横山・水久保)	25
3 教育学部附属特別支援学校ガス管引替工事に伴う立会調査	(横山)	106
4 解剖実習棟屋外環境整備工事に伴う立会調査	(横山)	107
5 環境整備(ため池)雨水改修工事に伴う立会調査	(横山)	108
6 理学部1号館駐輪場設置工事に伴う立会調査	(田畠)	109
第3節 平成30年度 吉田構内(吉田遺跡)の調査		
1 福利厚生施設新営工事に伴う緊急立会調査	(横山)	110
2 福利厚生施設新営工事に伴う立会調査	(横山)	114
3 農学部附属農場牛舎改修工事に伴う立会調査	(横山)	115
4 経済学部身障者用駐車場カーポート設置工事に伴う立会調査	(横山)	116
5 理学部3号館横駐輪場設置工事に伴う立会調査	(横山)	117
6 実験研究棟(中高温微生物研究センター)改修工事に伴う立会調査	(水久保)	118
7 國際総合科学部誘導サイン取設工事に伴う立会調査	(横山)	119
8 基幹・環境整備(ブロック塀対策)工事に伴う立会調査	(横山)	120
9 桜花爛漫植替工事に伴う立会調査	(横山)	121
10 音楽サークル棟空調設備設置に伴う立会調査	(横山)	122
第4節 平成30年度 白石構内(白石遺跡)の調査		
1 教育学部附属山口小学校運動場鉄棒改修工事に伴う立会調査	(横山)	123
第5節 平成30年度 小串構内(山口大学医学部構内遺跡)の調査		
1 総合研究棟(医学系)新営工事(機械設備工事)に伴う立会調査	(横山)	124
2 基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事に伴う立会調査	(横山)	125
3 基幹・環境整備(熱源設備更新)工事に伴う立会調査	(横山)	126
第6節 平成30年度 光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査		
1 基幹・環境整備(ブロック塀対策)工事に伴う立会調査	(田畠)	127
付節1 平成29・30年度 山口大学構内遺跡調査要項		128
付節2 山口大学構内の主な調査		131
付篇1 山口大学構内遺跡(吉田遺跡)出土の炭化材の年代測定及び樹種同定	(渡邊正巳)	156

## 挿図目次

第2章第1節 平成29・30年度に実施した遺跡調査の概要	
図1 山口大学吉田・白石構内位置図	18
図2 小串・常盤構内位置図	20
図3 光構内位置図	20
第2章第2節 平成29年度吉田構内（吉田遺跡）の調査	
図4 調査区位置図	21
図5 調査区位置図	25
図6 調査区遺構平面図	29・30
図7 調査区断面図	39・40
図8 1号堅穴式住居跡平面図	46
図9 1号堅穴式住居跡遺構平面図・断面図	46
図10 1号堅穴式住居跡に伴わない遺構断面図	46
図11 2号堅穴式住居跡平面図・断面図	53
図12 2号堅穴式住居跡に伴わない遺構断面図	46
図13 3号堅穴式住居跡平面図・断面図	58
図14 3号堅穴式住居跡に伴わない遺構断面図	59
図15 4号堅穴式住居跡平面図	64
図16 4号堅穴式住居跡断面図	65
図17 4号堅穴式住居跡に伴わない遺構断面図	65
図18 調査区南西部遺構平面図	71
図19 挖立柱建物跡1断面図	71
図20 挖立柱建物跡2断面図	72
図21 調査区南西部遺構断面図	72
図22 SK113平面図・断面図	72
図23 自然河川（NR1）平面図・断面図	74
図24 SK71平面図・断面図	76
図25 1号堅穴式住居跡出土土器実測図	79
図26 2号堅穴式住居跡出土土器実測図	80
図27 3号堅穴式住居跡出土土器実測図	80
図28 4号堅穴式住居跡出土土器実測図①	81
図29 4号堅穴式住居跡出土土器実測図②	82
図30 遺構出土土器実測図	83
図31 NR1出土土器実測図	84
図32 出土土器実測図	88
図33 出土玉類実測図	89
図34 出土土製品・金属器実測図	89
図35 出土石器実測図①	89
図36 出土石器実測図②	90
図37 出土石器実測図③	91
図38 吉田遺跡第I地区E区遺構分布図	103
図39 吉田遺跡第I地区E区 堅穴式住居跡出土遺物	103
図40 小路遺跡の堅穴式住居跡と出土遺物	105
図41 調査区位置図	106
図42 A地点土層断面柱状図	106
図43 調査区位置図	107
図44 A地点土層断面柱状図	107
図45 調査区位置図	108
図46 調査区位置図	109
第2章第3節 平成30年度吉田構内（吉田遺跡）の調査	
図47 調査区位置図	110
図48 B区平面図	112
図49 調査区位置図	114
図50 土層断面柱状図	114
図51 調査区位置図	115
図52 土層断面柱状図	115
図53 調査区位置図	116
図54 土層断面柱状図	116
図55 調査区位置図	117
図56 土層断面柱状図	117
図57 調査区位置図	118
図58 調査区位置図	119
図59 土層断面柱状図	119
図60 調査区位置図	120
図61 土層断面柱状図	120
図62 調査区位置図	121
図63 土層断面柱状図	121
図64 調査区位置図	122
図65 土層断面柱状図	122
第2章第4節 平成30年度白石構内（白石遺跡）の調査	

図66 調査区位置図	123
図67 土層断面柱状図	123
第2章第5節 平成30年度小串構内 （山口大学医学部構内道路）の調査	
図68 調査区位置図	124
図69 土層断面柱状図	124
図70 調査区位置図	125
図71 土層断面柱状図	125
図72 調査区位置図	126
図73 土層断面柱状図	126
第2章第6節 平成30年度光構内 （御手洗遺跡・月待山遺跡）の調査	
図74 調査区位置図	127
第2章付第2 山口大学構内の主な調査 図75 山口大学吉田構内地区割および 主な調査区位置図	149・150
図76 山口大学白石構内（幼稚園・小学校） 調査区位置図	151
図77 山口大学白石構内（中学校） 調査区位置図	152
図78 山口大学小串構内調査区位置図	153
図79 山口大学常盤構内調査区位置図	154
図80 山口大学光構内調査区位置図	155
付録 1号竪穴式住居跡の年代測定と樹種同定	
図81 1号竪穴式住居跡平面図	156
図82 曆年較正結果	157

## 写真目次

第1章第1節 平成29年度資料館における展示・情報公開活動	
写真1 企画展示スター	3
写真2 展示の模様	3
写真3 企画展示スター	4
写真4 展示の模様	4
写真5 会場となった山口県立山口博物館	6
写真6 開会式の模様	6
写真7 展示の模様	6
写真8 当館の展示	6
写真9 団体見学での展示解説	6
写真10 シンポジウムの模様	6
写真11 前期ミュージアムトークの模様	7
写真12 後期ミュージアムトークの模様	7
写真13 平成29年度埋蔵文化財資料館刊行物	8
第1章第2節 平成29年度資料館における社会教育活動	
写真14 萩博物館にて資料解説	10
写真15 円光寺古墳見学	10
写真16 円光寺埴輪窓跡遠望	10
写真17 円光寺穴古墳見学	10
写真18 大井大寺魔寺見学	10
写真19 大井大寺魔寺塔心礎・礎石見学	10
第1章第3節 平成30年度資料館における展示・情報公開活動	
写真20 企画展ポスター展	11
写真21 月崎遺跡解説パネル	11
写真22 展示の模様	12
写真23 団体見学での展示解説	12
写真24 前期ミュージアムトークの模様	13
写真25 後期ミュージアムトークの模様	13
写真26 平成30年度埋蔵文化財資料館刊行物	14
第1章第4節 平成30年度資料館における社会教育活動	
写真27 ながと歴史民俗資料室にて資料解説	16
写真28 稲塚横穴墓群跡見学	16
写真29 小浜山横穴墓群見学	16
写真30 上藤中横穴墓群見学	16
写真31 上藤中横穴墓群からの道中	16
写真32 長門深川魔寺跡・塔心礎見学	16
第2章第1節 平成29・30年度に実施した道路調査の概要	
写真33 吉田構内航空写真	18
写真34 白石構内（教育学部附属山口幼稚園・小学校） 航空写真	18
写真35 白石構内（教育学部附属山口中学校） 航空写真	18
写真36 小串構内航空写真	20
写真37 常盤構内航空写真	20
写真38 光構内航空写真	20
第2章第2節 平成29年度吉田構内（吉田遺跡）の調査	

写真39 調査地点遠景	21
写真40 平成18年（2006）当時の中央広場	21
写真41 予備発掘調査区全景	23
写真42 南北トレンチ全景	23
写真43 東西トレンチ近景	23
写真44 南北トレンチ中部土層断面	24
写真45 東西トレンチ東部土層断面	24
写真46 南北トレンチ中部遺構検出状況	24
写真47 東西トレンチ西部遺構検出状況	24
写真48 方形堅穴式住居跡か	24
写真49 遺物出土状況	24
写真50 予備発掘調査残土排出作業	25
写真51 本発掘調査重機掘削	25
写真52 本学吉田地区統合移転時の状況	27
写真53 本学吉田地区移転前の地割状況	27
写真54 遺構完掘状況	31
写真55 ドローンによる撮影①	31
写真56 ドローンによる撮影②	31
写真57 遺構検出状況	32
写真58 調査区北東部遺構検出状況	32
写真59 調査区北西部遺構検出状況	33
写真60 調査区南西部遺構検出状況	33
写真61 調査区北西部遺構検出状況	34
写真62 調査区北部遺構検出状況	34
写真63 調査区中央部遺構検出状況	34
写真64 調査区東部遺構検出状況	34
写真65 調査区中央部遺構検出状況	34
写真66 南西拡張区遺構検出状況	34
写真67 調査区北部第1遺構面遺構完掘状況	35
写真68 調査区北部第1遺構面遺構完掘状況	35
写真69 遺構完掘状況	36
写真70 遺構完掘状況	36
写真71 遺構完掘状況	37
写真72 遺構完掘状況	37
写真73 遺構完掘状況	38
写真74 南西拡張区遺構完掘状況	38
写真75 調査区北壁土層断面	41
写真76 調査区北壁土層断面	41
写真77 北西拡張区西壁土層断面	41
写真78 調査区西壁土層断面	42
写真79 南西拡張区北壁土層断面	42
写真80 南西拡張区西壁土層断面	42
写真81 南西拡張区東壁土層断面	43
写真82 調査区南壁土層断面	43
写真83 調査区南壁土層断面と 博物館実務実習の模様	43
写真84 第7回埋蔵文化財資料館専門委員会	44
写真85 6月12日作業風景	44
写真86 6月22日作業風景	44
写真87 7月20日作業風景	44
写真88 7月28日現地説明会の模様	44
写真89 7月28日現地説明会の模様	44
写真90 1号堅穴式住居跡検出状況	48
写真91 1号堅穴式住居跡遺物出土状況	48
写真92 1号堅穴式住居跡埋土半裁状況	49
写真93 主柱穴1半裁状況	49
写真94 主柱穴2半裁状況	49
写真95 主柱穴3半裁状況	49
写真96 北西面壁溝断面	49
写真97 SK3土層断面	50
写真98 SK3遺物出土状況	50
写真99 主柱穴4半裁状況	50
写真100 SK1・2半裁状況	50
写真101 Pit2半裁状況	50
写真102 Pit3半裁状況	50
写真103 Pit7半裁状況	50
写真104 SK110半裁状況	50
写真105 1号堅穴式住居跡完掘状況	51
写真106 1号堅穴式住居跡完掘状況	51
写真107 2号堅穴式住居跡床面断面	54
写真108 2号堅穴式住居跡床面断面	54
写真109 2号堅穴式住居跡遺物出土状況	55
写真110 主柱穴1半裁状況	55
写真111 主柱穴2半裁状況	55
写真112 主柱穴1完掘状況	55
写真113 主柱穴2完掘状況	55
写真114 SK1・Pit4半裁状況	56
写真115 Pit1半裁状況	56

写真116	Pit 2 半裁状況	56
写真117	Pit 3 半裁状況	56
写真118	2号堅穴式住居跡完掘状況	56
写真119	3号堅穴式住居跡埋土断面	59
写真120	3号堅穴式住居跡埋土断面	59
写真121	3号堅穴式住居跡住居内遭構検出状況	59
写真122	主柱穴3半裁状況	60
写真123	主柱穴3遺物出土状況	60
写真124	住居跡北東部遺物出土状況	60
写真125	主柱穴1半裁状況	60
写真126	主柱穴2半裁状況	60
写真127	主柱穴4半裁状況	60
写真128	S K 1 半裁状況	60
写真129	S K 2 半裁状況	60
写真130	Pit 1 半裁状況	61
写真131	Pit 2 半裁状況	61
写真132	Pit 3 半裁状況	61
写真133	Pit 4 半裁状況	61
写真134	Pit 6 半裁状況	61
写真135	Pit 7 半裁状況	61
写真136	Pit 8・9半裁状況	61
写真137	Pit 10半裁状況	61
写真138	Pit 11半裁状況	61
写真139	Pit 12半裁状況	61
写真140	Pit 13半裁状況	61
写真141	SK119半裁状況	61
写真142	3号堅穴式住居跡完掘状況	61
写真143	3号堅穴式住居跡完掘状況	62
写真144	3号堅穴式住居跡完掘状況	62
写真145	Pit137半裁状況	65
写真146	Pit138半裁状況	65
写真147	4号堅穴式住居跡検出状況	66
写真148	4号堅穴式住居跡埋土断面	66
写真149	4号堅穴式住居跡埋土断面	66
写真150	4号堅穴式住居跡遺物出土状況	67
写真151	南西部遺物出土状況	67
写真152	南西部遺物出土状況	67
写真153	南東部遺物出土状況	67
写真154	北西部焼土・遺物出土状況	67
写真155	主柱穴1半裁状況	68
写真156	主柱穴2半裁状況	68
写真157	Pit 1 半裁状況	68
写真158	Pit 2 半裁状況	68
写真159	Pit 3 半裁状況	68
写真160	Pit 4 半裁状況	68
写真161	Pit 5 半裁状況	68
写真162	Pit 6 半裁状況	68
写真163	Pit 7 半裁状況	68
写真164	4号堅穴式住居跡完掘状況	68
写真165	4号堅穴式住居跡完掘状況	69
写真166	4号堅穴式住居跡完掘状況	69
写真167	4号堅穴式住居跡 埋め戻し保存作業状況	69
写真168	4号堅穴式住居跡 埋め戻し保存作業状況	69
写真169	4号堅穴式住居跡の現状	69
写真170	S K 113半裁(遺物出土)状況	72
写真171	Pit350(右)半裁状況	73
写真172	Pit325半裁状況	73
写真173	Pit305半裁状況	73
写真174	S K 98半裁状況	73
写真175	Pit286半裁状況	73
写真176	Pit285半裁状況	73
写真177	Pit308半裁状況	73
写真178	S K 1 検出状況	73
写真179	S K 1 半裁状況	73
写真180	S K 101半裁状況	73
写真181	S K 100半裁状況	73
写真182	S K 99完掘状況	73
写真183	S K 94・95半裁状況	73
写真184	S K 105半裁状況	73
写真185	S K 112完掘状況	73
写真186	S K 107半裁状況	73
写真187	S K 96半裁状況	73
写真188	S K 97半裁状況	73
写真189	N R 1 完掘状況	75
写真190	N R 1 東西アゼ土層断面	75

写真191 N R 1 東西アゼ土層断面	75
写真192 南西拡張区西壁 N R 1 土層断面	75
写真193 S K71半裁状況	76
写真194 S K71炭化物出土状況	76
写真195 風倒木痕1 土層断面	77
写真196 風倒木痕2 断ち割り土層断面	77
写真197 風倒木痕3 断ち割り土層断面	77
写真198 風倒木痕8 断ち割り土層断面	77
写真199 出土遺物（土器）①	92
写真200 出土遺物（土器）②	93
写真201 出土遺物（土器）③	94
写真202 出土遺物（土器）④	95
写真203 出土遺物（土器）⑤	96
写真204 出土遺物（玉類）	96
写真205 出土遺物（土製品・金属器）	96
写真206 出土遺物（石器）①	96
写真207 出土遺物（石器）②	97
写真208 A 地点土層断面	106
写真209 A 地点北壁土層断面	107
写真210 A 地点土層断面	108
写真211 B 地点土層断面	108
写真212 調査区全景	109
写真213 A 地点土層断面	109
第2章第3節 平成30年度吉田構内（吉田道跡）の調査	
写真214 破壊状況の確認	110
写真215 破壊状況の確認	110
写真216 A 区の状況	112
写真217 A 区の工事掘削状況	112
写真218 B 区南調査区作業風景	113
写真219 B 区南調査区遺構検出状況	113
写真220 B 区南調査区遺構検出状況	113
写真221 B 区南調査区作業風景	113
写真222 B 区北調査区遺構検出状況	113
写真223 B 区北調査区遺構検出状況	113
写真224 配管掘削ルート	114
写真225 北西壁土層断面	114
写真226 東壁土層断面	115
写真227 A 区北壁土層断面	116
写真228 B 区北壁土層断面	116
写真229 調査区全景	117
写真230 D 区北壁土層断面	117
写真231 A 地点	118
写真232 B 地点	118
写真233 C 地点	118
写真234 南壁土層断面	119
写真235 第3地点北東壁土層断面	120
写真236 第5地点北西壁土層断面	120
写真237 桜植え替え掘削全景	121
写真238 A 地点南壁土層断面	121
写真239 調査地点西壁土層断面	122
第2章第4節 平成30年度白石構内（白石道跡）の調査	
写真240 調査区北東端部土層断面	123
写真241 調査区北西壁土層断面	123
第2章第5節 平成30年度小串構内	
（山口大学医学部構内道跡）の調査	
写真242 調査区東壁土層断面	124
写真243 B 調査区北東壁土層断面	125
写真244 北壁土層断面	126
第2章第6節 平成30年度光構内	
（御手洗道跡・月待山道跡）の調査	
写真245 調査区全景	127
写真246 A 地点土層断面	127
付録 1号竪穴式住居跡の年代測定と樹種同定	
写真247 電子顕微鏡写真	158

## 表目次

### 第1章 平成29・30年度

#### 山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告

表1 埋蔵文化財資料館利用者の推移 ..... 2

表2 平成29年度月別入館者数 ..... 2

表3 平成30年度月別入館者数 ..... 2

第2章第1節 平成29・30年度に実施した遺跡調査の概要

表4 平成29年度山口大学構内遺跡調査一覧表	表8 出土遺物（土製品）観察表	101
	表9 出土遺物（金属器）観察表	101
表5 平成30年度山口大学構内遺跡調査一覧表	表10 出土遺物（石器）観察表	101
	第2章付第2 山口大学構内の主な調査	
第2章第2節 平成29年度吉田構内（吉田遺跡）の調査	表11 山口大学構内の主な調査一覧表	131
表6 出土遺物（土器）観察表	付録 1号竪穴式住居跡の年代測定と樹種同定	
表7 出土遺物（玉類）観察表	表12 年代測定試料一覧	157



## 第1章 平成29・30年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告

当館は、昭和53年(1978)の構内遺跡調査要綱制定以降、山口大学構内が所在する遺跡の調査・研究を行うとともに、収蔵資料の展示・公開、また埋蔵文化財・考古学にかかわる社会教育活動を行っている。具体的には、展示・情報公開活動として、当館展示室において年度内に3回程度の資料展示を行うこと、刊行物やホームページなど各種メディアを通じて遺跡及び収蔵資料の情報を公開すること、社会教育活動としては、講座やワークショップの開催、授業や講演会等への講師派遣など、学内外の要望に応じた地域連携・生涯学習支援活動を実施することである。

平成29年度は、展示活動として第38回企画展『大きさくらべ～大きいモノと小さいモノ～』と第39回企画展『40年の歩み～館蔵名品展～』を開催したほか、毎年県内の大学博物館・図書館が連携し、各大学の学術資料や研究成果を公開する「山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携事業」に参加し、山口県立山口博物館にて開催された特別展『やまぐちの大学—University College Yamaguchi-』に所蔵資料を展出した。また、本学委員会である山口大学学術資産継承事業委員会の事業成果展『第6回 宝山の一角』共催館として、展示室の提供と展示構築・広報支援などを行った。情報公開活動としては、平成25年度の山口大学埋蔵文化財資料館年報と、広報誌『てらこや埋文』を刊行した。社会教育活動としては、平成27年度に山口県立山口博物館と締結した連携協力協定に基づき、萩市大井にて『講座 古代ウォーク』を開催した。

平成29年度末より、吉田構内にて計画された福利厚生施設の新営に伴う埋蔵文化財保護業務が多忙となつたため、その他の活動に対して十分な準備が行えない期間が続いたが、平成30年度は展示活動として第40回企画展『大学発遺跡行き2～やまぐち時空列車の旅～』を開催したほか、「山口県大学ML連携事業」に参加し、特別展『ひらく～山口大学吉田キャンパス開拓史～』を開催した。また、山口大学学術資産継承事業委員会の事業成果展『第7回 宝山の一角』共催館として、展示室の提供と展示構築・広報支援などを行った。情報公開活動としては、平成26年度の山口大学埋蔵文化財資料館年報と、広報誌『てらこや埋文』を刊行した。社会教育活動としては、引き続き山口県立山口博物館との共催で、長門市深川にて『講座 古代ウォーク』を開催した。

当館の年度入館者数は、平成28年度に設立後最多となる2,192名を記録したが、平成29年度は2,072名となり、前年度に比して5.5%の微減であった。翌平成30年度は1,918名、前年度に比してさらに7.5%減少した(表1)。平成28年度をピークに入館者数が減少傾向にあるかに思われるが、視点を変えると平成25年度以降は約2,000名で安定しており、学生の入れ替わりに関わらず、当館の展示活動が学内外に周知され、活用されている状況を示しているとも考えられる。ただし、埋蔵文化財保護業務が繁忙になると、諸々の広報活動が疎かになり、学外者の活用が減少する傾向にあることも事実である。

平成29年度末で館員1名が退職し、後任補充がなかったこともあり、平成30年度は他の活動が杜撰となつた感は否めない。過去においては一定期間の休館も選択肢の一つであったが、近年の授業等での活用を考慮すると「杜撰でも開催」を選択せざるを得なかつた。本学における当館の職責や将来像について色々と考えさせられる期間となつた。

月別入館者数を見ると、両年とも新生入学ガイダンス等で活用される4月が最多となっており、オープンキャンパスが開催される8月がそれに次いでいるが、例年通り年度後半は活用が停滞する(表2)。

次頁より、各年度に実施した展示・情報公開活動と社会教育活動の詳細を報告する。

表1 埋蔵文化財資料館利用者の推移

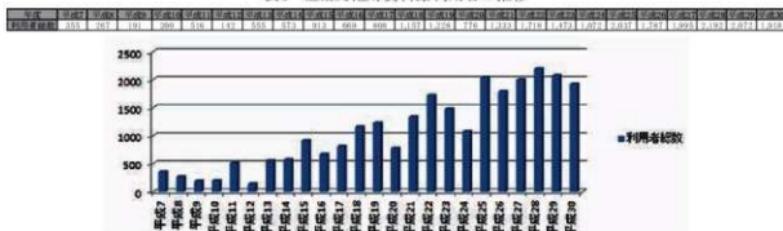


表2 平成29年度月別入館者数

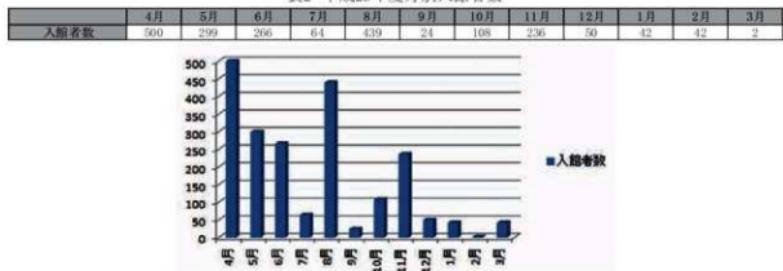
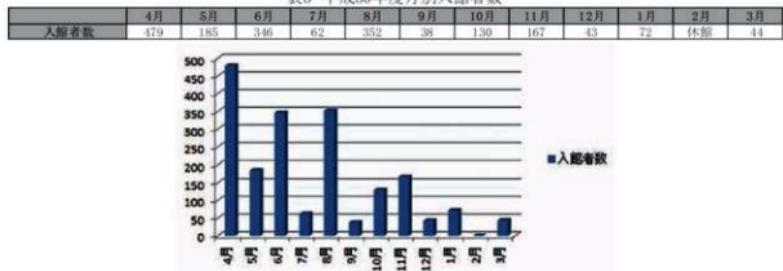


表3 平成30年度月別入館者数



## 第1節 平成29年度 資料館における展示・情報公開活動

### 1. 第38回企画展『大きさくらべ～大きいモノと小さいモノ～』

多くの公立・私立博物館では夏季に「家族（子ども）向け」特別展や企画展を開催し、夏休みの自由課題に資するとともに集客に努めているようであるが、昨今の総合系（歴史民俗系と自然史系を有する）博物館においては、その内容が自然史系に偏っているように感じられる。歴史系特別展を開催する博物館は少数派となっているのが現状と言えるのではなかろうか。

一方、本学では8月上旬から9月下旬にかけて夏季休業となることから、オープンキャンパス開催当日以外は、当館展示室も閉店休業状態となることが常となっており、夏場の電気代など運営面の点からも問題視され続けてきた。その打開策として、肩身を狭くして退屈な夏休みを送っているであろう歴史好き少年を元気づけるために、初の子ども向け展示を企画することになった。

展示では「大きさ」をテーマとし、縄文時代から古代にかけての縄、弥生土器壺と弥生土器壺棺、石包丁と大型石包丁、土師器とミニチュア土器などを素材に、同じ形態でなぜ大きさが違うのかについて解説を行った。解説パネルは通常より文字数を大幅に減らし、漢字にできるだけふりがなを振るなど、百折不撓であった当館の展示コンセプトを大転換した上で開催であった。

7月18日（火）から9月15日（金）まで、約2ヶ月の会期中、527名の方々に観覧いただきたが、結果的に約半数はオープンキャンパス開催時の入館者（高校生および保護者）であり、残念ながら小中学生の見学は数えるほどであった。入館者からは「（道具の）大きさの変化から生活様式の変化が分かることが面白い」「祭祀用の道具はいかにも祭祀用という感じがした」などの声や、「見過ごされがちだけど大切なモノ・コトを展示して欲しい」とのメッセージが寄せられた。初の子ども向け展示は課題を多く残したが、学生が不在となる夏季の展示開催は、やはりターゲットをより明確化することが重要と考えている。

#### 【註】

- 1) 平成29年度における山口県内夏季特別展・企画展の状況は、山口県立山口博物館にて『アリスと大冒険 3Dふしぎ博物館』、萩博物館にて『驚異の遭遇！未確認生物』が開催されていた。近隣県の状況を見ると、島根県立博物館では『つばさの博覧会－巨大翼竜からパンギンまで－』が、北九州市立自然史・歴史博物館では『大昆虫博』が、宮崎県立総合博物館では『日本南極観測60周年記念 南極展』が、徳島県立博物館では『ザ・モンスター～海と陸のへんてこ生物たち～』が開催されていた。



写真1 企画展ポスター



写真2 展示の模様

## 2. 第39回企画展『40年の歩み～館蔵名品展～』

本学は、かつては山口市の通称パークロード（県道203号線）周辺や下関市長府に各学部が散在する状況であった。昭和41年（1966）には山口市吉田地区への統合移転が開始されるが、造成工事中に地下から埋蔵文化財が出土したため、翌昭和42年（1967）に学長を団長とする山口大学吉田遺跡調査団が組織され、本格的な遺跡調査が始められることになった。

統合移転は昭和48年（1973）にひとまずの終了を迎える、その間に出土した資料や調査記録を保管するため、昭和52年（1977）に当館が竣工し、翌昭和53年（1978）に構内遺跡調査要綱が制定され、本学の調査が正式に当館に引き継がれた。以降現在に至るまで、当館が本学の埋蔵文化財保護の重責を担い続けてきたのであるが、平成29年度が40周年にあたることから、『40年の歩み～館蔵名品展～』と題して企画展を開催することにした。

当館の収蔵品は、昭和41年出土資料を最古とし、毎年増加し続ける「山口大学構内遺跡関連資料」と、本学教育学部教員であった小野忠熙氏が、主として昭和20年代後半から40年代前半にかけて県内各地で調査を担当した遺跡から出土した「山口県内考古資料」に大別される。それらの中から特に歴史的価値や希少性が高いものを選定して展示を構築した。具体的には吉田遺跡出土品として竹製網代編み製品（弥生時代）、ガラス小玉（弥生時代）、滑石製模造品（古墳時代）、音義木簡をはじめとする官衙関連資料（古代）を、県内考古資料として潮待貝塚（下関市）出土貝輪（縄文時代）、美濃ヶ浜遺跡（山口市）出土子持勾玉（古墳時代）、寄倉古墳（山口市）出土銅地金・銀貼り耳環（古墳時代）、多々良廃寺跡（防府市）採取瓦（古代）、見島ジーコンボ古墳群（萩市）出土金属製品（古代）などである。

10月21日（月）から2月2日（金）の会期中、438名の方々に観覧いただいた。アンケート調査の集計では、「一番印象に残った資料」の回答として、ガラス小玉や耳環などの美しい装飾品を押さえて、風趣漂う竹製網代編み製品が首位であったことが驚きであった。

「あれから40年…」という漫談家のフレーズがあるが、貴重な考古資料を無事40年間継承できたという感慨とともに、さらなる40年に向かい決意を新たにする機会となった。一方で「山口大学構内遺跡関連資料」や「山口県内考古資料」には公開が行えていないものを数多く含んでいる。一般への展示公開より優先されるべきは資料の調査研究・学術公開であり、眼前的課題を再認識させられる機会にもなった。



写真3 企画展ポスター



写真4 展示の模様

### 3. 山口県大学ML連携特別展『やまぐちの大学～University College Yamaguchi～』に参加

山口県内の大学博物館(Museum)と図書館(Library)による広域連携事業が開始されたのは平成25年度のことである。以降、毎年参加館が共通テーマに沿って各大学の特性を生かした学術資料や教育研究成果を公開する特別展を開催してきたが、5年目を迎える平成29年度は、初の合同展示を山口県立山口博物館(以下「山口博物館」)にて開催することとなった(写真5・6)。

当館は山口県内の数少ない大学博物館施設として、梅光学院大学博物館とともに事業開始期から参加しており、事務局を務める本学図書館員とともに未参加館への事業内容説明や参加要請、特別展ボスター・チラシの作成、開催期間中の各館視察、事業報告書の編集など中心的な役割を担ってきた。5周年合同展示を迎えるに当たり、会場となる山口博物館との調整、関連事業として開催されるシンポジウムの準備を行うと同時に、県内全大学参加をめざし、未参加館へのさらなる声かけを行い、徳山大学図書館と山口短期大学附属図書館の初参加にこぎ着けた矢先、当事業の創設メンバーであった梅光学院大学博物館と図書館の不参加が決定され、結果的に全大学参加に1大学足りない13大学17館での開催となつたことが悔やまれた。

今回の特別展は共通テーマが設けられず、出展は参加館の自由に委ねられたため、当館は近年の発掘調査成果で注目を集めている「吉田遺跡古代官衙関連出土資料」を出展した(写真7・8)。他の参加館は、所蔵学術資料のほか大学史資料や教育研究成果の紹介、学生の卒業作品などを出展しており、多様性に富んだ内容となった。11月25日(土)から12月24日(日)までの1ヶ月の会期中、山口博物館からの要請により団体見学への展示解説を行い(写真9)、土・日・祝日は参加館の持ち回りで会場当番を務めるなど多少の負荷はかかったが、約600名の方々に観覧いただくことができた。合同展示の開催に全面的に協力いただいた山口博物館館長や学芸員をはじめとする関係各位、共催組織(大学リーグやまぐち、山口県大学図書館協議会)、後援組織(大学博物館等協議会、山口県博物館協会、山口県図書館協会)にお礼申し上げたい。

また、関連事業として12月10日(日)の13時から山口県立図書館レクチャーホールにて開催されたシンポジウム『あなたの街の大学博物館・図書館～目的と役割、現状と未来～』にも参加した。シンポジウムでは、山口県大学ML連携事業実行委員会の根ヶ山徹委員長(当館館長・本学図書館長)の代表挨拶に続き、筆者が連携事業の経緯を説明した(写真10)。その後、吉光紀行氏(梅光学院大学特任准教授)と清水則雄氏(広島大学総合博物館准教授)により基調講演が行われ、本学総合図書館、山口県立大学図書館、至誠館大学附属図書館、下関市立大学鯨資料室、そして当館による事例報告が行われた。意見交換では、その他の参加館の現状、大学博物館と図書館の特性や大学関係者以外へのサービスの状況、公立博物館・図書館との連携状況などが報告された。その後、将来の展望に関する意見が述べられ、意義のあるシンポジウムとなった一方で、会場からは「一般の人は大学にどのような資料があるかを知らない」「世間の人は地域貢献をはじめとする大学の様々な取り組みを認知・認識していない」など厳しい声も寄せられ、広報の重要性についても言及があった。

博物館は使命としてその4大機能(収集・保存管理・調査研究・教育活用)を果たすが、大前提としては継続的なものでなくてはならない。設置者が行政、法人、私に問わらず、予算の縮小や人的配置の不備を原因にその継続性が不安視されることこそが問題と感じている。事業広報の巧拙が博物館の寿命を定めてはならないし、新規事業の構築や開催に年中汗を流し続ける学芸員はもはや学芸員と呼べないだろう。当館では、開催を主催または支援する事業に対しては、最低10年の継続を目安としているが、社会への定着と事業内容の充実・安定化を考慮すると、10年でも短期間と言えるのではなかろうか。



写真5 会場となった山口県立山口博物館



写真6 開会式の模様



写真7 展示の模様



写真8 当館の展示



写真9 団体見学での展示解説



写真10 シンポジウムの模様

#### 4. 第6回山口大学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』を共催にて開催

全学委員会である山口大学学術資産継承事業委員会(以下「委員会」)は、本学に所蔵される各種学術資料の長期的な保存継承プランを策定、提案するとともに、その下部組織である博物、文書・典籍両専門部会が、資料の実質的な保存および管理活動を行っている。当館は、平成24年度より委員会が主催する事業成果展『宝山の一角』の共催館として、展示空間の提供と展示設営の協力、会期中の管理運営などを行っている。

平成29年度も例年どおり前期・後期の2部構成で、前期展は平成30年3月19日(月)から5月18日(金)まで、後期展は5月28日(月)から7月20日(金)までの会期で開催された。当館は、前期展にて保存処理事業を終えた吉田遺跡出土の古代官衙閑連木製品を出した。

前期展では、文書資料として康熙御製『耕織図誌』(焦秉貞画 佩文齋刊) (経済学部東亜経済研究所)、鉱物・岩石資料として山口県の火山と火山岩(理学部地球科学標本室)、美術資料として寺池厚志作品(教育学部美術教育教室)、商品資料として星里焼(下関市)(経済学部商品資料館)、民俗資料として糸縄車・座縄りなど(農学部)が、後期展では文書資料として近現代東アジア関連資料(経済学部東亜経済研究所)、考古資料として山口県出土経塚閑連資料(人文学部)、鉱物資料として熊野鉱山(萩市)の研究成果及び昭和初期の鉱山写真(工学部学術資料展示館)、生物標本資料としてテン・アングマ・キクガシラコウモリ・コウベモグラなど山口県の哺乳類交連骨格標本(共同獣医学部)が展示された。

前期展は4月14日(土)14時より、後期展は6月2日(土)14時よりミュージアムトーク(展示解説)を開催した(写真11・12)。両日とも学内外とわず多くの参加者を迎えたが、特に後期展では所蔵学部の大学院生が解説を行ったこともあり、和気藹々とした雰囲気となった。

前期展では650名、後期展では464名、総数1,114名の方々に観覧いただいた。観覧者からは「山口ゆかりのアーティスト作品展を開催して欲しい」などの要望のほか、「学生生活に関連した展示」を希望する声も寄せられた反面、「大学在校生2名が同時に観覧していましたが、態度が悪くされました。こんなところしつけて！(ママ)」という指摘もあった。当展は新入生ガイダンスや授業の課題として活用されることが増えており、展示品が「知の探求」への第一歩となれば望外の喜びであるが、教育施設や公の場での最低限のマナーは中等教育までに学んで欲しい、と感じるのは大学の非常識なのであろうか。



写真11 前期ミュージアムトークの模様



写真12 後期ミュージアムトークの模様

## 5. 平成29年度刊行物

### 1.『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成25年度－』

平成29年度末に、平成25年度に実施した構内遺跡発掘調査概報と資料館活動報告を所収した年報を刊行している。発掘調査概報としては、本発掘調査2件(吉田遺跡:歴医学国際教育研究センター新営工事、吉田遺跡:第1武道場耐震改修その他工事)、予備発掘調査1件(白石遺跡:教育学部附属山口中学校武道場新営工事)、工事立会12件(吉田遺跡9、白石遺跡1、御手洗遺跡2)の成果が報告されている。

館の活動報告としては、展示・公開活動として3件の展示事業と3冊の刊行物を、社会教育事業として1件の公開授業を報告している。そのほか、横山と吉田生物研究所による「吉田遺跡出土の網代編み製品と植物遺体の樹種同定」、横山による「吉田遺跡出土の『千字文』音義木簡略報」、川島尚宗による「山口県宇部市月崎遺跡出土資料について」と題する付篇を所収している。

### 2. 山口大学埋蔵文化財資料館通信 第28号『てらこや埋文』

平成18年(2005)より刊行を開始した広報誌であり、当初季刊であったが、平成23年度以降は年度末に1度の刊行となっている。当館の年報が数年遅れで刊行されていることから、速報性のある広報誌として重要な役割を果たしている。

巻頭頁は当該年度に着手した吉田構内福利厚生施設新営工事に伴う予備・本発掘調査の速報を、2頁から3頁には展示活動、4頁には山口県立山口博物館との共済事業「講座 古代ウォーク」を、5頁には平成29年12月4日に一般公開を開始した「学術資産継承事業 考古資料データベース」(<https://knowledge.lib.yamaguchi-u.ac.jp/arche/>)関連記事を、6頁には当該年度に開催した展示アンケート結果を、7頁には「資料館この一品」として山口大学医学部構内遺跡出土の鐘崎式土器(縄文時代後期中葉)の紹介記事を、巻末頁には当館の当該年度活動歴を掲載した。

当広報誌は、当館ではもちろんのこと、冊数は少ないものの県内博物館施設にて無料配布していたり、県立図書館などにも収蔵されている。そのほか、考古資料データベースと同時に正式公開が開始された「山口県地域学リポジトリ」(<https://knowledge.lib.yamaguchi-u.ac.jp/ja>)にてデジタル版が公開されている。



写真 13 平成 29 年度埋蔵文化財資料館刊行物

## 第2節 平成29年度 資料館における社会教育活動

### 1. 山口県立山口博物館との共催事業『講座 古代ウォーク(萩市大井)』

当館は、平成27年(2016)6月24日に山口県立山口博物館(以下「山口博物館」と連携協力協定を締結したが、以降毎年継続して実施している事業が「講座 古代ウォーク(開催年により名称が異なる)」である。これは、山口県内を県央部、東部、北部、西部の4ブロックに分け、順繰りに見学地域を設定し、出土資料を確認し、実際に遺跡地をめぐるという内容である。実施の際に重要視している点は、当該自治体と連携しながら埋もれている資料を含め出土資料を確認すること、周辺地形と遺跡の立地を確認するため、できる限り現地まで歩いて行くことなどである。

すでに平成29年度は県北部を対象とすることが決定していたことから、山口博物館との協議により小地域として萩市大井を選定し、10月14日(土)に『講座 古代ウォーク』を萩市教育委員会の後援にて開催することとなった。萩市大井は、現在でこそ人口の減少した農村・漁村地区となっているが、慶長年間の萩開府以前は長門北浦の拠点の一つであり、阿武国造の本拠地と推定される地域である。

開催にあたり、4月18日(火)にコース詳細設定のための現地観察、6月16日(金)に円光寺古墳の原位置確認視察、7月7日(金)に大井大寺廃寺礎石の現存数確認のため萩博物館石の小径を視察、そして直前の10月6日(金)に安全確認等のためのコース下見を行った。出土資料に関しては、当日までに実見することができなかつたため、開催当日に確認することとなった。また、募集定員は15名としていたが、大井住民の団体申し込みもあったことから、21名の参加で実施することとなった。当日のスケジュールは以下の通りである。

- 13時00分～13時40分 萩博物館にて資料(円光寺古墳出土品(山口県指定文化財)、円光寺埴輪  
窓跡採取品、大井大寺廃寺採取品)の解説と熟覧(写真14)
- 13時40分～14時20分 資料片付け・自家用車にて萩市大井公民館に移動
- 14時30分 天長山古墳(標高70mの山頂にある4世紀後半～5世紀初頭の古墳)遠望
- 14時35分 円光寺古墳(6世紀中頃の箱式石棺墳。單鳳環頭柄頭3、耳環2など)見学(写真15)
- 14時45分 円光寺埴輪窓跡(今まで県内唯一の埴輪窓。5世紀末～6世紀初頭)遠望(写真16)
- 14時50分 円光寺穴觀音古墳(全長11.2mの横穴式石室を有する古墳。6世紀末～7世紀初頭)  
見学(写真17)

15時50分 大井大寺廃寺(7世紀後半に大井平野の東端に造営された古代寺院跡。大井川の浸食により半壊している)見学(写真18)

16時15分 大応寺前に設置されている大井大寺廃寺塔心礎と礎石の見学(写真19)

16時50分 萩市大井公民館に戻り解散

限られた時間の中での往復約5kmの行程であったが、参加者全員で無事に歩ききることができた。道中、見学地間の距離が長い場合は、地元参加の方々が歩きつつ様々な情報を提供して下さるなど、主催者が準備した内容以上の成果を生み出すことができたと感じる。また、事前に円光寺古墳周辺の草刈りを行っていただいたことも望外の喜びであった。

一方で、発見当初は地域の誇りとなっていた文化財も、時間が経過するとともに关心が薄まつたことが、現地の案内看板や説明看板の少なさに表れていた。その現状を参加者と共有できたことも大きな成果の一つと言えよう。参加者からは「大井に住んでいて知らないことばかりでした」「適度な運動で、説明も分かりやすく楽しかった」「折角の遺跡等を平易な本にまとめて欲しい」などの声が寄せられた。



写真 14 萩博物館にて資料解説



写真 15 円光寺古墳見学



写真 16 円光寺埴輪軸跡遠望



写真 17 円光寺穴観音古墳見学



写真 18 大井大寺魔寺見学



写真 19 大井大寺魔寺塔心礎・礎石見学

### 第3節 平成30年度 資料館における展示・情報公開活動

#### 1. 第40回企画展『大学発遺跡行き2～やまぐち時空列車の旅～』

平成30年度前期は、前年度末より吉田構内で開始された福利厚生施設新営に伴う本発掘調査に忙殺されたため、平成24年度以来の長期休館も視野に入れていたが、実施している発掘調査の速報を展示にて行うべきとの判断から、8月4日(土)の吉田地区オープンキャンパス開催日に合わせ企画展をオーブンさせた。

当展示は「出土品から遺跡に誘う」をコンセプトとしており、平成21年度に開催した初回の『大学発遺跡行き』では、吉田遺跡とともに潮待貝塚(下関市)、東ノ庄神田遺跡(光市)、天王遺跡(周南市)、御屋敷山古墳(下松市)、美濃ヶ浜遺跡(山口市)、見島ジーコンボ古墳群(萩市)、多々良廃寺跡(防府市)、小周防相ヶ追経塚(光市)を紹介した。2回目となる今回は、福利厚生施設新営に伴う調査にて検出された竪穴式住居跡の出土資料とともに、綾羅木郷遺跡(下関市)、六連島音次郎遺跡(下関市)、筏石遺跡(下関市)、月崎遺跡(宇部市)、答倉古墳(山口市)、上野光安寺跡(萩市)の紹介を行った。

本来であれば遺跡地の現況写真を撮影し、見学時の注意などとともに掲示するのであるが、残念ながらその時間を設けることができなかったため、遺跡地へのルートを紹介するに止まった。

展示完成時の記録写真を撮影することもなく、会期中一度も展示室の観覧風景撮影を行えなかつたため、手元に残るのはポスター・チラシデータと解説パネルデータのみである(写真20・21)。明らかに準備不足であり、突貫作業による展示となつたが、10月27日(土)までの会期中、520名の方々に観覧いただいた。

観覧者からは、「現在発掘中の吉田遺跡が印象に残った」「破片を組み合わせて土器を復元する技術に驚いた」「一緒に発掘作業をしてみたい」などの声が寄せられた。平成30年の夏は、山口市が計測史上最高気温(38.8°C)を記録するなど、記憶にない猛暑が続く中で、杜撰な内容ながら無事企画展を開催することができ、発掘調査も完遂することができたのは、上記のような声援が届けていたからに他ならない。ご支援いただいた方々にこの場を借りてお礼申し上げたい。



写真 20 企画展ポスター



写真 21 月崎遺跡解説パネル

## 2. 山口県大学ML連携特別展『ひらく～山口大学吉田キャンパス開拓史～』

平成29年度は、山口県内の大学博物館（Museum）と図書館（Library）による広域連携事業の5周年を記念して、山口県立山口博物館にて初の合同展示が開催された。平成30年度はこれまで通り、共通テーマに沿って参加館が各大学で学術資料や教育研究成果を公開することになった。

平成30年度の共通テーマは「ひらく」に決定された。過去の2年の共通テーマは「つなぐ」「はぐくむ」と推移しており、考古学を専門とする当館としては焦点の合わせづらいワードが続いているが、多数の館が参加する上では、これもやむを得ない措置なのであろう。

当該年度、吉田構内中央部において古墳時代中期の集落跡が新たに発見されたことを受けて、当館は「山口大学吉田キャンパス開拓史」と副題を付し、現在のキャンパス風景から弥生時代までの土地活用の移り変わりを考察する、吉田遺跡の通史的な資料展示を企画した。

展示構成は、①現在の吉田キャンパス航空写真 ②本学統合移転直前の吉田地区航空写真 ③近世の吉田村（地下上申絵図「吉田村」清図（画像）や近世遺構の分布、陶磁器などの遺物） ④中世（吉田遺跡の屋敷跡や井戸、掘立柱建物群と瓦質土器、土師器などの遺物） ⑤古代（縦柱建物群や埋没谷、木簡や墨書き器、柱根などの古代官衙関連遺物） ⑥古墳時代（竪穴式住居跡群や円筒埴輪採取地点、初期須恵器やミニチュア土器、滑石製模造品などの遺物）、⑦弥生時代（集落と河川の位置関係や水稻耕作地の推定、弥生土器や各種磨製石器などの遺物）とし、再び現在のキャンパス景観に立ち返る導線とした。また、昭和41年（1966）以降の調査風景画像をスライドショーにて多数上映することにより、遺跡ばかりでなく、本学による吉田キャンパス開発史も表現した。

11月4日（日）から翌年2月1日（金）までの約2ヶ月の会期中、282名の方々に観覧いただいた。観覧者からは、「身近にこんな貴重な資料が展示されているとは知りませんでした。もっと多くの方が来館されると良いと思います」「統合移転前の吉田の展示を見たとき、移転前のキャンパスの場所がどのような様子であったのか気になりました。ぜひ、それについても展示していただけると、より一層好奇心が増します」などの声が寄せられた。

本来、遺跡に立地する博物館では、通史的展示は常設すべきものであろうが、約35m<sup>2</sup>の当館展示室では望むべくもなく、忸怩たる思いで数年に一度、企画展として開催する状況が続いている。

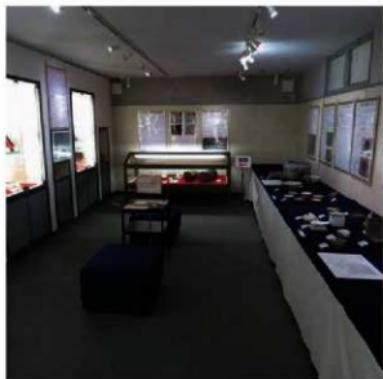


写真22 展示の模様



写真23 団体見学での展示解説

### 3. 第7回山口大学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』を共催にて開催

平成30年度も例年どおり、当館の共催により、当館展示室にて本学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』が開催された。前期・後期の2部構成となっており、前期展は平成31年3月18日(月)から令和元年5月17日(金)まで、後期展は5月27日(月)から7月19日(金)までの会期で開催された。当館はこの数年、学術資産継承事業として吉田遺跡出土木製品の保存処理と樹種同定を行っているが、予算の限られる中での継続事業となっており、平成20・24年度に出土した木製品の処理が完了していない状況であったことから、前年度に引き続き、前期展にて保存処理事業を終えた吉田遺跡出土古代官衙関連木製品を展出することになった。

前期展では、典籍資料として『水滸記訳本』2巻3冊 江戸期写など(総合図書館)、鉱物・岩石資料として南極の岩石(理学部地球科学標本室)、商品資料として萩焼深川窯(長門市)(経済学部商品資料館)が、後期展では文書資料として戦前期収集資料(地域:朝鮮)(経済学部東亜経済研究所)、考古資料として山口県出土経塚関連資料「経筒・和鏡」(人文学部)、鉱物資料として長登鉱山資料(美祢市)(工学部学術資料展示館)、生物標本資料としてタヌキ・ニホンウサギ・カヤネズミ・アカネズミ・カワネズミなど山口県の哺乳類交連骨格標本(共同獣医学部)、美術資料として鎌田恵務作品(教育学部美術教育室)が展出された。

前期展は4月20日(土)14時より、後期展は6月1日(土)14時よりミュージアムトーク(展示解説)を開催した(写真24・25)。前期展では616名、後期展では446名、総数1,062名の方々に観覧いただいた。観覧者からは「統一されたテーマに合う自然・考古・文献資料の展示が見たいです」「今回は「お宝」盛り合わせということだと思いますが、やはり一つのテーマでストーリー性があった方が良いような気がします」などの提案のほか、「内容が素敵なので、もっと来館を促すアピールがあれば良いと思った。もったいない」という意見もあった。

個人的には『宝山の一角』はやや慣例化しているようにも感じられるが、それは運営者側の感覚であり、毎年の入館者数が示すように需要が減少しているわけではない。事業定着期に生ずる情操の一種と信じたい。いずれにせよ、相当額を執行している全学的事業の可視化は、説明責任を果たす上では必須であることから、当館としても全面的にその活動を支援していきたい。



写真 24 前期ミュージアムトークの模様



写真 25 後期ミュージアムトークの模様

#### 4. 平成30年度刊行物

##### 1.『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』

平成30年度末に、平成26年度に実施した構内遺跡発掘調査概報と資料館活動報告を所収した年報を刊行している。発掘調査概報としては、本発掘調査1件(吉田遺跡;動物医療センター(リニアック室等)新設その他工事)、予備発掘調査1件(山口大学医学部構内遺跡:基幹・環境整備及び診療棟・病棟新設工事)、工事立会12件(吉田遺跡7、山口大学医学部構内遺跡2、山口大学工学部構内遺跡1、御手洗遺跡2)の成果が報告されている。

館の活動報告としては、展示・情報公開活動として3件の展示事業と1件のイベント参加、3冊の刊行物を、社会教育活動として1件の公開授業を報告している。そのほか、横山と吉田生物研究所による「吉田遺跡(動物医療センター(リニアック室)出土金属製品成分分析調査」、石丸恵利子氏による「吉田遺跡(公共下水道布設に伴う発掘調査)出土の動物遺存体」と題する付篇を所収している。

##### 2. 山口大学埋蔵文化財資料館通信 第29号『てらこや埋文』

当館の広報誌であり、連報性のある紙媒体メディアとして重要な役割を果たしている。

巻頭頁は上記の『埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』の刊行報告を、2頁から3頁には平成29年度末から平成30年度にかけて実施した福利厚生施設新設に伴う吉田遺跡本発掘調査の略報を、4頁から5頁には当該年度に開催した展示の報告を、6頁には山口県立山口博物館との共済事業「講座 古代ウォーキー」を、7頁には「資料館この一品」として福利厚生施設新設に伴う本発掘調査にて4号竪穴式住居跡から出土した初期須恵器(古墳時代中期中葉)の紹介記事を、巻末頁には当館の当該年度活動歴を掲載した。

『埋蔵文化財資料館年報』は、山口大学学術機関リポジトリ「YUNOCA」(<http://petit.lib.yamaguchi-u.ac.jp/>)および、奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」(<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/>)にて閲覧可能であり、広報誌『てらこや埋文』は「山口県地城学リポジトリ」(<https://knowledge.lib.yamaguchi-u.ac.jp/ja/>)にて閲覧可能である。



写真 26 平成 30 年度埋蔵文化財資料館刊行物

#### 第4節 平成30年度 資料館における社会教育活動

##### 1. 山口県立山口博物館との共催事業『講座 古代ウォーク(長門市深川)』

平成29年度の社会教育活動報告(本書9頁)に、当事業は「山口県内を県央部、西部、北部、東部の4ブロックに分け、順繕りに見学地域を設定し」と記載した。順番通りであれば、平成30年度は県西部が対象地となるところであったが、考古学的な知見から、阿武国の勢力範囲は6世紀後半には阿武と大津に分離したと推定されること、両地域とも古墳時代後期から終末期にかけての墳墓のあり方に特色が見られること、そして両地域の首長が古代寺院を营造する点で共通することを重視し、山口県立山口博物館との協議の結果、2年連続とはなるものの、県北部の長門市深川を対象地として決定し、10月13日(土)に長門市教育委員会共催にて『講座 古代ウォーク』を開催することとなった。

開催にあたり、5月1日(火)にコース詳細設定のための現地視察を行い、ある程度自家用車を用いなければ実施は困難であることを確認した。開催直前の10月4日(木)には保存状況が不明確であった上藤中横穴墓群の現状確認を行うと同時に、当事業に合わせ10月1日(月)から『発掘された長門へご近所の古代史～』が開催されていたながと歴史民俗資料室にて、訪れる遺跡の出土資料を確認したほか、学術公開が行われていない採取品なども実見させていただいた。

平成30年度も募集定員は15名としていたが、定員を上回る21名から申し込みがあったため、全員の受け入れを決定した。そのほか、長門市歴史民俗資料館で行う資料解説のみ参加したいという方も当日受け入れることとなった。講座のスケジュールは以下の通りである。

- 13時00分～13時40分 ながと歴史民俗資料室にて資料(稼塚横穴墓群出土品(山口県指定文化財)、上藤中横穴墓群出土品、長門深川廃寺等の出土品)の解説(写真27)
- 13時40分～14時10分 自家用車にて長門市総合公園に移動
- 14時15分 稼塚横穴墓群跡地(6世紀後半～7世紀の横穴墓群。完全消滅した)見学(写真28)
- 14時35分 小浜山横穴墓群(1墓道に2玄室が設けられた7世紀の横穴墓群。埋め戻し保存された)見学(写真29)
- 15時15分 上藤中横穴墓群(8世紀の横穴墓群で、山口県内最古の火葬墓墳。現状保存された)見学(写真30)
- 16時00分 長門深川廃寺・塔心礎(大津郡唯一の白鳳期創建寺院)見学(写真32)
- 16時30分 駐車場として利用させていただいた近隣スーパー・マーケットに戻り解散

出土資料見学会場となったながと歴史民俗資料館では、当日見学を行わない遺跡から出土した資料も展示されていたことから、様々な遺跡に言及しながら解説を行うことができた。また、県内随一の規模を誇り、学界の注目を集めながらも大正年間から昭和にかけての工事で完全消滅した稼塚横穴墓群と、発掘調査後に保存された小浜山横穴墓群、上藤中横穴墓群を対比させることによって、参加者の文化財保護への意識が向上するよう努めたつもりである。

自家用車と徒歩移動(約4.5km)の繰り返しで懶だらしの講座となったが、参加者全員無事に講座を終えることができた。参加者からは「車のウォークではなく、全部歩くウォーキングの方がいいと思う。早急にすぐも塚古墳跡(看板)が斜めなので直して欲しいと思った」「地元ですが、知らぬこと大変勉強になりました。今回の資料をもとに以後、ゆっくり勉強していきます」「深川廃寺は前から聞きたかったので、今日は本当にありがたかったです」などの声が寄せられ、内容の濃い講座であったことを確認することができた。



写真 27 ながと歴史民俗資料室にて資料解説



写真 28 駒塚横穴墓群跡地見学

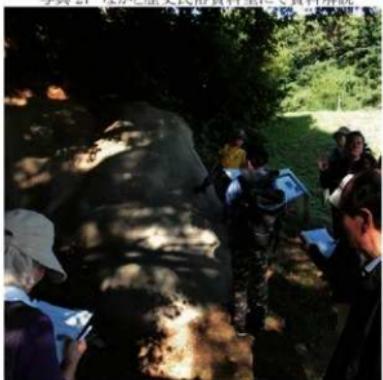


写真 29 小浜山横穴墓群見学



写真 30 上藤中横穴墓群見学



写真 31 上藤中横穴墓群からの道中



写真 32 長門深川廃寺跡・塔心礎見学

## 第2章 平成29・30年度山口大学構内遺跡の調査

### 第1節 平成29・30年度に実施した遺跡調査の概要

山口大学の関連施設は、山口市(吉田・白石構内)、宇部市(小串・常盤構内)、光市(光構内)の県内各市に分散しているが、各構内は「周知の埋蔵文化財包蔵地」内、つまり遺跡の上に立地している。各構内の様相を概観すると、吉田構内は縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての全時代を網羅する複合集落遺跡であり、官衙遺跡としても著名である吉田遺跡内に、白石構内は弥生時代から古墳時代を中心とした集落遺跡である白石遺跡内に、小串・常盤構内は旧石器時代から江戸時代にかけての遺物を包含する山口大学医学部構内遺跡内・山口大学工学部構内遺跡内に、光構内は縄文時代から江戸時代にかけての集落遺跡・遺物散布地である御手洗遺跡と月待山遺跡にまたがり立地している。

このような環境のもと、山口大学埋蔵文化財資料館は、山口大学構内に埋存する貴重な埋蔵文化財の保護・調査・研究・活用する施設として昭和52年(1977)に竣工し、昭和53年(1978)に構内遺跡調査要綱(埋蔵文化財資料館規則など)が制定、昭和54年(1979)に教職員が配置されて以降、その重責を担い続けている。当館の平成29・30年度の調査体制は以下の通りである。

まず、各構内において地下掘削を伴う工事が立案・計画された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において事業計画を確認した後、文化財保護法の諸手続のもと、山口大学各構内が所在する地方公共団体(山口県および各市)の指導により、埋蔵文化財保護の観点から本発掘・予備発掘・立会の3

表4 平成29年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	面積(m <sup>2</sup> )	調査期間	本書掲載頁
本 基盤 予備 整備	福利厚生施設新営工事	吉田	M-17・18	1,100	2月22日～10月25日	25-105
	福利厚生施設新営工事	吉田	M-17・18	149	1月15～31日	21-24
	教育学部附屬特別支援学校ガス管引替工事	吉田	C-21 D-20・21	41.5	7月24・25日	106
立会	解剖実習棟外環境整備工事	吉田	R-19	40.3	11月6・7日	107
	環境整備(ため池5)雨水改修工事	吉田	O-6 K-10 L-10	18.5	11月15・24日	108
	理学部1号駆動輪場設置工事	吉田	N-20	3.8	3月13日	109

表5 平成30年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	面積(m <sup>2</sup> )	調査期間	本書掲載頁
立会	福利厚生施設新営工事(緊急)	吉田	M-18	91	3月25～26日	110-113
	福利厚生施設新営工事(設備)	吉田	M-18	20	3月27日	114
	農学部附屬農場牛舎改修工事	吉田	T-10	1.35	2月8日	115
	経済学部身障者用駐車場カーポート設置	吉田	K-21	3.6	2月20日	116
	理学部1号駆動輪場設置	吉田	P-18	64.1	3月8日	117
	実験研究棟(中高温微生物研究センター) 改修工事	吉田	O-16	21	10月22・25日 1月15日	118
	国際総合科学部誘導サイン取扱	吉田	I-16	0.85	7月12日	119
	基幹・環境整備(ブロック解削対策)工事	吉田	H-22・23 I-1-23・24 K-23	0.54	12月27日	120
	桜花爛漫植替工事	吉田	L-12	51.5	1月30日	121
	音楽サークル棟空調設備設置	吉田	G-14・15	52.4	3月7日	122
立会	教育学部附屬山口小学校運動場鉄棒改修	白石		15	2月18日	123
	総合研究棟(医学系)新営工事(機械設備工事)	小串		6	6月12日	124
	基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事	小串		75	9月5日 10月25日 2月22日	125
	基幹・環境整備(熱源設備更新)工事	小串		15	10月27日	126
	基幹・環境整備(ブロック解削対策)工事	光		7.3	3月8日	127

種の方法で厳密に調査を行っている。「周知の埋蔵文化財包蔵地」外に位置する大学関連施設（職員宿舎等）敷地内で地下掘削を伴う工事が実施される場合においても、埋蔵文化財の新規発見の可能性を考慮して、できる限り工事掘削時に館員が確認調査を行っている。これらの調査に対する平成29年度の当館の教職員配置は専任教員3名、教務補佐員1名、技術補佐員1名の計5名であり、翌平成30年度の教職員配置は専任教員2名、技術職員1名、技術補佐員1名の計4名であった。

上記の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において、遺跡のさらなる現状変更を避けるべく、工事計画、工法の変更等で現状保存が可能であるかどうか厳格な協議を行い、保存方法を選定している。また、調査成果については、地方公共団体への報告後、内業整理等を経て可能な限り迅速に発掘調査概報（年報）を刊行している。

上記の体制のもと、平成29年度に当館が実施した大学構内における調査は、表4のとおり本発掘1件、予備発掘1件、立会4件の計6件、平成30年度の調査は、表5のとおり立会15件であった。



写真33 吉田構内航空写真（南東から）

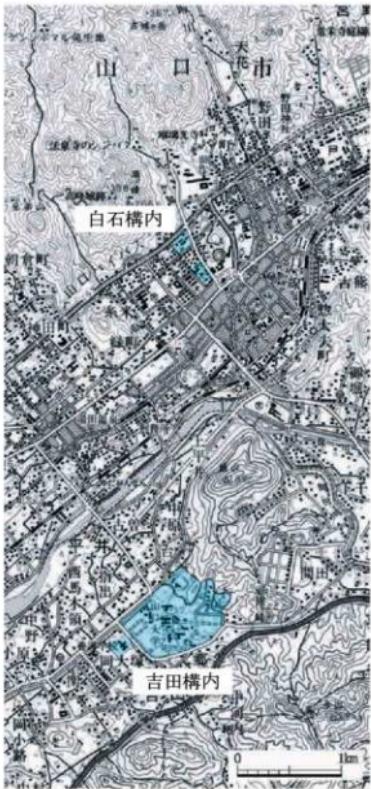


図1 山口大学吉田・白石構内位置図

写真34 白石構内（教育学部附属山口幼稚園・小学校）  
航空写真（東から）写真35 白石構内（教育学部附属山口中学校）  
航空写真（南から）

**吉田構内**(本部、人文・教育・経済・理・農の各学部;山口市吉田1677-1、教育学部附属特別支援学校;同吉田3003所在)

例年どおり、開発工事計画書は吉田構内に集中しており、平成29年度の埋蔵文化財調査は吉田構内のみで実施し、平成30年度は立会調査10件を実施した。

平成29年度後期に至り立案された福利厚生施設(山口大学生活協同組合「FAVO」)新営工事は、構内中央に設けられている「中央広場」をその対象地とするものであった。前年度本学によって提示された『キャンパススマスター・プラン2016』では、「図書館前中央広場は各学部の中央にある中心的なパブリックスペースとして有効に利用されている」と評価され、「吉田キャンパスを特色づける空間であるため、将来構想においてもパブリックスペースとして保存し、他ゾーンへの用途変更や開発を行わないスペースとして位置付ける」と明言されていたことから朝令暮改の感があったが、埋蔵文化財保護手続きを経て、平成30年1月より予備発掘調査を開始した。その結果、堅穴式住居跡とみられる大型造構の一部をはじめ多数の遺構が検出されたため、埋蔵文化財資料館専門委員会にて開発計画変更の可否を審議したが、結論を得なかつたため、専門委員会としては遺跡の保存を提言しつつも本学執行部にその最終判断を委ねた。臨時役員会が開催され、審議の結果当初計画通りの開発が決定されたことから、2月末より開発域全体を対象域とする本発掘調査に切り替えることとなった。調査は平成30年度後期まで及び、古墳時代中期の方形堅穴式住居跡4棟をはじめ、掘立柱建物跡、土壙、溝、ピット、縄文時代の埋没河川、風倒木痕など多数の遺構が確認された。特筆すべき成果としては、4号堅穴式住居跡から出土した初期須恵器が挙げられる。初期須恵器は既往調査でも散見されており、吉田構内が立地する平川地区が、山口県内でも最初期に須恵器を導入する地域の一つであることが再確認された。4号堅穴式住居跡に対しては、山口大学生活協同組合の厚意により、新規建物の設計変更が行われ、埋め戻し保存が行われることとなった。立会調査を実施した4件では、埋蔵文化財に支障が生じなかつた。

平成30年度で埋蔵文化財保護上問題となつたのは、やはり福利厚生施設新営工事であった。山口大学生活協同組合により平成29年12月中に行われていた設計変更(地中梁追加)が当館に伝えられておらず、結果虚偽の文化財保護法書類の提出、遺跡破壊に結びついた。工事中に遺跡破壊を確認した当館により緊急立会調査が実施され、部分的な記録保存が行われたが、本学の工事計画窓口となつた本学関係部局には猛省を促したい。その他の立会調査では埋蔵文化財の支障を確認していない。

**白石構内**(教育学部附属山口幼稚園;山口市白石三丁目1-2、同山口小学校;白石三丁目1-1、同山口中学校;白石一丁目9-1所在)

平成30年度に立会調査1件を実施したが、埋蔵文化財に支障は生じなかつた。

**小串構内**(医学部、同附属病院;宇部市南小串1丁目1-1)

平成30年度に立会調査3件を実施した。開発規模が大きく工事が長期間に及ぶ基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事に対する埋蔵文化財調査は平成26年度から開始されている。同年度に開発域北西部にて実施した予備発掘調査では、現地表下2.5mに堆積する旧海底面(汽水域貝堆積層)から縄文土器と石錐が出土しており、同地点の西側にて平成27年度に実施した関連工事(自家発電設備工事)に伴う立会調査では、現地表下3mに堆積する旧海底面(汽水域貝堆積層)から弥生土器と石錐が出土している。平成30年度の立会調査は開発域の東部を中心にして実施したが、掘削深度が深いことから、安全上土層断面観察に止めた。他の2件の工事掘削は造成土または近世客土内に収まつた。

**常盤構内**(工学部;宇部市常盤台2丁目16-1、尾山宿舎;同上野中町2658-3所在)

平成29・30年度中に土地の掘削を伴う工事計画は立案されなかつた。

**光構内**(教育学部附属光小学校、同光中学校;光市宝積8丁目4番1号)

平成30年度に立会調査1件を実施したが、埋蔵文化財に支障は生じなかつた。



図2 小串・常盤構内位置図



写真36 小串構内航空写真（南東から）



写真37 常盤構内航空写真（南から）



写真38 光構内航空写真（北東から）

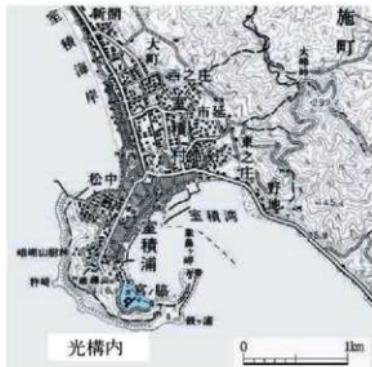


図3 光構内位置図

## 第2節 平成29年度 吉田構内(吉田遺跡)の調査

### 1. 福利厚生施設新設工事に伴う予備発掘調査

調査地区 吉田構内M-17・18区

調査面積 149m<sup>2</sup>

調査期間 平成30年1月15日～1月31日

調査担当 横山成己

#### 調査結果

##### (1) 調査の経緯(図4、写真39・40)

平成29年度第4回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成29年11月8日(火)開催)において、総合図書館南側の中央広場東側を対象地とした福利厚生施設の新設計画が提出された。

工事計画地周辺については、本学吉田地区移転時に、総合図書館1号館および農学部・共同獣医学部校舎、理学部校舎がいずれも埋蔵文化財調査を実施しないまま建設されたため、計画地の地下の様相も予測の付かない状況であった。その一方で、やや距離が離れるものの、総合図書館2号館・3号館、獣医学研究科棟建設時の調査では自然河川が検出されており、その延長部分が予定地まで延びている可能性も考えられた。また、開発における基礎掘削が地下1.5mと深く、造構面に抵触することも十分予測されることから、初期対応として予備発掘調査を実施し、当該地の地下の状況を確認することが提案され、承認された。

#### 【註】

- 1) 河村吉行(1985)「中央図書館増築予定地M-16区の発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅱ』、山口
- 2) 横山成己(2016)「図書館改修工事及び環境整備(図書館周回道路迂回)工事に伴う本発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』、山口
- 3) 豊谷和之(1994)「吉田構内農学部連合獣医学科棟新設に伴う発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X』、山口



図4 調査区位置図



写真 39 調査地点遠景(北西から)



写真 40 平成18年(2006)当時の中央広場  
(南から)

## (2) 調査の経過

平成30年1月15日(月)から16日(火)にかけて、調査区域の仮囲いおよび仮設ハウスの設置を行った。19日(金)に広場北東部の東屋を撤去し、23日(火)に開発予定域の北端と東端で、南北と東西方向に幅2.5mの調査区をL字形に配し、調査を開始した。重機掘削を23日(火)から25日(木)の3日間で行い、26日(金)から31日(水)の4日間で調査区断面を精査し、遺構の検出を行った。

## (3) 調査の成果(写真41~49)

調査の結果、南北トレンチでは現地表下1mにて、東西トレンチでは西端部で現地表下1.3mにて多数の遺構を確認した。開発予定地全域に遺構が埋存する可能性が高く、予定建物基礎掘削深度より浅い位置での検出であったため、記録作業を開始する前に埋蔵文化財資料館専門委員会(第6回 2月8日(木)開催)を開催し、今後の埋蔵文化財保護対応について審議することとなった。専門委員会では、以下の成果を報告した。

### 1. 旧地形について

当該地の旧来の地形は、南東方向に高く、北西方向に向かい降下している可能性が高い。

基本層序を見ると、南北トレンチ南側は旧耕土直下が地山であり(写真44)、耕地化に際し大きく削平を受けていることが分かる。北西に向かうほど地山は降下しており、耕土下に敷く床土の厚みを増加させることにより水田面の水平を保っている。ただし、東西トレンチ(長さ30m)で東端部と西端部の高低差が約30cmであることから、1%勾配程度の緩傾斜で地山が降下しているものと推測される。

### 2. 遺構面について

上記の通り、開発予定地の南東部は大きく削平を受けていることから、黄褐色シルト質の地山が遺構検出面となる(写真46)が、南北トレンチ北端部から東西トレンチ全域にかけて地山上に褐色シルト質の堆積層が遺存しており(写真45)、遺構は褐色層の上面から掘り込まれている(第1遺構面 写真47)。東西トレンチ北壁側にサブトレンチを設け、地山までの深さを確認したが、褐色シルト層上面からではなく、地山上面から掘り込まれた遺構も確認されることから、その多寡は不明であるものの、地山を検出面とする遺構も存在することは確実である(第2遺構面)。

### 3. 遺構について

遺構は調査区全域に分布するが、大きく削平を受けている開発予定地の南東部は比較的少ない。

遺構の性格に関しては調査区幅が狭小であること、また遺構を掘削していないことから断定はできないが、南北トレンチ中央北よりに検出した遺構は方形プランの堅穴式住居跡である可能性が高い(写真48)。径15~20cmの円形ピットは柱穴である可能性を指摘できる。径5cm程度の円形遺構(杭跡か)は東西トレンチの第1遺構面に顕著に認められる。

### 4. 遺構の時期について

上記の堅穴式住居跡の可能性がある遺構より、古墳時代前半期と見られる土師器甕が確認されている(写真49)。当遺構は、第1遺構面が遺存しない地点であることから、元来第1・第2遺構面のどちらに所属していたか不明であるが、遺構面を覆う床土に含まれる遺物の多くが弥生時代から古墳時代にかけてのものであることから、遺構の大多数は当該期に所属するものと予想される。

審議では併せて吉田遺跡の中でも重要な地点となることが予想されること、周辺が文化財保護対応無しに破壊されているため、残された数少ない遺構群であることを伝えた上で、以下の選択肢を提示した。

A. 計画地に80cmから100cmの盛土を施す→本発掘調査不要で遺構群を完全に保存できる

- B. 構内で埋蔵文化財調査の必要ない場所に計画地を変更→本発掘調査不要で遺構群を完全に保存できる
- C. 計画地を中央広場の西側にずらす→既設の噴水プールによりすでに遺跡が破壊されている部分が多いと推定されるため、本発掘調査が比較的小規模で済み、遺構の破壊範囲も減少する
- D. 初計画地の本発掘調査を行い、遺構群を記録保存する→計画どおり開発できるが、遺構群は完全に破壊される

当館および本学考古学専門委員は現地保存可能なA・B案、最低限でもC案を支持したが、新営施設の建設・運営を担う山口大学生活協同組合(陪席員)はD案を支持したたことから、当委員会としては遺跡の保護を働きかけるが、最終的な判断は本学執行部に委ねられることとなった。



写真 41 予備発掘調査区全景 (北から)



写真 42 南北トレンチ全景 (北から)



写真 43 東西トレンチ近景 (南東から)



写真44 南北トレンチ中部土層断面 (東から)



写真45 東西トレンチ東部土層断面 (南から)



写真46 南北トレンチ中部遺構検出状況 (西から)



写真47 東西トレンチ西部遺構検出状況 (東から)



写真48 方形竪穴式住居跡か (西から)



写真49 遺物出土状況 (東から)

## 2. 福利厚生施設新嘗工事に伴う本発掘調査

調査地区 吉田構内M-17・18区

調査面積 1,100 m<sup>2</sup>

調査期間 平成30年2月22日～

令和元年10月25日

調査担当 横山成己 田畠直彦

水久保祥子

## 調査結果

## (1) 調査の経緯(図5)

2月8日(木)に開催された平成29年度第6回埋蔵文化財資料館専門委員会の審議を受け、2月20日(火)に本学臨時役員会が開催されることとなった。

臨時役員会では、専門委員会委員長(当館館長: 学術情報担当副学長)より専門委員会の審議報告とともに遺跡を最大限保護するよう提言があったが、審議の結果、開発を予定通り進めること、工事により破壊される遺構群については、本発掘調査により記録保存を行うことが決定された。臨時役員会の開催はわずか5分であったと伝え聞く。

以上の経緯を経て、工事計画地全域(約1,100 m<sup>2</sup>)を対象に本発掘調査を実施する運びとなった。

(横山)

## (2) 調査の経過(写真50・51)

臨時役員会の決議内容は事前に予想されたことから、直ちに遺跡の記録保存を目的とした本発掘調



図5 調査区位置図



写真 50 予備発掘調査残土排出作業(南西から)



写真 51 本発掘調査重機掘削(北から)

査に移行できるよう準備を行っていたこともあり、2月22日(木)には本発掘調査に移行した。以後、調査終了までのスケジュールは以下の通りであった。

- 2月22日(木)～2月23日(金) 仮囲い(安全フェンス)の付け替えと仮設事務所の移転  
2月27日(火) 予備発掘調査の残土を正門横臨時駐車場に搬出(写真50)  
2月28日(水)～3月1日(木) 調査範囲の芝生除去・マウンド状の高まりの根切り  
3月2日(金)～3月30日(金) 重機掘削と排土の搬出(写真51)  
3月26日(月) 第7回埋蔵文化財資料館専門委員会にて調査状況を説明(写真84)  
4月2日(月)～4月10日(火) 遺構検出  
4月12日(木)～5月8日(火) 調査区南西部整地土・暗渠等擾乱坑掘削。  
5月9日(水)～5月11日(金) 遺構検出  
5月12日(土) 遺構検出写真撮影  
5月14日(月)～5月16日(水) 調査区北部遺物包含層掘削・遺構掘削開始(調査区南西部から)  
　　遺構配置図(平板測量 S=1/50)作成開始  
5月17日(木) 調査区北部遺物包含層下の遺構検出写真撮影(第1遺構面)  
5月21日(月)～6月5日(火) 調査区北部第1遺構面遺構掘削  
6月7日(木)～6月12日(火) 第1遺構面平面図(S=1/20)作成・第1遺構面清掃(写真85)  
6月13日(水) 第1遺構面完掘写真撮影  
6月14日(木)～6月21日(木) 第1遺構面基盤層掘削・第2遺構面検出  
6月22日(金) 第2遺構面検出写真撮影(写真86)  
6月25日(月)～7月25日(水) 壴穴住居跡4棟をはじめとする遺構掘削(写真87)  
7月9日(月)より第2遺構面平面図(S=1/20)作成開始  
7月26日(木)～7月27日(金) 現地説明会準備  
7月28日(土) 10時より現地説明会開催 ※参加者60名(写真88・89)  
7月30日(月)～8月10日(金) 全遺構掘削完了  
8月20日(月)～8月24日(金) 完掘写真撮影準備 ※撮影は台風のため翌週に延期  
8月27日(月)～8月30日(木) 完掘写真撮影(写真55・56)  
8月31日(金)～9月14日(金) 各種測量(平面図・調査区断面図等)  
9月18日(火)～10月25日(木) 埋め戻し・仮囲い(安全フェンス)と仮設事務所撤去

(横山)

### (3) 本学移転前の地形と基本層序(図6・7、写真52～83)

予備発掘調査により当地は大きく削平を受けていることが判明したが、ここで本学移転前の地形について確認しておく。

吉田構内の地形は、北部から南東部にかけての低丘陵地と、北西部から南部にかけての沖積低地とに大別される。本学移転前は総合図書館北側(大学事務局1・2号館)周辺などにやや家屋が集中(坂本集落)するのみで、低丘陵地には棚田が、沖積低地部には区画された水田が整然と設けられていた(写真53)。今回開発予定地となった中央広場および総合図書館は、低丘陵地から沖積低地へと変換する境界部、水田区画のやや乱れた場所に位置する(写真52)。総合図書館3号館(総合図書館北東部)新營に伴う発掘調査では、東から西に走る河川が確認されていることから、東南から北西に派生する



写真 52 本学吉田地区統合移転時の状況（上空から 縦上が北西）

農学部・共同獣医学部本館、共通教育棟、理学部3号館、第1体育館が竣工しており、動物医療センター、様野寮1期建物が建設中のようだ。農学部附属農場本館が整地状態であることから、昭和41年（1966）夏～秋頃の写真と推定される。



写真 53 本学吉田地区移転前の地割状況（上空から 縦上が北西）

動物医療センターが立地する丘陵、もしくはその南に派生する農学部附属農場飼料園や権野寮(女子学生寮)が立地する丘陵端部に位置するものとみられる。

発掘調査により確認された水田痕跡を見ると、調査区の中央やや南西側で、南東から北西に走る段差が検出されたことから、元來は小区画棚田であったことが分かる。その後低地側の水田は整地土により埋め立てられ、1枚の水田区画に造り直されている。調査区南東端部を北東-南西に、南拡張区を北西-南東に、北拡張区を北東-南西に走る粗朶暗渠は、水田区画に伴うものであろう。南西拡張区に南東-北西に走る畦畔は、統合移転前航空写真に写る水田境界部と見なされる。

一方、水田区画に対し斜交して走る暗渠には土管(有孔陶管)が用いられている。これは昭和52年度末に計画された環境整備工事の一環として中央広場に噴水プールが設けられた際に、水捌け改善のため埋められたものである。噴水プールにより4号竪穴式住居跡の一部が、土管暗渠により1号竪穴式住居跡の一部と縄文時代から弥生時代の遺物を含む自然河川(NR1)の一部が破壊されている。山口大学吉田遺跡調査団の統合移転に伴う調査終了から、当館に人員が配置され、構内遺跡調査を担い始めるまでの期間に実施された工事であり、慚愧の念に堪えない。

基本層序については、調査区東壁は共同溝埋め戻し土のため記録できなかったが、最上部の盛土は土地の水平を保つため、東部に薄く(約60cm)、西部に厚く(約100cm)施されている。盛土の下位には旧耕土と旧床土があり、調査区南西部から南西拡張区の棚田が下がる部分には整地土が盛られている。調査区北部中央から北西拡張区にかけては遺物包含層が遺存し、上下に分層可能である。上層(北側遺物包含層1)は黄褐色(2.5Y5/4)シルトで、調査区北部中央にしか遺存していない(写真62の左下の白色土部分)。下層(北側遺物包含層2)は黒褐色(10YR3/2)砂質シルトで、北部中央から北西拡張区まで遺存する。当包含層は南東から北西方向に延びる低丘陵の北東部、総合図書館3号館敷地を西に走る自然河川に向かい降下する傾斜面に堆積したものである。上下層に含まれる遺物はいずれも弥生時代から古代にかけての土器で、上層には少量の陶器が見られたが上位の旧床土に由来する可能性が高く、明確な時期差は見いだせない。南西拡張区南西部にも褐灰色(10YR4/1)極細砂混シルトの遺物包含層が形成されていた。これは縄文時代からの河川がほぼ埋没し、窪地となった地点に堆積したものであり、河川埋土最上層と呼び変えても差し支えないものだが、含まれている遺物は北側遺物包含層同様であり、両者をまたぎ接合した須恵器もあった(図32の83)ことから、ここでは遺物包含層として識別した。

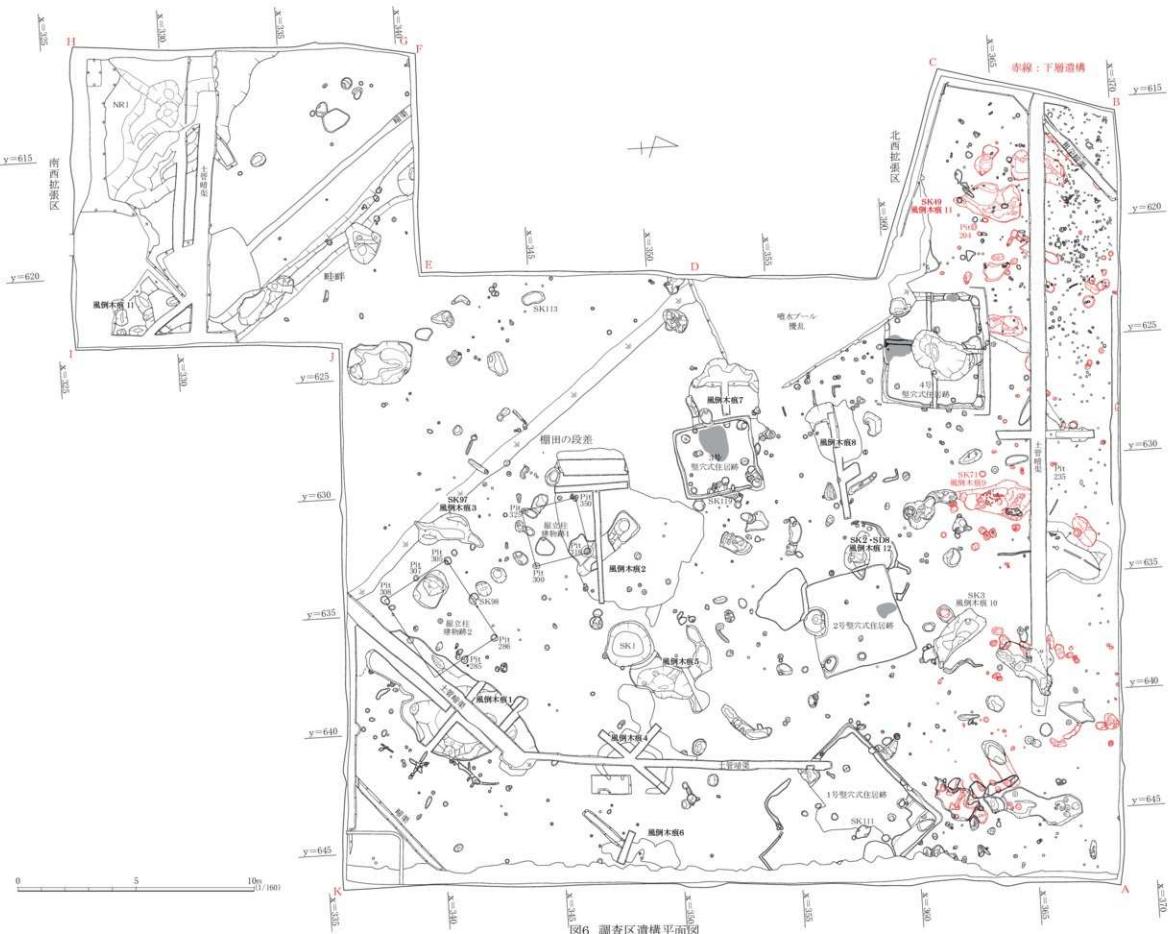
予備発掘調査成果でも述べたが、調査区北部の地山上に層厚15~20cmのシルト層(黄褐色(2.5Y5/3)極細砂混粘土質シルト)が堆積しており、第1遺構面の基盤層となっていた。この堆積層に含まれていた遺物は弥生土器で、堆積の下限時期の一端を示している。以南は削平により地山上面が遺構検出面(第2遺構面)となっているが、遺構検出状況を見ると、4号竪穴式住居跡が上層から掘り込まれた遺構であり、下層遺構が希薄であること、明確な遺物がほぼ出土していないことから、検出された人為的遺構の大多数は第1遺構面に所属するものと推定される。このため、発掘調査では第1遺構面下の地山検出遺構と以南の地山検出遺構を「第2遺構面の遺構」として取り扱ったが、混乱を來す恐れがあることから、調査区遺構平面図では北部の下層遺構のみを下層遺構として赤線で示した(図6)。

(横山)

## 【註】

1) 横山成己(2016)「図書館改修工事及び環境整備(図書館周辺道路迂回)工事に伴う本発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』、山口

2) Pit203は下層遺構であり、上器底部片が出土しているものの、第1基盤層の土質が遺構埋土と酷似しており(写真58・59、写真61・62)、遺構検出が困難であったことから、上層遺構の見逃しである可能性が高いと考えている。



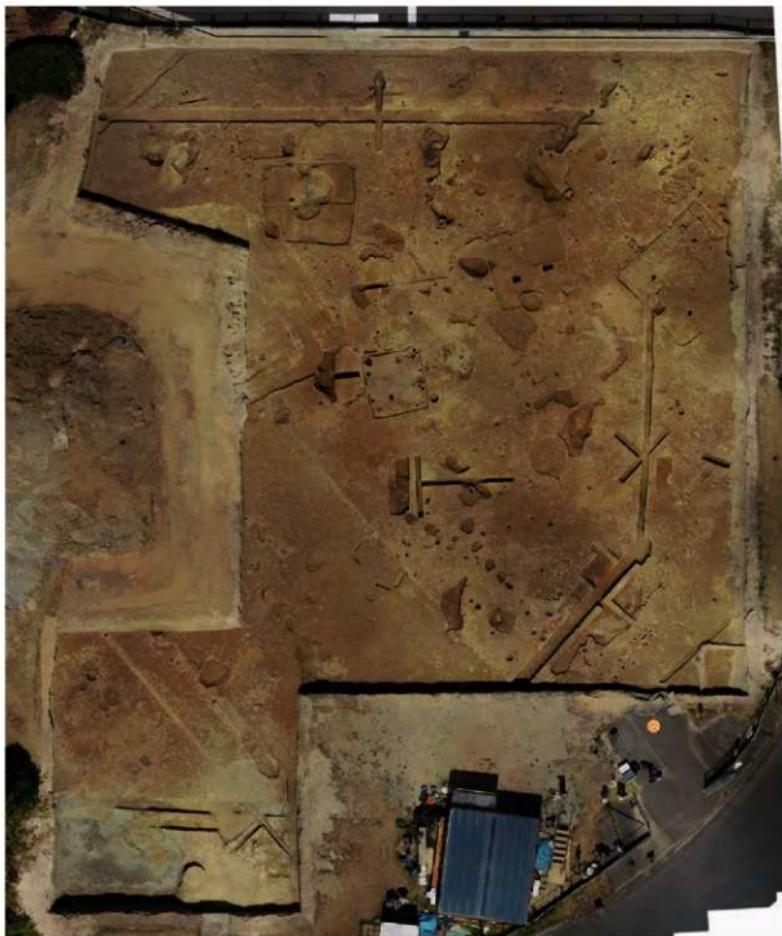


写真 54 遺構完掘状況（上空から ※上が北）



写真 55 ドローンによる撮影①(南東から)



写真 56 ドローンによる撮影②(南から)



写真 57 遺構検出状況（北から）



写真 58 調査区北東部遺構検出状況（北東から）



写真 59 調査区北西部遺構検出状況（南東から）



写真 60 調査区南西部遺構検出状況（北東から）



写真 61 調査区北西部遺構検出状況（南から）



写真 62 調査区北部遺構検出状況（南西から）



写真 63 調査区中央部遺構検出状況（北西から）



写真 64 調査区東部遺構検出状況（南西から）



写真 65 調査区中央部遺構検出状況（東から）



写真 66 南西拡張区遺構検出状況（北から）



写真 67 調査区北部第1遺構面遺構完掘状況（南西から）



写真 68 調査区北部第1遺構面遺構完掘状況（南西から）



写真 69 遺構完掘状況（北西から）



写真 70 遺構完掘状況（北から）



写真 71 遺構完掘状況（南から）



写真 72 遺構完掘状況（南東から）



写真 73 遺構完掘状況（北西から）



写真 74 南西拡張区遺構完掘状況（東から）

## 調査区北堀

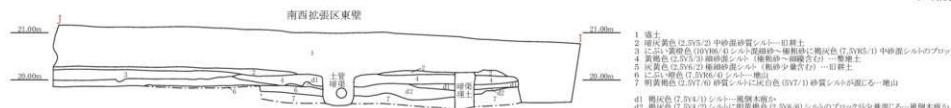
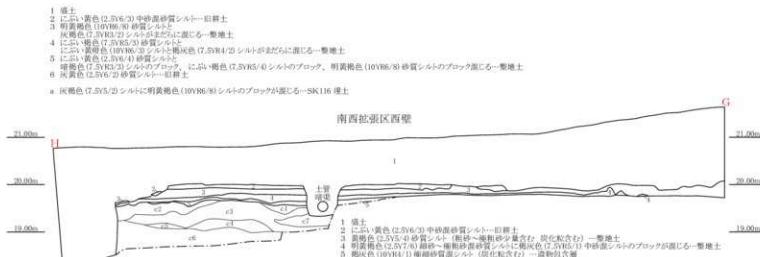
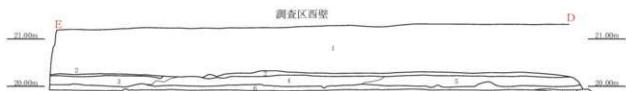
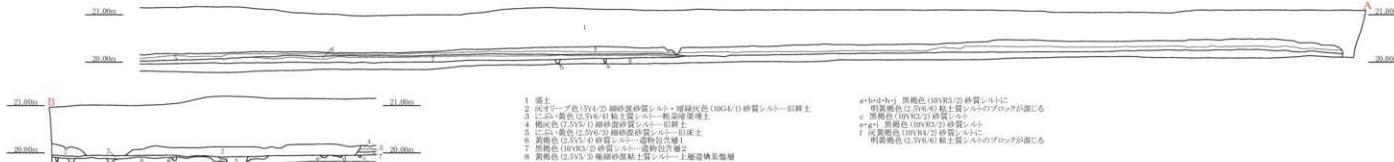
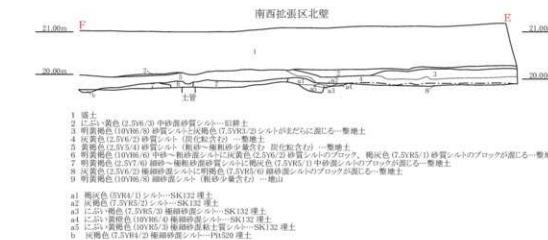


図7 調査区断面図

a. 灰褐色(2,5V6/2)堅砂質シルト  
b. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
c. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
d. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
e. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
f. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
g. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト



a. 灰褐色(2,5V6/2)堅砂質シルト  
b. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
c. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
d. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
e. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
f. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
g. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
h. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
i. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
j. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
k. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
l. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
m. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
n. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
o. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト  
p. 黑褐色(10V4/2)砂質シルト



写真 75 調査区北壁土層断面（南東から）



写真 76 調査区北壁土層断面（南西から）



写真 77 北西拡張区西壁土層断面（東から）



写真 78 調査区西壁土層断面（東から）



写真 79 南西拡張区北壁土層断面（南から）



写真 80 南西拡張区西壁土層断面（北東から）



写真 81 南西塗張区東壁土層断面（西から）



写真 82 調査区南壁土層断面（北西から）



写真 83 調査区南壁土層断面と博物館実務実習の模様（北東から）



写真 84 第7回埋蔵文化財資料館専門委員会（北から）



写真 85 6月 12日作業風景（西から）



写真 86 6月 22日作業風景（北西から）



写真 87 7月 20日作業風景（東から）



写真 88 7月 28日現地説明会の模様（東から）



写真 89 7月 28日現地説明会の模様（南西から）

## (4) 遺構

調査区全域で検出した遺構の総数は、竪穴式住居跡4棟、掘立柱建物跡2棟、土壙137基、ピット525基、溝48条、自然河川1条、風倒木痕13箇所である。ここでは、代表的な遺構を取りあげる。

## [竪穴式住居跡]

## 1号竪穴式住居跡(図8~10、写真90~106)

検出された4棟の竪穴式住居跡は調査区の中央から北側に偏在する。その中で1号竪穴式住居跡は最も東に立地しており、予備発掘調査時に部分的に検出されていたが(北東壁部分:写真48・49)、推定通り竪穴式住居跡であることが確認された。南東部が大きく削平を受けており、住居内埋土は遺存せず、わずかに地山に壁溝と柱穴(Pit)が遺存する状態であった(写真90・91)。この内SK111とPit349、523、524は住居に伴わない遺構で、SK110とPit435、436は不明であるが住居に伴わない可能性が高い。北西部に残る埋土は薄く、2~5cmほどであり(図9、写真92)、遺物は主にその上面にて出土した。

住居の平面形に関しては、削平を受けている南東部の解釈が問題となる。住居内土壙SK3の南東に続く溝は位置と方向から1号竪穴式住居跡の壁溝と考えられるが、その東に位置するSD43はそれに連続していない。遺構の重複(住居の建て替え)とも考えられるが、明確な切り合い関係を示しておらず、他に対応する溝等が確認できること、埋土の土質も共通することから、ここでは南東側を拡張させた方形竪穴式住居跡と見なしておきたい。

住居の規模は、壁溝外端間の距離で北東-南西は572cm、北西-南東は520cm、拡張部を含めると672cmを測る。住居の方向を見ると、検出された他の3棟の南北軸はほぼ真北を向くか、北を軽く東西に振るのに対し、1号住居跡はN40°Wとなっている。

住居の構造に関しては、住居平面形を振り込んだ後に壁溝を設けたのであろうが、住居北部については何らかの理由で一度地山を削った後に埋め戻して床面を整え、壁溝を振り込んでいる(写真100)。北西壁溝と南西壁溝の内部外端には壁板を立てたとみられる溝が設けられていた(写真96)が、他の壁溝内には確認できなかった。住居内Pit5・6はその側柱であろう。主柱は4本であり、主柱穴1-2間は28.2cm、主柱穴1-3間は263cmを測る。主柱穴4は共同溝の掘削により一部を残し大破している(写真99)。主柱穴の深さは1が53cm(写真93)、2が54cm(写真94)、3が51cm(写真95)を測る。径は1が上部で15cm、下部で9cm、2が上部で14cm、下部で9cm、3が上部で18cm、下部で8cmを測る。抜き取り痕は見られず、柱は住居廃棄時に上部で切断されたのだろう。床面の標高は20.15mを測る。なお、住居内に造り付け窓や地床炉などは確認されていない。

SK3は南西壁の中央やや南東よりに設けられた住居内土壙である。中央広場整備のための土管暗渠埋設工事により遺構の西側が破壊されており、北西側壁溝との関係が不明確となっているものの、遺存部を見ると壁溝を振り込んで設けられているように思われる。南東側壁溝とは接続および切り合い関係にないことから、建物入り口に設けられた住居廃棄時の祭祀遺構である可能性が考えられる。一辺68cm程度の平面隅丸方形土壙であったようで、内部から完形の土師器壺および脚柱部を人為的に欠失させた土師器高壺、高壺底部に載せられた状態で口縁を欠失した土師器壺<sup>51</sup>が出土した(図9、写真98)。遺構の深さは最深部で28cmを測る。なお、壺の上位には土師器高壺が横倒しの状態で出土した(写真97)、削平时に上半部が削られており、風化が著しかったこともあり、取りあげ洗浄後の器形復元が不可能であった。

他の遺物は主に住居跡北部から出土している(写真91右上)。土師器壺(図8の8)は全周する口縁部のみ倒置状態で遺存しており、体部は一部を残し(図8の9)削平时に失われたと推定される。また、土師

平成29年度 吉田構内(吉田遺跡)の調査

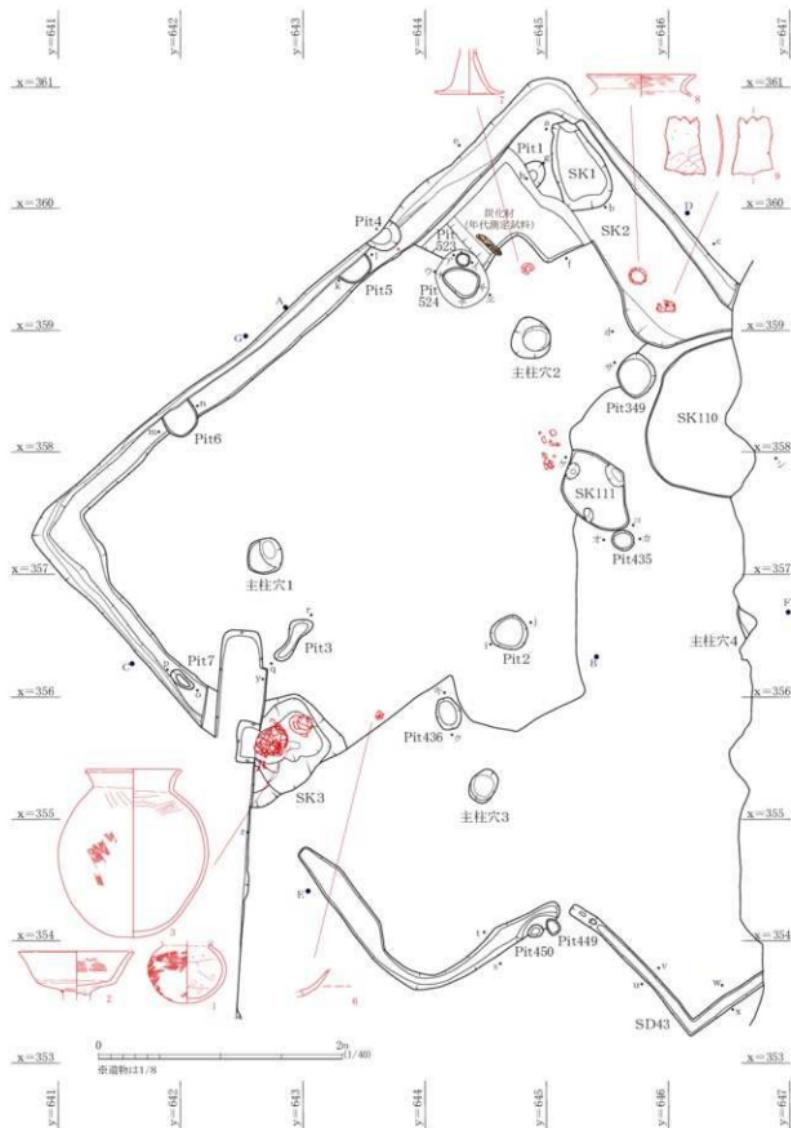


図8 1号堅穴式住居跡平面図

平成29年度 吉田構内(吉田遺跡)の調査

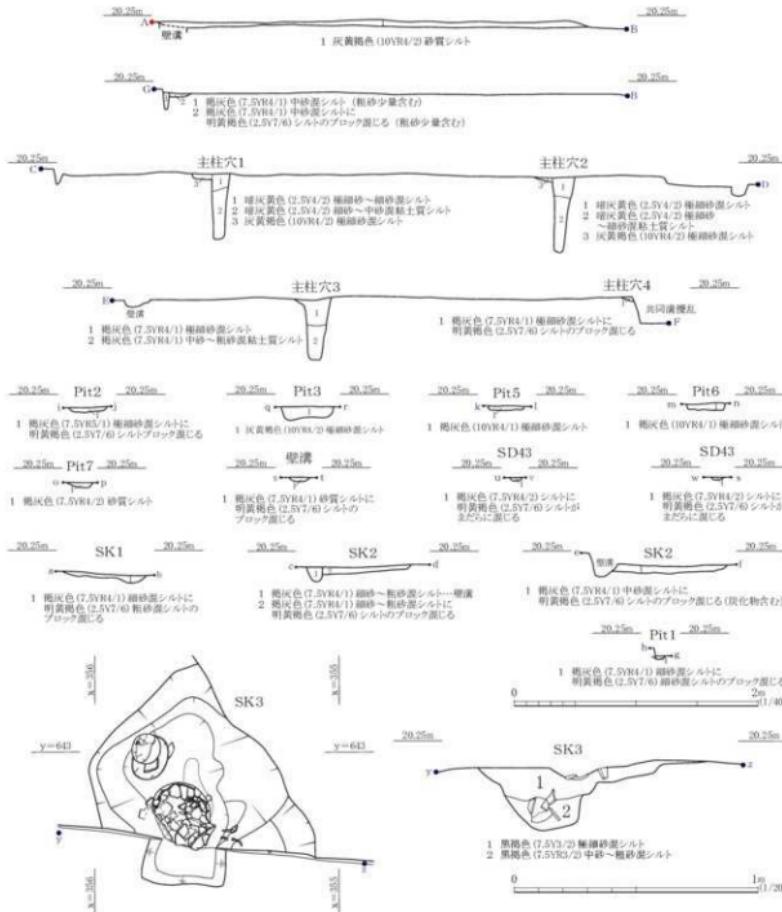


図9 1号竪穴式住居跡遺構平面図・断面図

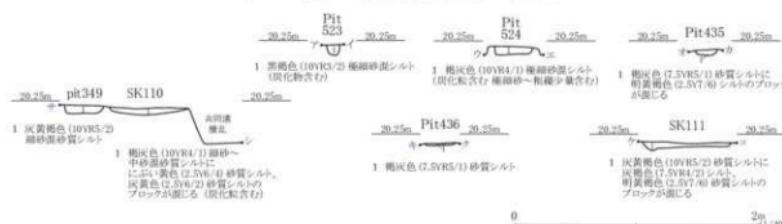


図10 1号竪穴式住居跡に伴わない遺構断面図



写真 90 1号竪穴式住居跡検出状況（南東から）



写真 91 1号竪穴式住居跡遺物出土状況（南東から）



写真 92 1号竪穴式住居跡埋土半裁状況（南西から）



写真 93 主柱穴1半裁状況（南東から）



写真 94 主柱穴2半裁状況（南東から）



写真 95 主柱3穴半裁状況（南東から）



写真 96 北西面壁溝断面（南西から）



写真 97 SK3土層断面 (西から)



写真 98 SK3遺物出土状況 (南東から)



写真 99 主柱穴4半裁状況 (南東から)



写真 100 SK1・2半裁状況 (南西から)



写真 101 Pit2半裁状況 (南東から)



写真 102 Pit3半裁状況 (南東から)

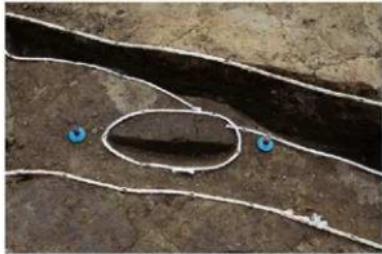


写真 103 Pit7半裁状況 (南東から)



写真 104 SK110半裁状況 (南西から)



写真 105 1号竪穴式住居跡完掘状況（南東から）



写真 106 1号竪穴式住居跡完掘状況（北東から）

器高坏脚柱部(図8の7)の西隣に炭化材が出土したことから、渡邊正巳氏(文化財調査コンサルタント株式会社)に年代測定と樹種同定を委託した。結果については、本書の付篇に掲載している。  
**2号竪穴式住居跡(図12、写真107~118)**

1号竪穴式住居跡西角部の東約2.4mに検出された住居跡である。検出時に住居内埋土と推定される土(暗褐色(10YR3/3)シルト)に部分的に地山土(黄褐色(10YR5/4)シルトが混ざる)が認められたため(写真58・59)、四分法にて掘削を行ったが、結果的に埋土や張床ではなく、荒れた地山(床面)と認定されるもので、後世の削平により床面だけが遺存した住居跡であることが判明した。南壁の中央やや西側がSK4により切られているほかは遺存状態が良好である。

平面形は北東隅部が不整形にやや北に拡張した方形を呈しており、南北軸はN14°Wである。規模は西壁で347cm、東壁で405cm、南壁で398cmを測り、やや小型の住居跡である。

住居の構造に関しては、壁溝を設けていないが他の住居跡と異なる特徴と言える。主柱は住居のほぼ中央、東西2箇所(主柱穴1・2)に設けられている。主柱穴1-2間は168cmを測り、深さは1が59.5cm、2が49cmを測る(写真110・111)。径は1が上部で16cm、下部で8cm、2が上部で17cm、下部は掘削時に壁が崩落したらしく不整円形となっており、18cmを測る。主柱穴1の底面に土器(土師器壺;図11の11)が存在したことから、2とともに地山ごと半裁して記録を行った(写真112・113)。1号竪穴式住居跡同様抜き取り痕は見られず、柱は住居廃棄時に上部で切断したのであろう。床面の標高は、1号竪穴式住居跡と変わらず20.15mを測る。その他の住居内遺構(SK1及びPit1~4)は、住居に伴うものかどうか不明であり、遺物も出土していない(写真114~117)。

北壁側のほぼ中央には長さ86cm、幅62cmの楕円形状に焼土が遺存していた。平面的な広がりであり、炉石なども確認されなかつたが地床炉とみておく。明確な建物の入り口施設は検出されなかつたが、地床炉の位置、主柱穴の配置から、南壁側に入り口が存在したのであろう。

大きく削平を受けているためか、遺物の遺存状況は極めて不良で、住居跡北西部に散漫に検出されるに止まつた。いずれも小破片となっていたが、器種の分かるものとして土師器高坏(図11の13)と土師器甕(図11の14)が存在する。

### **3号竪穴式住居跡(図13・14、写真119~144)**

2号竪穴式住居跡の南西約5.2mに検出された住居跡である。1・2号同様に大きく削平を受けており、住居内埋土はわずかに2~6cmが遺存するのみであった(写真119・120)。遺跡の重複関係を見ると、西壁の中央やや南側で一部SK4に切られている他は、いずれも住居跡が他遺構を切る状況であった。

住居の平面形は北東隅をやや拡張させているがほぼ長方形を呈しており、南北軸はN8°Wである。規模は南北で332cm、東西で312cmを測り、4棟の中では最も小型の建物となる。

住居の構造に関しては、北壁から東壁にかけ、断面逆台形で深さが5~8cm程度の壁溝が巡らされているが、北東隅で途絶しており、間に柱穴が配されている。壁溝埋土からは土師器高坏など土器が少量出土している。住居内からはビットが多数検出されているものの、1・2号竪穴式住居跡とことなり、深い柱穴は存在しないことから、住居西隅に検出されたビットを主柱穴と判断した(図13の主柱穴1~4)。主柱穴1-3間は246cm、主柱穴2-3間は254cm、主柱穴2-4間は220cm、主柱穴1-4間は262cmを測る。主柱穴1の平面形は径40cmの円形を呈しており、深さ8~10cmを測る(写真125)。主柱穴2は二段掘りされたもので、上段の平面形は長軸39cm、34cmの楕円形を呈しており、下段も長軸11cm、短軸8cmの楕円形を呈している。深さは12cmを測る(写真126)。主柱穴3は住居廃棄(柱抜き取り)時に祭祀行為が行われたようで、平面形は径43cmの不整円形を呈しており、内部からは破碎した状態で1個体の土師器甕(図13

平成29年度 吉田構内(吉田道路)の調査

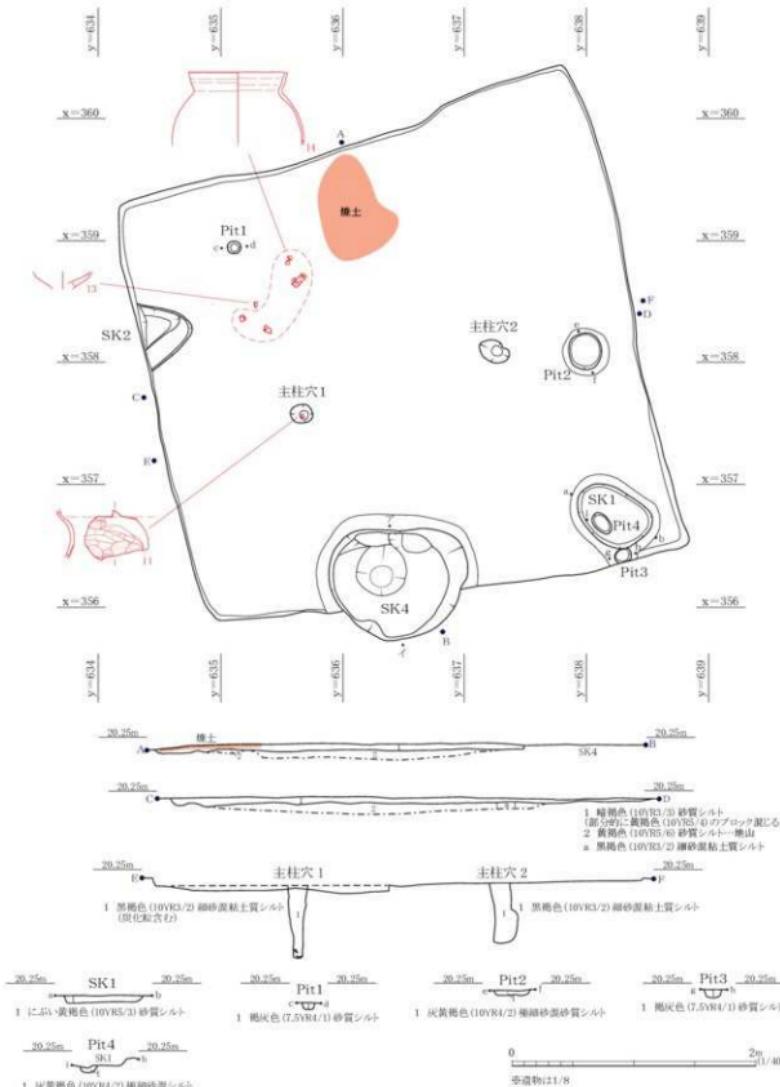


図 11 2号竪穴式住居跡平面図・断面図



図 12 2号竪穴式住居跡に伴わない遺構断面図



写真 107 2号竪穴式住居跡床面断面（南西から）



写真 108 2号竪穴式住居跡床面断面（北東から）



写真 109 2号竪穴式住居跡遺物出土状況（北西から）



写真 110 主柱穴1半裁状況（南から）



写真 111 主柱穴2半裁状況（南から）



写真 112 主柱穴1完掘状況（南から）



写真 113 主柱穴2完掘状況（南から）



写真 114 SK1・Pit4半裁状況（南西から）



写真 115 Pit1半裁状況（南から）



写真 116 Pit2半裁状況（西から）



写真 117 Pit3半裁状況（南から）



写真 118 2号竪穴式住居跡完掘状況（南東から）

の15)が出土した(写真122・123)。遺構深度は27cmを測る。主柱穴4の平面形は長軸28cm、短軸25cmの梢円形を呈しており、深さは5cmを測る(写真127)。床面の標高は、1・2号竪穴式住居跡よりわずかに低下し、20.05~20.10mを測る。

西壁のほぼ中央から床面中央にかけて、最大長152cm、最大幅118cmの範囲で焼土が遺存していた。2号竪穴式住居跡同様平面的な広がりで、掘り込みや炉石などの構造物は確認されなかったが、地床炉とみておく。焼土は西壁溝にかかっていないことから、壁溝と炉の間に何らかの構造物が存在したと推定される。Pit10(写真137)とPit13(写真140)は焼土を挟み設けられていることから、炉に関係する支柱と思われる。東壁中央部には遺構が密集しているが、建物入り口に関連する施設の可能性がある。

住居跡内遺物は希薄であったが、主柱穴1周囲の埋土中にやや集中を見せており、土師器の小型壺(図13の20)と石英塊(図13の98)が出土している(写真124)。

そのほか、発掘調査終了直後に屋内作業として焼土(炉跡)サンプルの洗浄を実施していたところ、径3mmの風化ガラス(風化滑石?)を確認した。3号竪穴式住居跡はすでに埋め戻しが進行していたが、重機により再掘削を行い、焼土全体を土糞詰めして持ち帰り、洗浄を行った。その結果、新たに小玉2点が確認された(図33、写真204)。

当住居跡については、その平面積の小ささ(10.36m<sup>2</sup>)から、検出当初より一般家屋ではなく、作業場、工房などの可能性が考えられた。調査の結果、床面西部に平面積の大きな地床炉(約1.5m<sup>2</sup>)と、他の住居跡と異なる柱構造が確認された。他の住居内遺構の配置を見ても、日常生活は困難と推定されることから、やはり住居以外の施設を想定しておきたい。

#### 4号竪穴式住居跡(図15・16、写真145~169)

3号竪穴式住居跡の北北西約5.8mに検出された住居跡である。南西隅が噴水プール設置時に破壊されているものの、丘陵の下位に設けられていたため、他の住居跡に比べると遺存状態が良く、住居壁肩部から8~15cmの深さに床面が遺存していた(写真147・148)。遺構の北半部は遺物包含層に覆われていた(写真59・62)ことから、仮に上部が削平を受けているのであれば、8世紀以降の早い段階であったと推察される。また、住居跡中央には埋土を掘り込む形でSK44が形成されている。この遺構により住居床面が大破しているのであるが、埋土に含まれていた時期の比定が可能な遺物には、当住居跡に所属していたと推定される遺物しか存在しなかったことから、住居廃絶からあまり時期をおかずの所業と考えられる。その他の周辺遺構(Pit137・138など)は、いずれも当住居が切り込む状態で検出された(写真145~147)。

住居の平面形は長方形を呈しており、南北軸はほぼ真北を向いており、N4° Eである。規模は南北で424cm、東西で489cmを測り、1号竪穴式住居跡に次ぐ大きさの建物である。

住居の構造に関しては、南壁中央と西壁の中央北側に焼土を確認した。南壁焼土は北端がSK44により削られているものの、残存長120cm、最大幅108cmの範囲に遺存しており、浅い掘り込みしか確認されなかつたが地床炉とみておく。西壁焼土は南北46cm、東西35cmの梢円形を呈している(写真154)。

破壊された南西部は不明であるが、四方の壁は上端幅20~30cm、深さ5cm程度の断面逆台形の浅い壁溝に取り囲まれている。3号竪穴式住居跡と異なり、南壁中央の炉跡や西壁の焼土は、壁溝を覆う形で壁際にまで及んでいる。南北方向の断ち割りでは、断面に壁溝を確認することができなかつたことから、壁溝は炉の手前で途絶していたものと思われる。また、SK44により半壊しているが、北壁中央には壁溝と連結する住居内土壤(SK1)が設けられている。埋土からは高坏脚柱部片(図15の21)をはじめとする土師器小片が出土している。壁溝埋土からは土師器甕口縁部など少量の土師器が出土している。

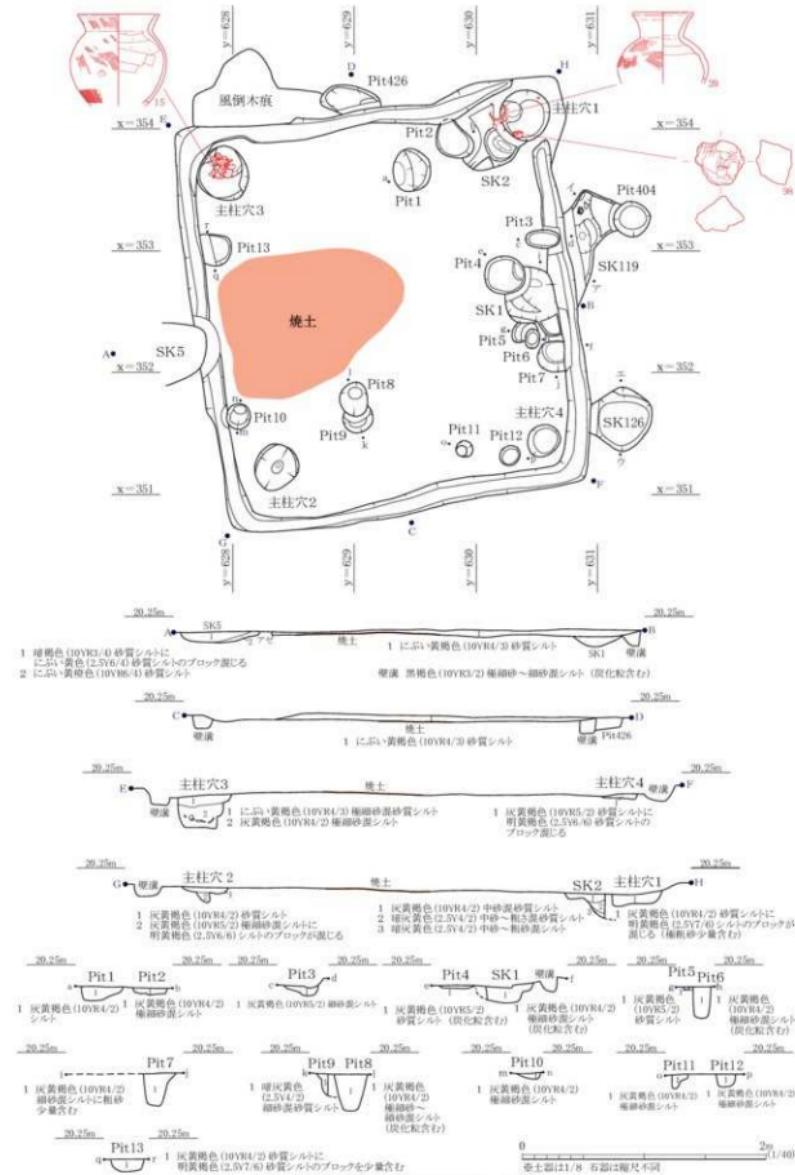


図13 3号竪式住居跡平面図・断面図



図 14 3号竪穴式住居跡に伴わない遺構断面図



写真 119 3号竪穴式住居跡埋土断面（南西から）



写真 120 3号竪穴式住居跡埋土断面（北東から）



写真 121 3号竪穴式住居跡住居内遺構検出状況（西から）



写真 122 主柱穴3半裁状況（南西から）



写真 123 主柱穴3遺物出土状況（南東から）



写真 124 住居跡北東部遺物出土状況（北東から）



写真 125 主柱穴1半裁状況（南東から）



写真 126 主柱穴2半裁状況（南東から）



写真 127 主柱穴4半裁状況（南西から）



写真 128 SK1半裁状況（南東から）



写真 129 SK2半裁状況（南西から）



写真 130 Pit1半裁状況（南東から）



写真 131 Pit2半裁状況（南東から）



写真 132 Pit3半裁状況（南から）



写真 133 Pit4半裁状況（南西から）



写真 134 Pit6半裁状況（南から）



写真 135 Pit7半裁状況（西から）



写真 136 Pit8・9半裁状況（西から）



写真 137 Pit10 半裁状況（東から）



写真 138 Pit11 半裁状況（南から）



写真 139 Pit12 半裁状況（南から）



写真 140 Pit13 半裁状況（東から）



写真 141 SK19 完掘状況（東から）



写真 142 3号竪穴式住居跡完掘状況（北東から）



写真 143 3号竪穴式住居跡完掘状況（南西から）



写真 144 3号竪穴式住居跡完掘状況（北西から）

なお、当住居跡の調査中に、山口大学生活協同組合(以下「山大生協」)より設計変更による当住居跡の埋め戻し保存が提案されたことから、南西側の壁溝の一部や壁溝内遺構(Pit8)などは未掘削のまま残すこととした。

当住居の主柱は、住居中央に東西に並んでいる。主柱穴1は南東端部をSK44により破壊されているものの、長軸40cm、短軸26cmの隅丸方形を呈しており、深さ23cmを測る(写真155)。埋土から土師器甕の体部片が出土している。主柱穴2もSK44により上部を破壊されている。遺存部は径18cmの円形を呈し、残存深度は13.5cmであるが(写真156)、穴底の標高は両者ともに19.65mを測る。主柱穴1-2間は18.2cmであり、床面の標高は、3号竪穴式住居跡よりわずかに低下し、19.9~19.95mを測る。

住居北東および北西の壁溝内に配されたPit1・3(写真157・159)や壁溝近くに配されたPit4~7(写真160~163)は副柱穴と思われる。一方で噴水プールにより破壊された住居南西部にて検出された土壌(調査では住居の副柱穴である可能性を考慮して住居内Pit2とした)は、果たして住居に伴うものであろうか。破壊により平面形態は不明瞭となっているものの、一辺80cm程度の隅丸方形を呈していたと推定され、住居床面からの深さは49cmを測る。1号竪穴式住居跡SK3や3号竪穴式住居跡主柱穴3と同様に、住居廃棄時の祭祀に関連する遺構である可能性も残すが、遺物は土師器體部片1点を見るに止まっている。

住居跡内の遺物には土師器甕と高杯、そして初期須恵器甕と高杯、石器が見られ、小破片で散乱する状態であった(図15、写真148~154)。前述したようにSK44埋土の遺物は元来4号住居跡に所属していたとみられ、複数の個体と接合した。そのような状況下においても、遺物分布の状況を見ると、土器は南半部の炉跡付近から南西部に集中を見せており、東半部は希薄であることが分かる。中でも土師器甕は南半部に集中的に出土している。初期須恵器に関しては、甕が住居跡の北西部床面(図15の45-4)に、高杯が北東部の東西トレンチ(断ち割り)から出土しているが、多くの破片はSK44埋土から出土していることから、元来は住居跡の中央部付近に残されていたのである。

山口県内で竪穴式住居跡からの初期須恵器出土は希少の事例であり、前述のごとく調査中に山大生協より当住居跡の現地理め戻し保存の申し出があったことから、埋め戻し時に4号住居跡を高さ50cmまで真砂土で埋め、遺構を保護することになった(写真167・168)。4号住居跡上は現在福利厚生施設の西側通路となっており、通路には建物跡の外郭線がマーキングされ、その横には吉田遺跡とともに当地で発見された竪穴式住居跡群を解説する看板が設置されている(写真169)。

#### [調査区南西部の遺構群]

調査区全域で137基の土壌、525基のピットを検出した。大多数は掘り込みが浅く、埋土に遺物を含んでいない遺構であったが、調査区南西部にて注意すべき遺構が確認されていることから、報告しておく。

[掘立柱建物跡]

#### 掘立柱建物跡1(図18・19、写真71・171・172)

1間×1間からなる建物跡で、Pit300・318・325・350で構成される。南北軸はN10°W、柱間の距離はおよそ230cmで正方形を呈している。比較的深い柱穴で構成されており、Pit300は16.5cm、Pit318二段掘りで23cm、SK106を切るPit325は41cm(写真172)、Pit350は二段掘りで28cmの深度を測る(写真171)。Pit300埋土からは土師器小片が出土しており、Pit325からは土師器鉢の口縁部片が出土している(図30の48)。Pit318とPit350は風倒木痕2を掘り込んでいる。

#### 掘立柱建物跡2(図18・20、写真173~177)

調査区南壁付近、掘立柱建物跡1の南南西3.1mに検出された建物跡である。桁行2間、梁間2間の

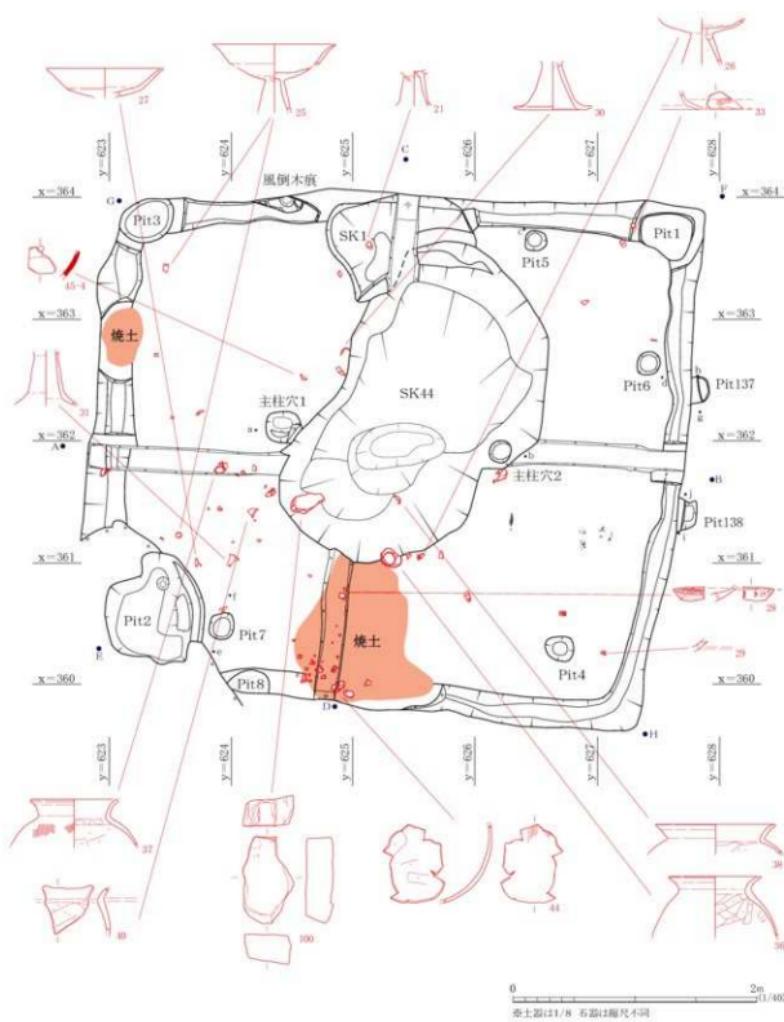


図 15 4号竪穴式住居跡平面図

平成29年度 吉田棟内(吉田遺跡)の調査

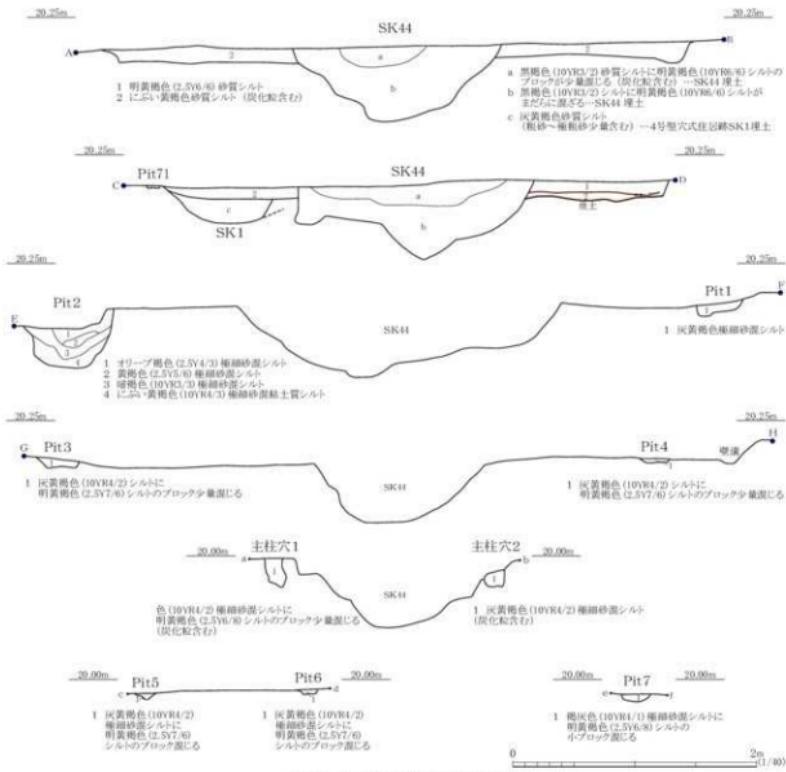


図 16 4号堅穴式住居跡断面図

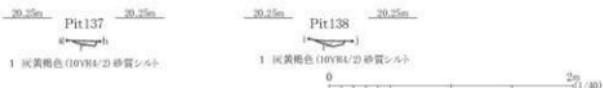


図 17 4号堅穴式住居跡に伴わない遺構断面図

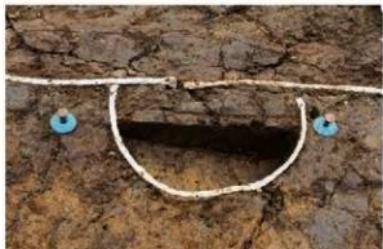




写真 147 4号竪穴式住居跡検出状況（南西から）



写真 148 4号竪穴式住居跡埋土断面（西から）



写真 149 4号竪穴式住居跡埋土断面（北東から）



写真 150 4号竪穴式住居跡遺物出土状況（北西から）



写真 151 南西部遺物出土状況（南から）



写真 152 南西部遺物出土状況（西から）



写真 153 南東部遺物出土状況（東から）



写真 154 北西部焼土・遺物出土状況（西から）



写真 155 主柱穴1半裁状況 (北から) 写真 156 主柱穴2半裁状況 (北から) 写真 157 Pit1半裁状況 (南東から)



写真 158 Pit2半裁状況 (南東から) 写真 159 Pit3半裁状況 (南西から) 写真 160 Pit4半裁状況 (南西から)



写真 161 Pit5半裁状況 (南西から) 写真 162 Pit6半裁状況 (南西から) 写真 163 Pit7半裁状況 (東から)



写真 164 4号堅穴式住居跡完掘状況 (南西から)



写真 165 4号竪穴式住居跡完掘状況（北東から）



写真 166 4号竪穴式住居跡完掘状況（北西から）



写真 167 4号竪穴式住居跡埋め戻し保存作業状況（南西から）



写真 168 4号竪穴式住居跡埋め戻し保存作業状況（西から）



写真 169 4号竪穴式住居跡の現状（南西から）

総柱建物跡とみられ、Pit285・286・299・305・307・308・525とSK98で構成される。南北軸はN $28^{\circ}$ Wで、桁行を東北東-西南西に向けており、桁行1間が194cm、梁行1間が156cmを測る。建物跡の東隅は中央広場整備時に埋設された土管暗渠により消滅している。また、Pit525は風倒木痕1により見落としており、風倒木痕掘削時に検出したものである。こちらは浅深混合の柱穴で構成されており、最も深いPit286は10cm(写真175)、最も深いPit299は48cmを測る。Pit305(写真173)から土師器小片1点が、SK98(写真174)から土師器小片4点が出土しているが、器種及び部位ともに不明である。

#### [土壤]

##### 土壤(SK)1(図18・21、写真178・179)

掘立柱建物跡1の東北東3.6mにて検出された遺構である。平面形は径約200cmの円形で、検出当初より弥生時代の貯蔵穴と推察していたことから(写真178)、遺構掘削最初期に調査の手を加えた。その結果、上部の削平が著しいことが判明し、底面付近しか遺存していないことが明らかとなった。底面は緩やかに播鉢状に降下しており、最深部で深さ12cmを測る。埋土は上下2層に分層可能で、上層は炭化粒を含む暗褐色(10YR3/4)砂質シルト、下層にはぶい黄橙色(10YR6/4)シルトである(写真179)。埋土からは少量の弥生土器が出土するに止まった(図30の19・50)。

##### 土壤(SK)99~101(図18・21、写真180~182)

掘立柱建物跡1と2の間に位置するやや大型の土壤群で、北西-南東に並んでいる。平面形態はいずれも長軸が北東-南西を向く楕円形を呈している。SK99は長軸66cm、短軸56cmで、二段掘りに掘り込まれて深さは25cmを測る。検出時、遺構中央に径20cmで埋土が変色していたことから、柱痕の遺存が期待されたが、複雑な埋土堆積の結果であることが判明した(写真182)。SK100は長軸70cm、短軸60cmで、深さは最深部で24cmを測る。埋土は底面に張り付くにぶい黄褐色(10YR4/3)シルトと、上部に埋積する灰黄褐色(10YR4/2)極細砂混シルトに分層される(写真181)。SK101は長軸68cm、短軸48cmを測る。南西から北東への二段掘りを呈しているが、遺構の重複の可能性がある。最深部で深さ8cmを測る。いずれも埋土に遺物は含まれていなかった。

##### 土壤(SK)96(図18・21、写真187)

掘立柱建物跡2の南東内部に位置しており、平面形は長軸164cm、短軸117cmの不整長方形を呈している。南東から北西方向に二段掘りとなっており、浅い一段平坦面から急傾斜で二段底面に降下する。埋土4・5層のみ土壤化が進行していたことから(写真187)、柱材などが埋没していた可能性を残す。最深部で深さ29cmを測る。

##### 土壤(SK)97(図18・21、写真188)

掘立柱建物跡2の北西に隣接しており、全長308cm、最大幅113cmで北北東-南南西に溝状に延びる。半裁掘削を行ったところ、埋土は上下に分層可能(上層:灰褐色(7.5YR4/2)細砂混粘土質シルト、下層:にぶい褐色(7.5YR5/3)細砂混粘土質シルト)であるものの明確な底面が現れず、下層がさらに東方下位に入り込んでいくことから風倒木痕と判断し(写真97)、掘削を中止した。

##### 土壤(SK)113(図22、写真170)

調査区南西部、棚田形成により大きく削平されている範囲の調査区西壁付近で検出された遺構である(図6)。平面は長軸96.5cm、短軸50cmの長楕円形を呈しており、上面が強く削平されたため、検出時には遺構内の土器が露出していた。底面までの深度はわずか5cmで、埋土は褐灰色(7.5YR4/1)の均一な細砂混シルトであったが、遺構北端付近に円筒形状に地山質土(明黄褐色(10YR7/6)砂質シルト)がブロックで確認された(写真170)。土壤内からは土師器鉢(図22の52)と土師器甕(図22の53)が出土し

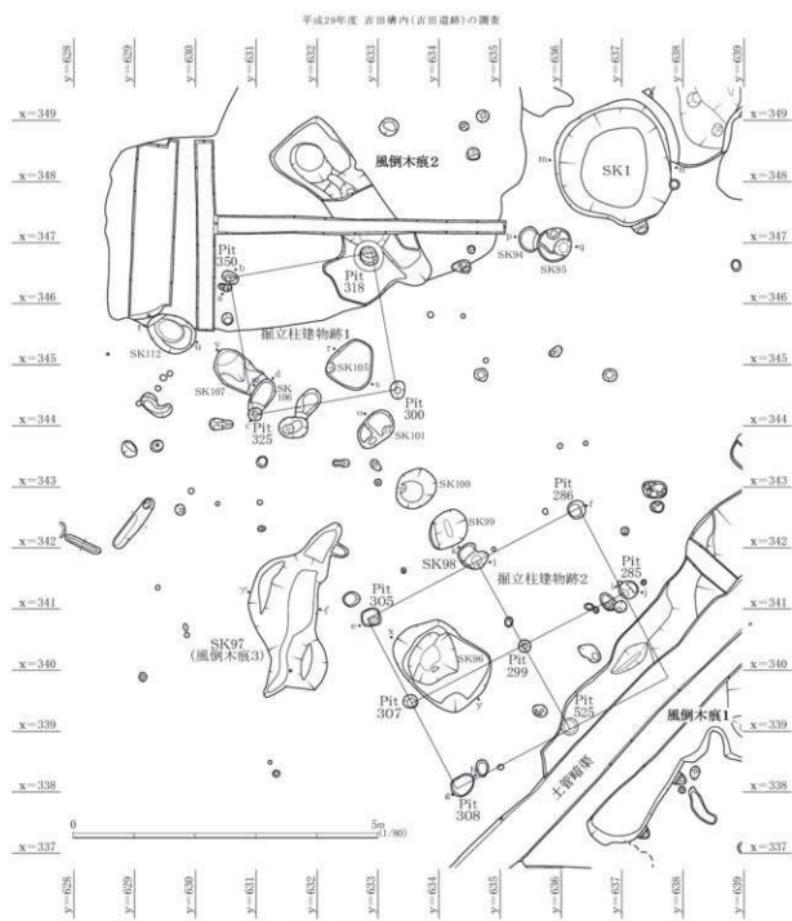


図18 調査区南西部遺構平面図

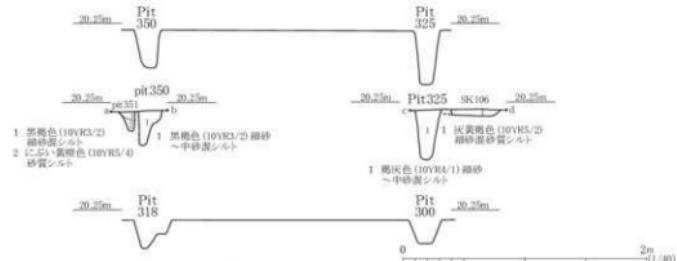


図19 挖立柱建物跡1断面図

平成29年度 吉田構内(吉田道路)の調査

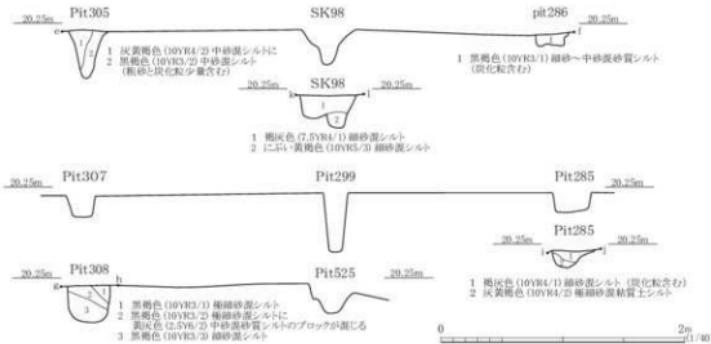


図20 挖立柱建物跡2断面図

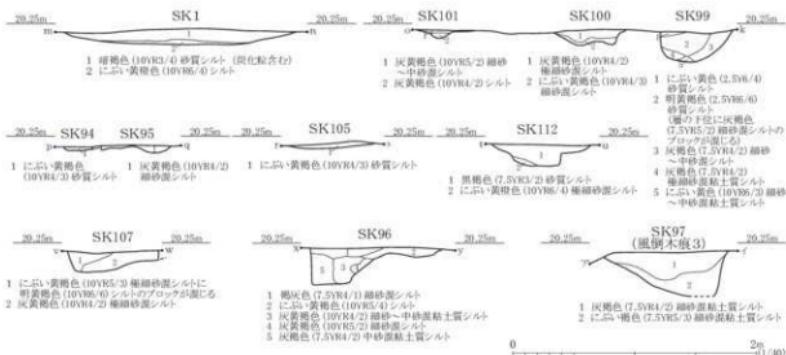


図21 調査区南西部断構造断面図

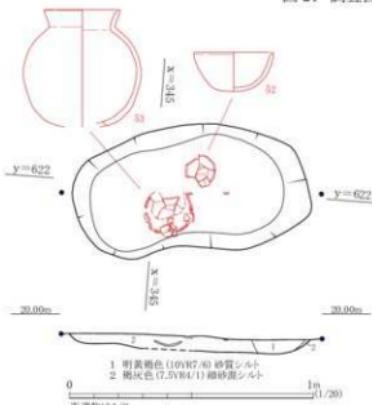


図22 SK113 平面図・断面図



写真 170 SK113 半裁（遺物出土）状況（北東から）



写真 171 Pit350 (右) 半裁状況 (南東から) 写真 172 Pit325 半裁状況 (南東から) 写真 173 Pit305 半裁状況 (南東から)



写真 174 SK98 半裁状況 (南西から) 写真 175 Pit286 半裁状況 (南東から) 写真 176 Pit285 半裁状況 (南から)



写真 177 Pit308 半裁状況 (南東から) 写真 178 SK1検出状況 (北東から) 写真 179 SK1半裁状況 (南から)



写真 180 SK101 半裁状況 (南西から) 写真 181 SK100 半裁状況 (南西から) 写真 182 SK99 半裁状況 (南西から)



写真 183 SK94・95半裁状況 (南から) 写真 184 SK105 半裁状況 (南西から) 写真 185 SK112半裁状況 (南西から)



写真 186 SK107 半裁状況 (南西から) 写真 187 SK96 半裁状況 (南西から) 写真 188 SK97 半裁状況 (南から)

平成29年度 吉田橋内(吉田道路)の調査

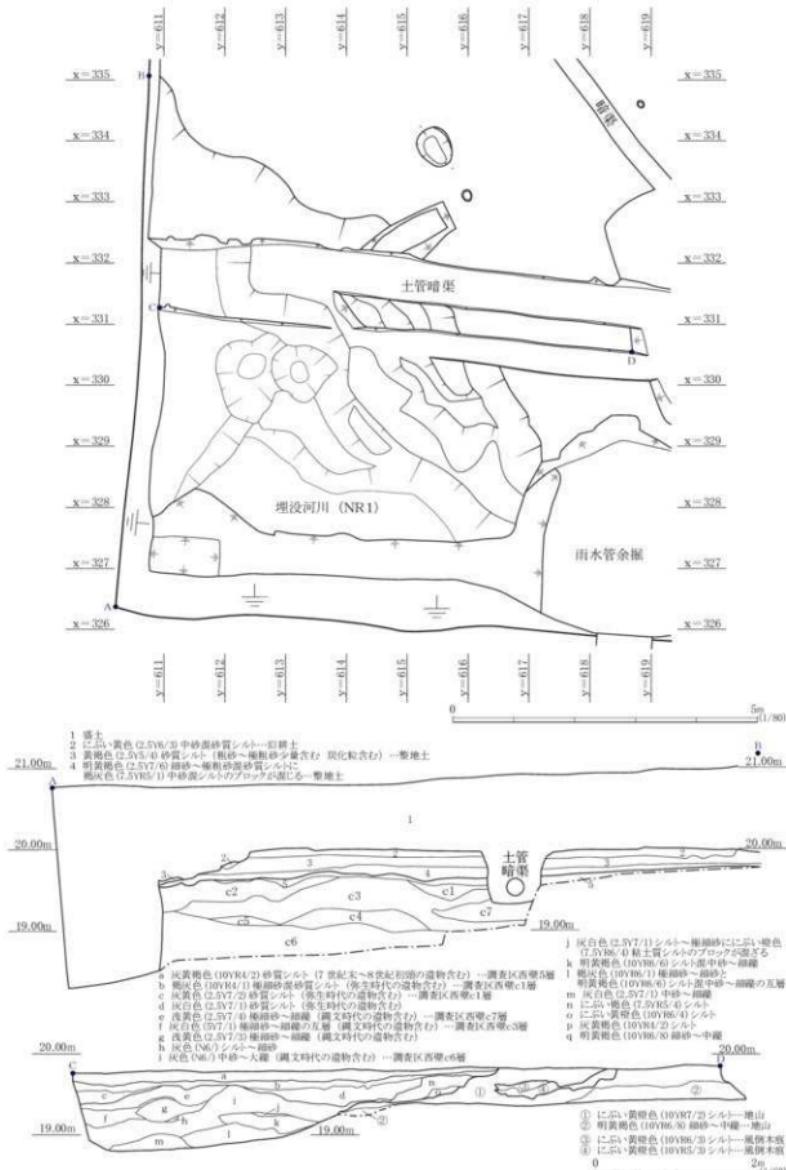


図 23 埋没河川 (NR1) 平面図・断面図



写真 189 NR1完掘状況 (南東から)



写真 190 NR1東西アゼ土層断面 (南東から)



写真 191 NR1東西アゼ土層断面 (南から)



写真 192 南西拡張区西壁NR1土層断面 (東から)

た。当遺構は竪穴式住居などの構造物の一部である可能性があることから、周辺遺構を精査したが、他に関連する痕跡を見つけることができなかった。

#### [自然痕跡]

##### 自然河川(NR)1(図23、写真66・74・189~192)

南西拡張区の南西部にて検出した河川跡である。南東から北西に走る河川の右岸を確認しており、東部と南部は既設雨水管により破壊されている。

調査区内での河川深度は最大約1.0mを測る。河川幅は、雨水管埋設により大きく破壊されているために不明瞭であるが、残存部で右岸より2.5mの規模を有していること、底面に左岸側への立ち上がりが見られないことから、最低でも幅5mの規模は有していたものと推測される。また、地山とともに風倒木痕とみられるにぶい黄橙色(10YR5/3~6/3)シルトを削て河川が形成されていた。

#### 河川埋土の基本層序は、

1層:灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト～前述のように、河川が埋没した後の窪地に堆積した層で、調査では遺物包含層として掘削を行った。7世紀末～8世紀初頭の遺物を含む

2層:褐灰色(10YR4/1)砂質シルト～土師器と弥生時代、縄文時代の遺物を含む

3層:灰白色(2.5Y7/1)～灰黄色(2.5Y7/2)砂質シルト～弥生時代の遺物を含む

4層:浅黄色(2.5Y7/3～7/4)～灰白色(5Y7/1)細砂礫、灰色(N6/)礫～縄文時代後～晩期の遺物を含む

5層:4層下位の砂礫、シルト～無遺物層

であり、4層からは、縄文土器の碎片のほか石鐵、磨石、石錘などの石器も出土している。

以上の調査成果により、北東に古墳時代集落が営まれた時期には、河川の埋没はほぼ終えており、わずかに谷状の窪地として残されていたことが判明した。当河川の上流は、東北東約135m地点に位置

平成29年度 吉田構内(吉田遺跡)の調査

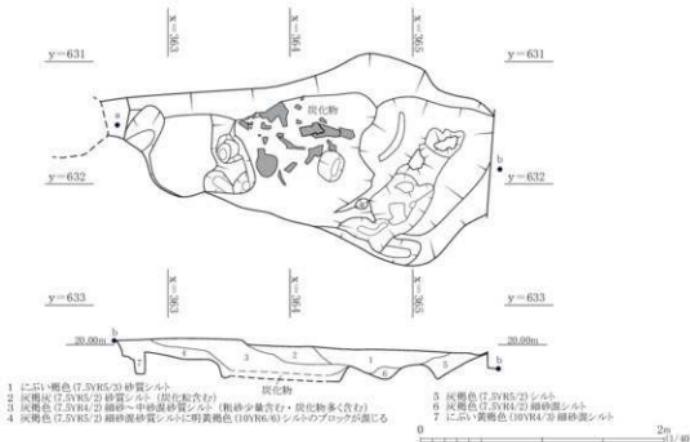


図24 SK71 平面図・断面図



写真193 SK71 半裁状況（南東から）



写真194 SK71 炭化物出土状況（東から）

する獣医学研究科棟敷地や、獣医学国際教育研究センター棟敷地にて検出された河川である可能性を有し、西約125m地点に位置する情報基盤センター棟敷地にて検出された河川に接続するものと推定される。

#### 風倒木痕 (図24、写真193~198)

遺構掘削開始期に頗問題したのが、大型の遺構に見えるが底面が追いかれず、埋土に遺物を含んでいない遺構群であった。徹底的にトレーナーを入れて断面確認を試みたが、埋土状の褐色土が地山下に潜り込む様子が多数見受けられた(写真195~198)。調査中にいずれも風倒木痕と認識し、以降実測図は残さず写真記録に止めることにした。

SK71は遺構掘削初期に記録に留めた風倒木痕である(風倒木痕9)。北端部を土管暗渠に、南端部を上層遺構に切られており、残存長320cm、最大幅164cmを測る。底面は複雑に凹みが生じているが明確な地山土に到達せず、炭化物が集中する地点が存在した(写真194)ものの、その下位には灰褐色(7.5YR 1/2)が潜り込む層位となっていた。当遺構で注目されるのは、黒曜石の剥片(図36の101)が出土したことである。この遺物の出土と、風倒木痕を切り込む自然河川(NR1)の存在により、これらの風倒木群は、後期旧石器時代から縄文時代中期までの期間に生じた自然作用の痕跡と見なされる。なお、この黒曜石剥片以外、人類活動と結びつく遺物や痕跡は風倒木痕群から確認されていない。(横山)



写真 195 風倒木痕1土層断面 (北から)



写真 196 風倒木痕2断ら割り土層断面 (南西から)



写真 197 風倒木痕3断ら割り土層断面 (北から)



写真 198 風倒木痕8断ら割り土層断面 (南西から)

## 【註】

- 出土時には腹部に焼成後穿孔とみられる小孔が存在した(写真98)ことから、土師器題と考えられる。遺物取り上げ後、内部の土を除去する際に砂片化してしまい、復元時には孔の位置を確認できなくなってしまった。
- 住居北西部はSK2およびSD8を切り込んでいるが、両者は風倒木痕と認められた(風倒木痕12)。
- 今まで科学分析を行えていない。また、最初に発見された小玉の折損原因は横山の不注意にある。修復と分析を終え次第報告を行いたい。
- 豆谷和之(1994)「吉田構内農学部連合獣医学科棟新營に伴う発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X II』、山口  
横山成己(2018)「獣医学国際教育研究センター棟新營工事に伴う発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成25年度-』、山口
- 河村吉行(1488)「吉田構内教養部複合棟新營に伴う発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報VII』、山口
- 今回調査を実施した丘陵末端部は地質学的な見地から古崩壊面と見なされている(松尾征二(1992)「平川地区の地理的・地質的環境」、山口市教育委員会(編)『山口市内遺跡詳細分布調査』山口市埋蔵文化財調査報告第1集、山口)が、当調査区の東方約225m地点の洪積段丘上で実施した調査では、同じく風倒木痕とみられる遺構(SX6)埋土から、礫石の可能性がある丸石が出土しており(川島尚宗・横山成己(2021)「実習棟(動物病理解剖施設)新營その他工事に伴う予備発掘調査・本発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成28年度-』、山口)、関連が注目される。

(5) 遺物(図25~37、写真199~207、表6~10)

## [土器]

## 1号竪穴式住居跡出土土器(図25、写真199、表6)

1~3は1号竪穴式住居跡に伴うSK3から出土した土器。1は土師器甕の体部。甕の注口は、小破片が接合しきれず復元できなかった。体部最大径は中位よりやや上位にあり、径12.8cmを測る。体部外面には細かい斜め方向のハケが施されており、内面にはケズリと指頭圧痕が残る。2は土師器高坏の坏部。坏底部と口縁部との接合部の屈折は明瞭で、口縁部は外反気味にのび、端部は丸くおさめる。坏部内面及び基部外面にハケメが残る。3は土師器甕。復元口径は14.4cm。口縁部は短く外反し、端部は面をもつ。体部は倒卵形を呈し、最大径は24.8cmを測る。全体的に摩滅が著しく不明瞭ではあるが、体部外面にハケメ、内面にケズリが確認できる。頸部外面の一部に成形時の工具痕かと思われる痕跡が残る。

4~10は1号竪穴式住居跡床面から出土した土器。4~7は土師器高坏。4は坏部片と脚部片を図上で復元した。またSK3出土の破片と接合している。口縁部は直線的に斜め外方にひらく。全体的に摩滅が著しく、脚部内面の一部にナデがみられる以外は調整は不明。5は高坏口縁部片。口縁端部は緩やかに外反し、口縁部外面には斜めハケが残る。7は高坏脚部片。脚裾部は深く折り曲げられ、端部をわずかに跳ね上げる。8は土師器甕の口縁部片。短く外反し端部は明瞭に面をもつ。口径は17.8cmで、口縁部内外面に斜めハケ、頸部内面にケズリが残る。9・10は土師器甕の体部片と思われる。9は器壁がおよそ0.25~0.3cmと非常に薄く特徴的である。10はSK3出土の破片とも接合している。

## 2号竪穴式住居跡出土土器(図26、写真199、表6)

11は2号竪穴式住居跡に伴う主柱穴1から出土したもので、土師器小型甕の頸~体部片。調整は体部外面はケズリ、内面はナデが施されている。

12は2号竪穴式住居跡の埋土から出土した土師器高坏の口縁部片。口縁は直線的に外傾し、端部は尖り気味に仕上げている。外面下端に坏底部と口縁との接合部の屈曲がわずかに確認できる。

13・14は2号竪穴式住居跡床面から出土した土器。13は土師器高坏の坏部片。口縁部と坏底部との接合部で剥離している。14は土師器甕の口縁~体部片。復元口径は16.0cm。口縁部は中位で外側に少し膨らむ。調整は口縁部は内外面とも横ナデが施されているのを確認できるが、体部は摩滅しており内外面とも不明である。

## 3号竪穴式住居跡出土土器(図27、写真199・200、表6)

15は3号竪穴式住居跡に伴う主柱穴3から出土した土師器小型甕の口縁~体部片。口縁部径13.0cm、体部最大径は15.8cmを測る。口縁端部は短く外反し、面をもつ。口縁部内面は横ナデ、外面は斜めハケ後ナデが施されている。体部の調整は外面に縦および斜め方向のハケ目が施され、内面上半は横方向のケズリ、下半はナデが施されている。

16は3号竪穴式住居跡壁溝から出土した土師器高坏の坏部片。坏底部と口縁部の接合部の屈折は明瞭で、口縁は直線的に外傾する。

17~20は3号竪穴式住居跡床面から出土した土器。17は土師器高坏の口縁部片。口縁は直線的にのび、端部は軽く外反する。18は土師器高坏の坏部片。内面には粘土の接合痕、外面下端部には坏底部と口縁部との屈曲がわずかに認識できる。19は土師器高坏の脚裾部片。脚部が裾部で折れ曲がり、裾端部で立脚する形態とみられる。20は土師器小型甕。復元口径は9.6cmで、口縁部は端部付近でわずかに内湾し、端部を丸くおさめる。口縁部内外面は横ナデ、体部外面はハケ目が施されており、体部

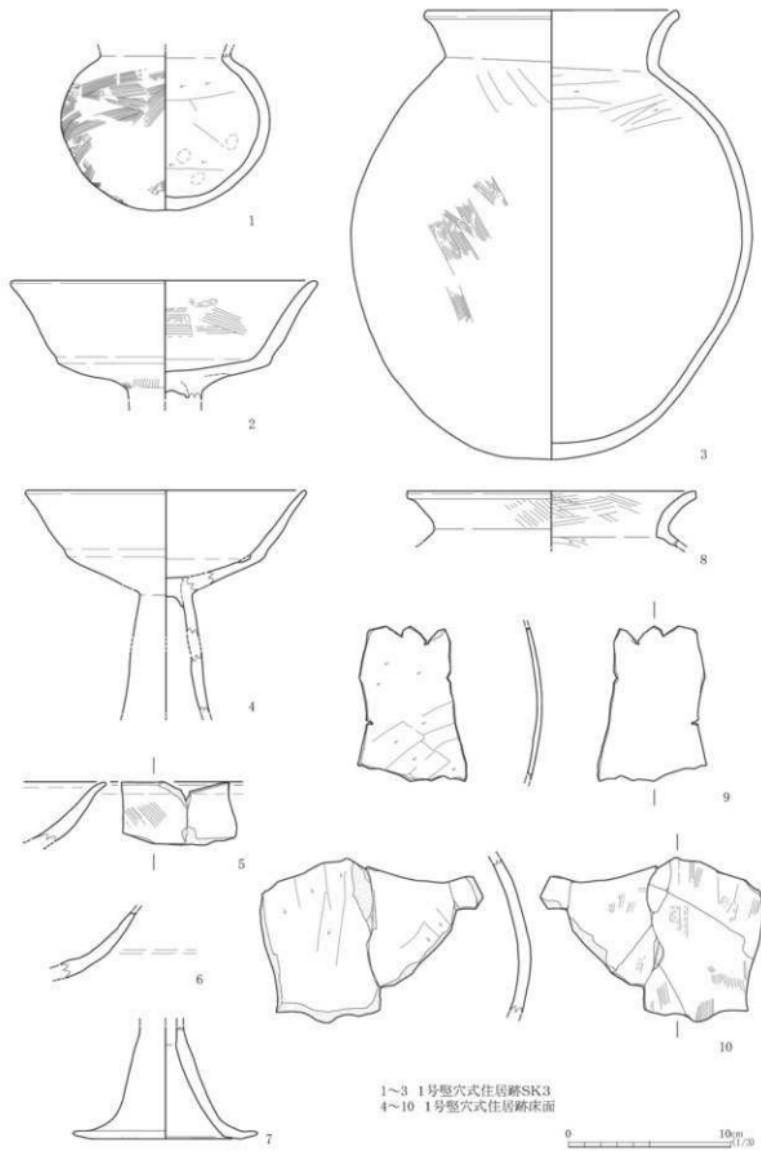


図 25 1号竪穴式住居跡出土土器実測図

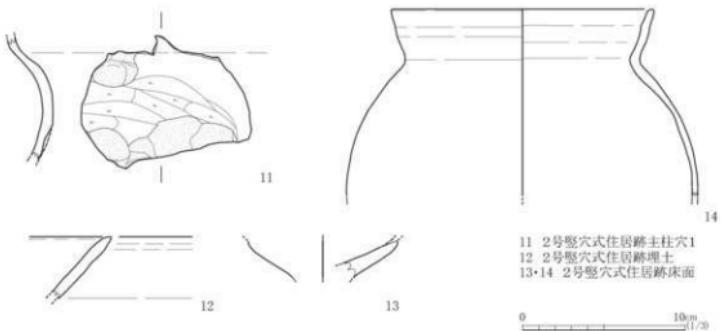


図26 2号竖穴式住居跡出土土器実測図

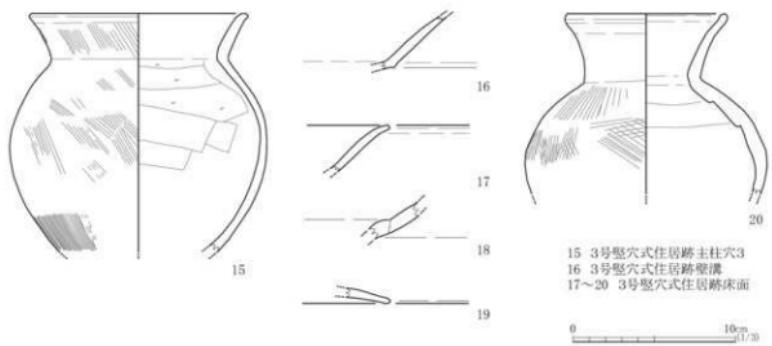


図27 3号竖穴式住居跡出土土器実測図

内面には粘土の接合痕が残る。

#### 4号竖穴式住居跡出土土器(図28~19、写真200~201、表6)

21は4号竖穴式住居跡内のSK1から出土した土師器高坏の坏部が剥離した脚部片。22は壁溝から出土したもので、土師器甕の口縁部片。内面には斜めハケが残り、外面には斜めハケ後横ナデが施されている。

23~24は4号竖穴式住居跡の調査に先だって埋積土の確認のために入れたサブレンチから出土したもので、上部から掘り込まれたSK44由来のものも混在している可能性もある。23は土師器高坏の坏底一部脚部片。24は土師器甕の口縁部片。

25~31・33~36~38~40~41は4号竖穴式住居跡の床面、32は4号竖穴式住居跡の埋土、34~35~39は断面観察の為に設定したアゼから出土した。

25~26は土師器高坏の坏一部脚部片。ともに、同一個体と思われる破片から図上で復元した。25の口縁部は直線的にひらき、端部で外反する。26はSK44から出土した坏部片と復元している。25~26はいずれも摩滅のため調整は不明瞭である。27~29は土師器高坏の坏部。28~29は小片であるが、口縁と坏底部

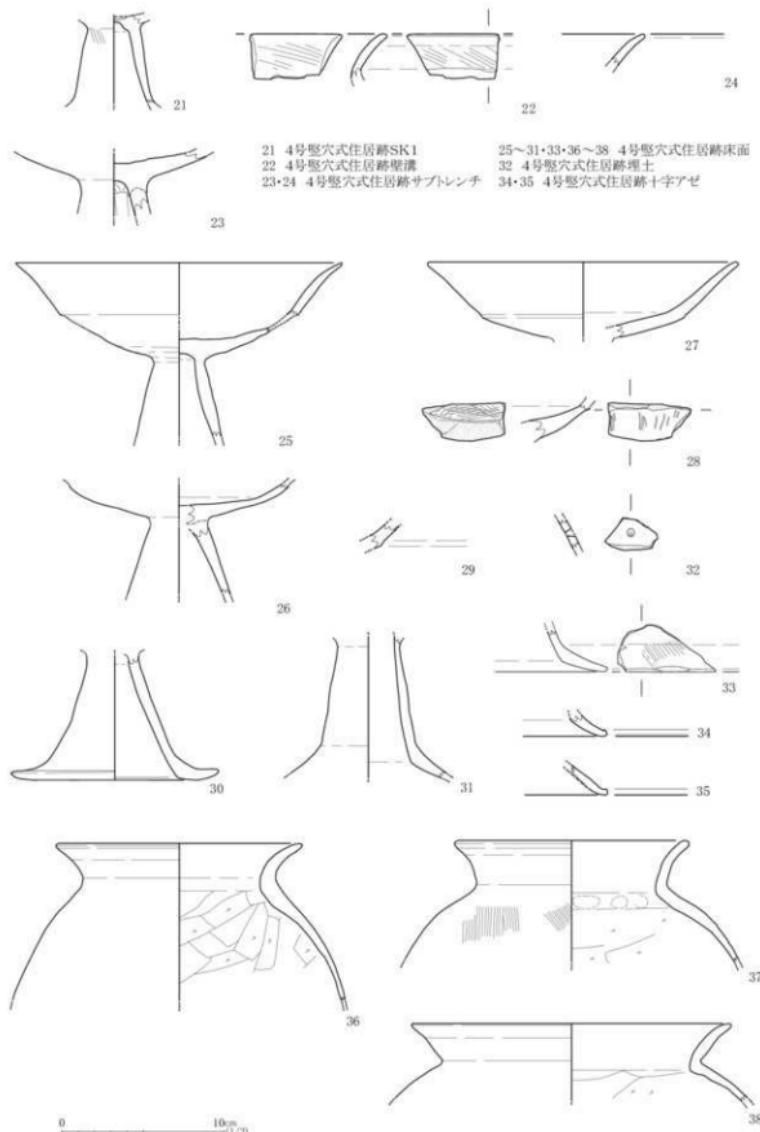


図 28 4号竪穴式住居跡出土土器実測図①

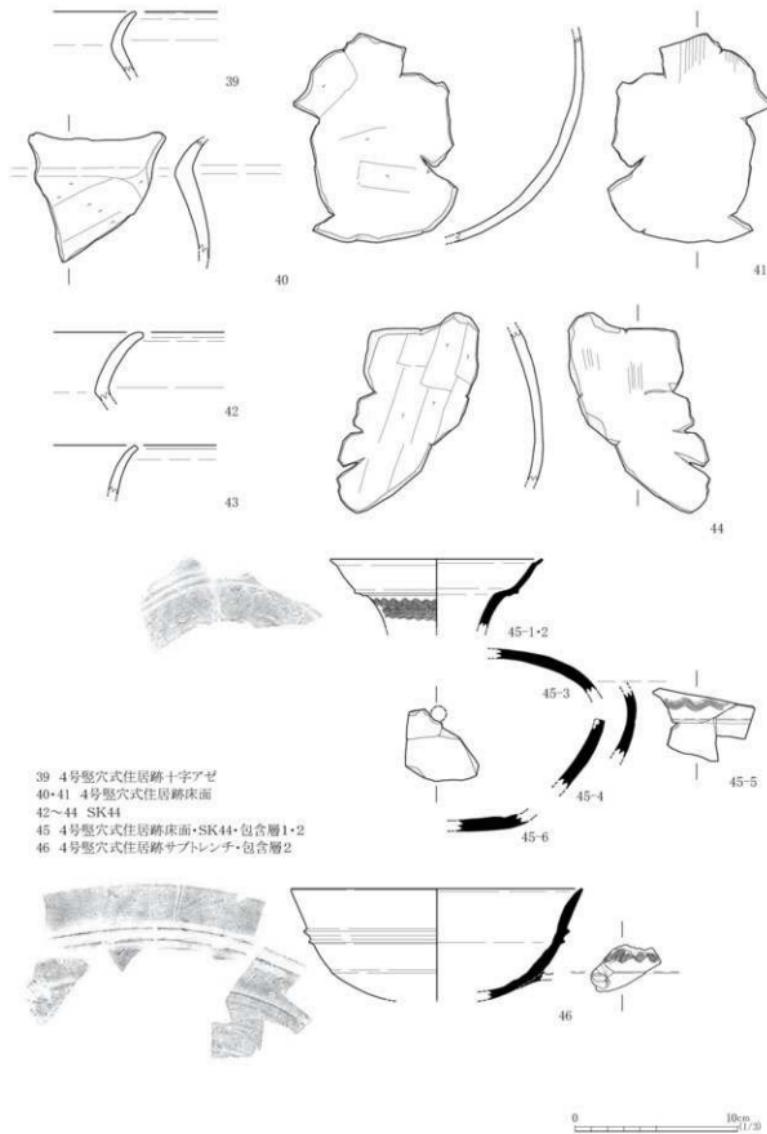


図29 4号竪穴式住居跡出土土器実測図②

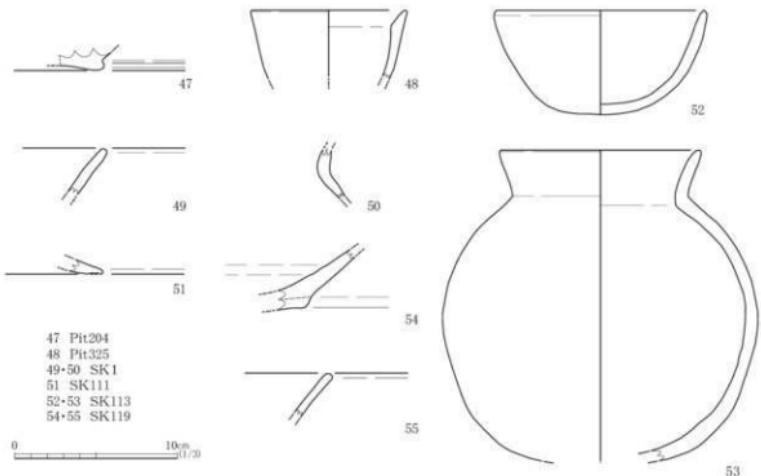


図30 遺構出土土器実測図

との屈曲が確認できる。30・31は土師器高坏の脚部片。30の脚部はラッパ状にひらき、裾部で強く屈曲してその内で立脚し、端部は上に反らせる。31は裾部が斜め下方にひらいており、端部で立脚する形態とみられる。32は土師器高坏の脚部片で、透孔が残る。33～35は土師器高坏の脚裾部片。33の外面には斜めハケが確認できる。

36～44は土師器甕。摩滅により確認できない例もあるものの、ほとんどは肩一体部の内面にはケズリが施されている。36は口縁一体部片。口縁部は完存しており、口径は14.7cmを測る。口縁は短く外反し、頸部の器壁は厚く、体部に向かって極めて薄くなる。口縁部は内外面横ナデ、体部外面にケズリが施されている。37・38は口縁一肩部片。37の口縁部は中位でさらに外反し、端部は丸くおさめる。復元口径は13.9cm。肩部外面には縦および斜め方向のハケ、内面にはケズリが施される。口縁部は内外面とも摩滅しており調整は不明である。38はSK44出土品とも接合している。復元口径19.4cmで、口縁部の外面は少し膨らみ、端部にかけて短く外反する。39は口縁部片。内外面とも摩滅しており、調整は不明。40は頸一体部片。全体的に摩滅しており、口縁部内外面および体部外面は調整は不明であるが、体部内面にはケズリが確認できる。41は体一底部片。体部外面の一部に縦ハケが残り、内面にはケズリが施されている。

42～44は4号竪穴式住居跡の中央にあるSK44から出土した。SK44は住居廃絶後の掘り込みで住居跡に伴う遺構ではないが、4号竪穴式住居跡床面出土の土器片と接合したものや同一個体とみられるものがあり、出土遺物は住居跡に由来するものが含まれていると考えられる。このことから、4号竪穴式住居跡に関連する遺物として取り上げる。42・43は土師器甕の口縁部片で、ともに摩滅のため調整は不明である。44は土師器甕の体部片。全体的に摩滅しているが、外面に縦ハケがわずかに確認でき、内面にはケズリがみられる。

45・46は4号竪穴式住居跡床面・SK44・サブトレンチ・十字アゼ・包含層から出土した須恵器で、同一

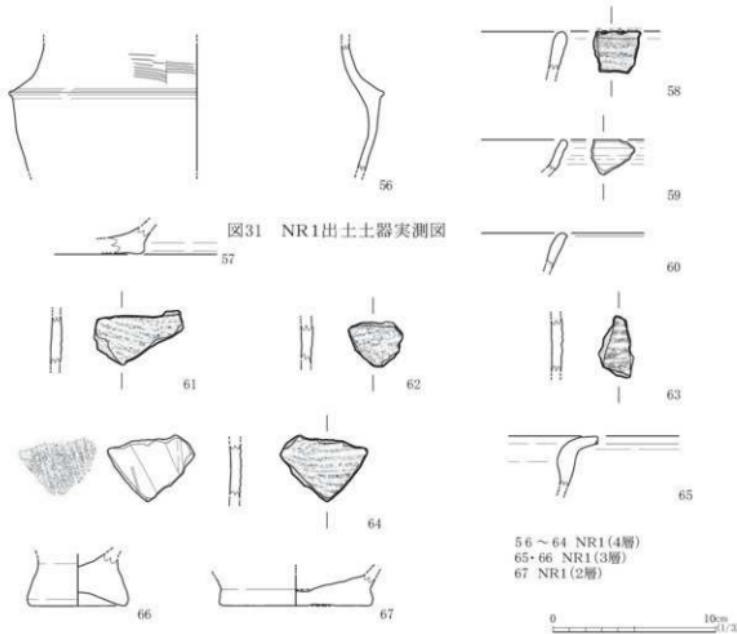


図31 NR1出土土器実測図

個体と思われる破片から図上での復元を試みた。

45は須恵器題の口縁部から底部までの6点で、45-1・4は床面、45-2はSK44と十字アゼからの出土品が接合、45-3は包含層2とSK44からの出土品が接合、45-5・6はSK44から出土したものである。頸部は外上方にひらき、口縁部との境は強く屈曲し断面三角形の突線がめぐる。口縁部はさらに外上方へとひらき、口縁端部は尖り気味に外方へ突出する。復元口径は11.9cm。内面に回転ナデが確認できるが、全体的に焼成は不良で摩耗もしているため調整は不明瞭である。また、頸部と肩部に波状文が施されているが、薄く確認できる程度である。57-4には注口の一部が残る。

46は須恵器の把手付無蓋高壺の壺部。口縁部と把手部の破片に接点はないが図上で復元した。46-1・2はサブトレーナー・SK44から、46-3は包含層2から出土した。復元口径は17.8cmで、壺と比して焼成は良好である。口縁部と壺部との境に断面三角形の突線が2条めぐり、その下に波状文が施される。把手は波状文帯に取り付く。45・46は山口県下では出土例が少ない初期須恵器に該当し、注視される。

#### 遺構出土土器 (図30、写真201・202、表6)

遺構からの遺物の出土は非常に少なく、弥生土器も認められるが、そのほとんどは土師器の小片であった。そのうち図化できたものとして、ここでは9点提示する。なお、いずれの個体も摩耗しており調整は不明瞭である。

47はPit204から出土した土師器の壺と思われる底部片。48はPit325から出土した土師器鉢の口縁一部部片で、復元口径は9.4cm。口縁は緩やかに内湾し、端部は内傾する広い面をもつ。49・50はSK1から出土した弥生土器甕の口縁部と頸部片。51はSK111から出土した土師器高坏の脚据部片。52・53はSK113から出土したもので、52は土師器鉢の口縁一部部片。復元口径12.7cm、器高6.4cmを測る。口縁部は斜め外方にひらき、端部は尖り気味におさめる。53は土師器甕の口縁一部部片。復元口径は12.1cm。体部は球形を呈し、体部の復元最大径は19.5cmを測る。54・55はSK119から出土した土器。54は土師器高坏の坏部。55は土師器甕の口縁部片。

#### NR1出土土器(図31、写真202、表6)

NR1は、4層から縄文土器・不明土製品・石器、3層から弥生土器、2層から弥生土器・土師器、1層から土師器・須恵器が出土している。56～64は4層から出土した縄文土器。56は深鉢の頸一胴部片。張り付け突帯にわずかに刻み目が残る。57は器種不明の底部片。58～60は器種不明の口縁部片で、58の口唇部には刻みが施される。61～64は胴部片で、外面には条痕が施されている。65・66はNR1の3層から出土。65は弥生土器甕の口縁部片。口縁は短く折れ、端部は面をもつ。内面は大きく肥厚する。66は弥生土器甕の底部片。67はNR1の2層から出土したもので、縄文土器深鉢の底部片。

#### 南西部遺構検出中(図32、写真202、表6)

68・69は調査区南西部の遺構検出中に出土した土器で、68は陶器碗の底部片。69は陶器の器種不明の底部片。

#### 北部上層遺構基盤層(図32、写真202、表6)

調査区北部域のみ遺構面が2面確認されており、70は上面遺構の基盤層から出土した弥生土器高坏の坏部片。外面に底部と口縁部との接合部の屈曲と思われる段差が認められる。内外面とも摩滅しており調整は不明。

#### 包含層出土土器(図32、写真202、表6)

調査区の北部域には2層の包含層の堆積が認められる。包含層2からは、弥生土器・土師器・須恵器が、包含層1からは、土師器・須恵器・陶器などが出土している。また、南西拡張区の包含層からは土師器・須恵器が出土している。

71～74は北側包含層2から出土した土器。71は弥生土器高坏の坏一脚部片。全体的に摩滅しており調整は不明。72は弥生土器の垂下口縁壺の口縁部片と思われる。73は土師器高坏の脚部片。坏部と脚部との接合のための粘土の充填が確認できる。74は須恵器の高坏の坏部片と思われる。

75・76は北側包含層1から出土した土器。75は土師器高台付坏の底部片。76は須恵器坏蓋の天井一口縁部片で、7世紀後半から8世紀初頭。

77は南西拡張区の包含層から出土したもので、土師器高坏の坏底部片。

#### 旧耕土・旧床土出土土器(図32、写真202・203、表6)

78～82は旧耕土から出土した土器。78は土師器高坏の基部片。79は土師器高台付坏の底部片。80は須恵器坏蓋の口縁部片。口縁部付近で平らに屈曲し、端部は丸くおさめる。9世紀。81は須恵器の高坏の坏部片かと思われる。北側包含層2出土の破片と接合している。上部は欠失しているが、外面が屈折して器壁が薄くなる立ち上がりがわずかに残っている。波状文がめぐり、底部付近はヘラ削りが施されている。82は瓦質土器足鍋の脚部片。

83～85は南西拡張区の旧耕土・旧床土から出土した土器。83は須恵器坏蓋の天井一口縁部片。7世紀後半。84は陶器擂鉢の口縁部片。口唇部は折り曲げて肥厚させる。85は瓦質土器羽釜の口縁部片。

口縁に接して鏘が貼り付けられる。

86・87は調査区南西部の整地土の下で認められた旧耕土から出土した土器。86は磁器染付碗の底部片。87は白磁の紅皿。口縁端部は平らな面をもち、体部外面には菊花文を施す。

#### 整地土出土土器(図32、写真203、表6)

88～91は調査区南西部の整地土中から出土したもの。88は陶器鉢の口縁部片。89・90は磁器染付碗の口縁部片。91は磁器染付碗の体－底部片。

#### [玉類](図33、写真204、表7)

92～94は、3号竪穴式住居跡で検出された炉跡の土壤サンプルの洗浄中に確認された。径0.3～0.4cmと小粒で肉眼観察での判断は困難であるため材質は不明。

#### [土製品](図34、写真205、表8)

95はNR1の4層から出土した不明土製品。径2～2.3cmの円柱状で、下部は欠失しているため全長は不明である。上端部は逆「ハ」字状に短くひらき、上面は僅かに凹む。

#### [金属器](図34、写真205、表9)

96は調査区南西部に認められる整地土下の旧耕土から出土したもの。釘か。

#### [石器](図35～37、写真206・207、表10)

97・98は住居跡から出土したもので、97は2号竪穴式住居跡の床面から出土した石英安山岩製の剥片。98は3号竪穴式住居跡の床面から出土した不明石器。石材は石英。

99・100はSK44から出土した。99はSK44の1層から出土した不明石器で安山岩製。100はSK44の2層から出土したもので、作業台かとみられる。火山疊凝灰岩製。

101はSK71から出土した黒曜石の剥片。

102～105はNR1の4層から出土したもの。102は石英安山岩(デイサイト)質溶結凝灰岩製の石錘。板状で平面菱形を呈する。103は火山疊凝灰岩製の磨石。104は回基式の石鎌。安山岩製。105は安山岩製の剥片。

106は北側包含層から出土した安山岩製の石斧。

調査全体を通して出土遺物は少なく、また小片も多く、図化可能な個体が限られていた。特に遺構の検出数に対して遺構からの出土遺物は極めて少なく、主な出土遺物は4棟検出された竪穴式住居跡からのものとなる。竪穴式住居跡を除くと、SK113からの出土土器だけが全形がうかがえる資料で、古墳時代後期に該当するとみられる。

竪穴式住居跡の出土遺物については、土師器高杯の坏部が残存するものを見る限りでは、口縁部が直線的で内湾せず坏部が深くなる傾向がうかがわれないことから古墳時代中期中葉を下ることはないものと考えられる。土師器の坏の出土が確認されないことなどの特徴もその年代観についての証左の一つにとなると思われる。<sup>註11</sup>また、それぞれの出土遺物を見る限り、4棟の竪穴式住居跡には大きな時期差はないと思われる。

竪穴式住居跡からの出土遺物として特筆すべきものとしては、4号竪穴式住居跡から出土した初期須恵器が挙げられる。その形態的特徴からTK216～TK208併行期と考えられる。生産地については判然としないが、大阪府陶邑窯跡群の可能性が高いのではないかと思われる。

吉田構内(吉田遺跡)では、昭和46年に行われた吉田遺跡第I地区E区(第2学生食堂及びその前面道路)の調査で6棟の竪穴式住居跡が検出されており、その内の1棟(6号竪穴式住居跡)から須恵器

鹿の口縁部片が出土している。4号竪穴式住居跡出土の鹿と同じくTK216—TK208併行期と考えられ、同時期に初期須恵器を有する住居が存在していたことがわっている。

なお、吉田遺跡周辺での初期須恵器の出土例として西遺跡と朝田墳墓群が挙げられるが、西遺跡では胎子分析の結果から大阪府陶邑窯跡もしくはその可能性が高いものと判定されており、朝田墳墓群出土の須恵器はその形態的特徴から同じく陶邑産と考えられている。本調査出土の初期須恵器の生産地を推考する参考となろう。

(水久保)

## 【註】

- 1) 山本一朗(1981)「防長の土師器」、岡陽考古学研究所(編)、『山口県の土師器・須恵器—集成と編年—』岡陽考古学研究所報2、光(山口)
- 小林善也(2008)「須恵器出現期以降の古墳時代集落出土の土器編年試論—周防西部地域ー」、小林善也・横山成己(編)『古墳時代集落遺跡出土の須恵器・土師器～5世紀から7世紀にかけての山口県の土器様相～』山口考古学フォーラム調査研究報告書1、山口
- 2) 豆谷和之(1994)「付篇 I 第1章 吉田遺跡I 地区E区の調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XII』、山口
- 3) 山口県教育委員会(1976)『朝田墳墓群I 付木崎遺跡』、(山口県埋蔵文化財調査報告第32集)、山口  
山口県教育委員会(1977)『朝田墳墓群II 潟ノ峰1号墳』、(山口県埋蔵文化財調査報告第33集)、山口  
山口県教育委員会(1983)『朝田墳墓群VI』、(山口県埋蔵文化財調査報告第69集)、山口  
山口市教育委員会(1986)『西遺跡』、(山口市埋蔵文化財調査報告第21集)、山口
- 4) 三辻利一(1986)「西遺跡出土土器の蛍光X線分析」『西遺跡』、(山口市埋蔵文化財調査報告第21集)  
小田村宏・普波正人・三辻利一・黒瀬雄士(1987)、「西遺跡(山口県)出土須恵器の産地推定」、小田富士雄(編)『古文化談義』第18集、北九州(福岡)
- 5) 市來真准(2014)「山口県の初期須恵器から見た地域間関係について」、山口考古学会(編)『山口考古』第34号、山口



図32 出土土器実測図



図33 出土玉類実測図

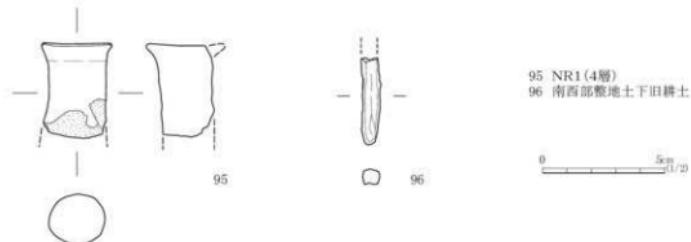


図34 出土土製品・金属器実測図

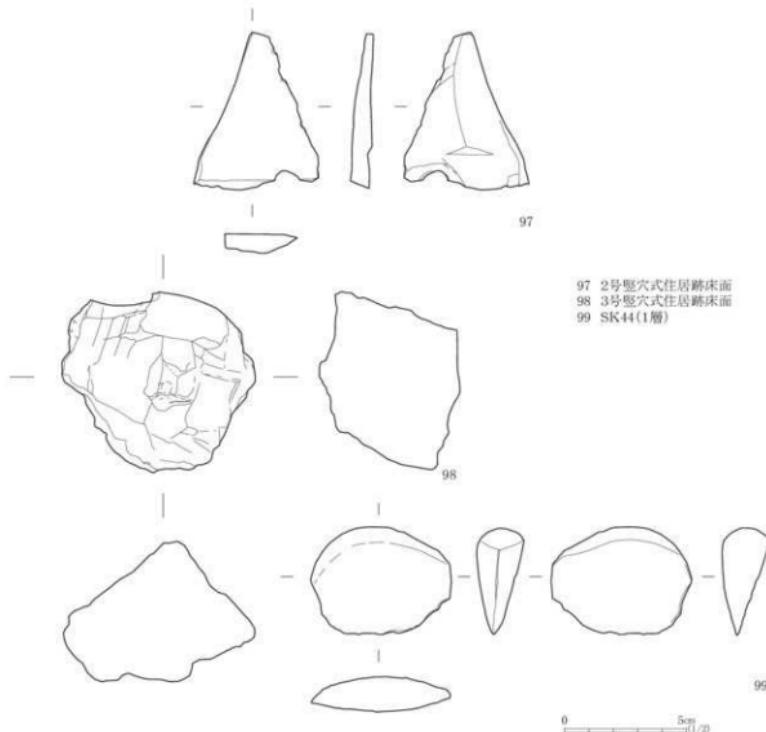


図35 出土石器実測図①

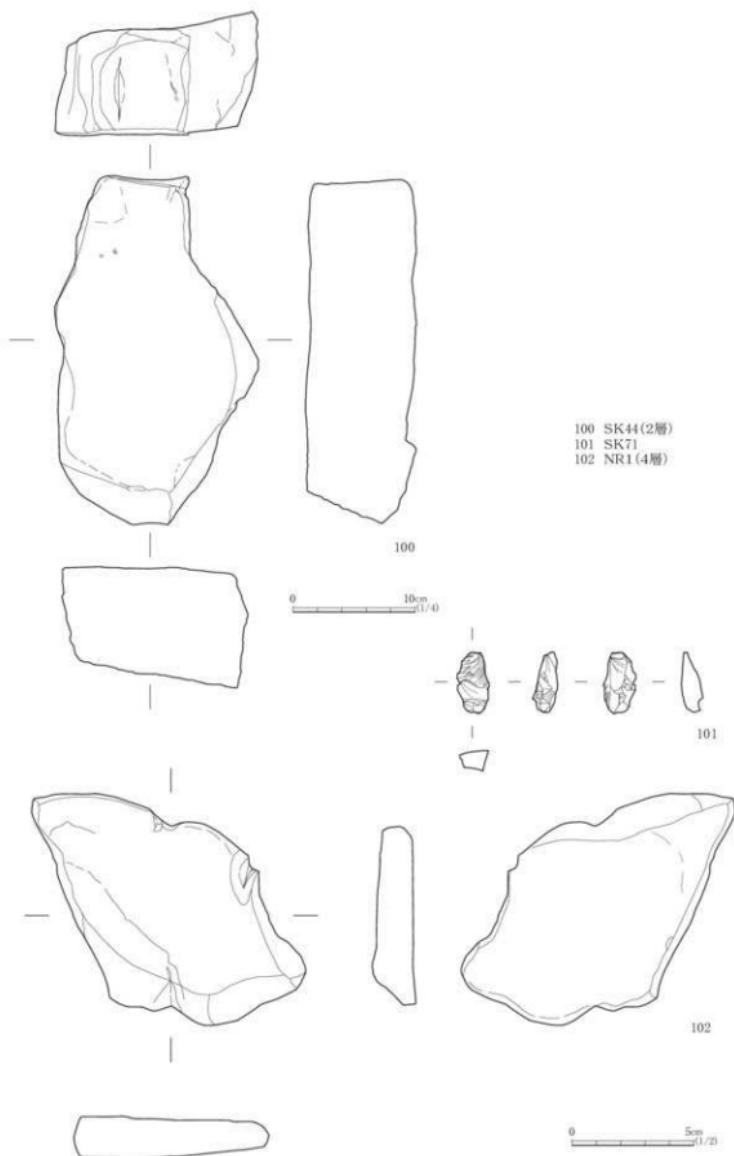


図36 出土石器実測図②

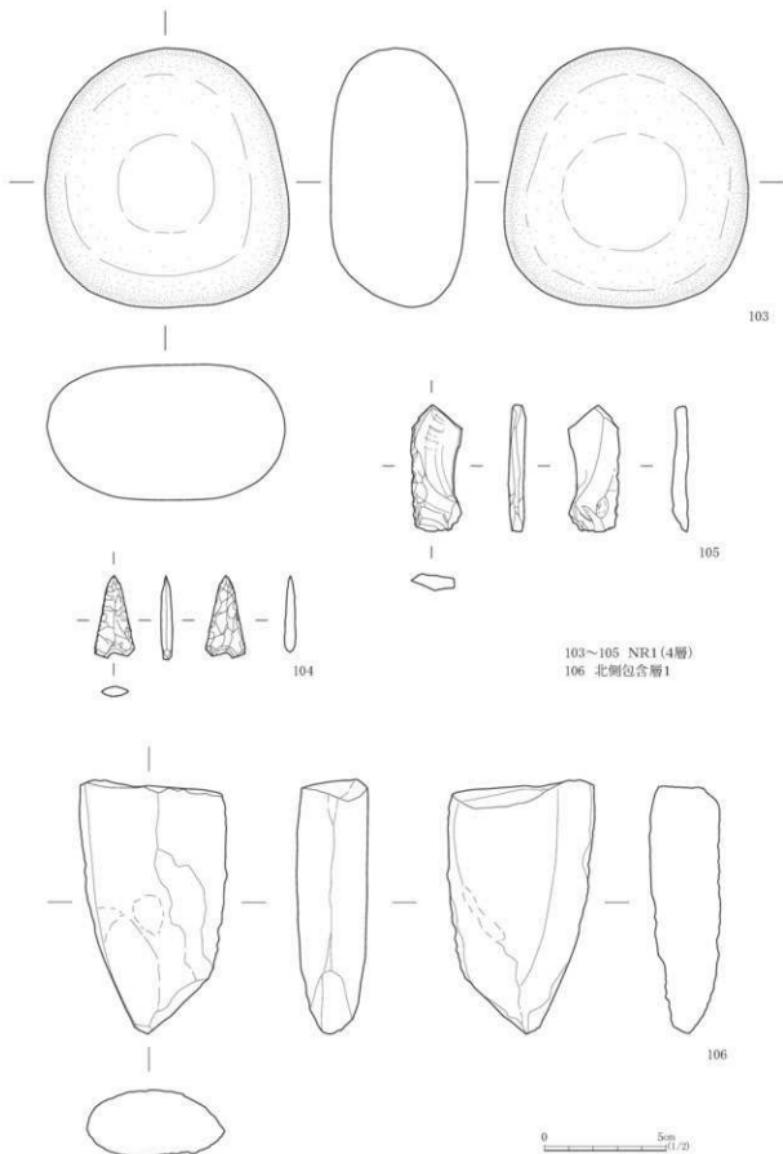


図37 出土石器実測図③

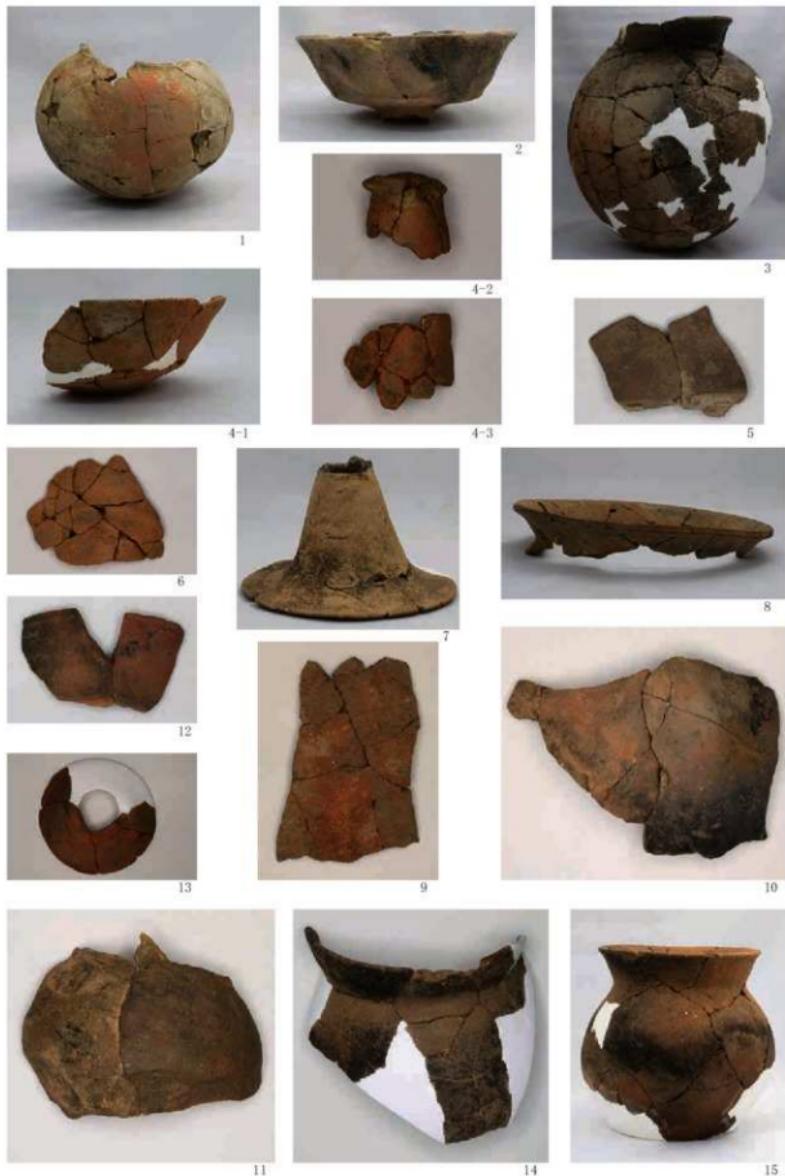


写真199 出土遺物(土器)①



写真200 出土遺物(土器)②



写真201 出土遺物(土器)③

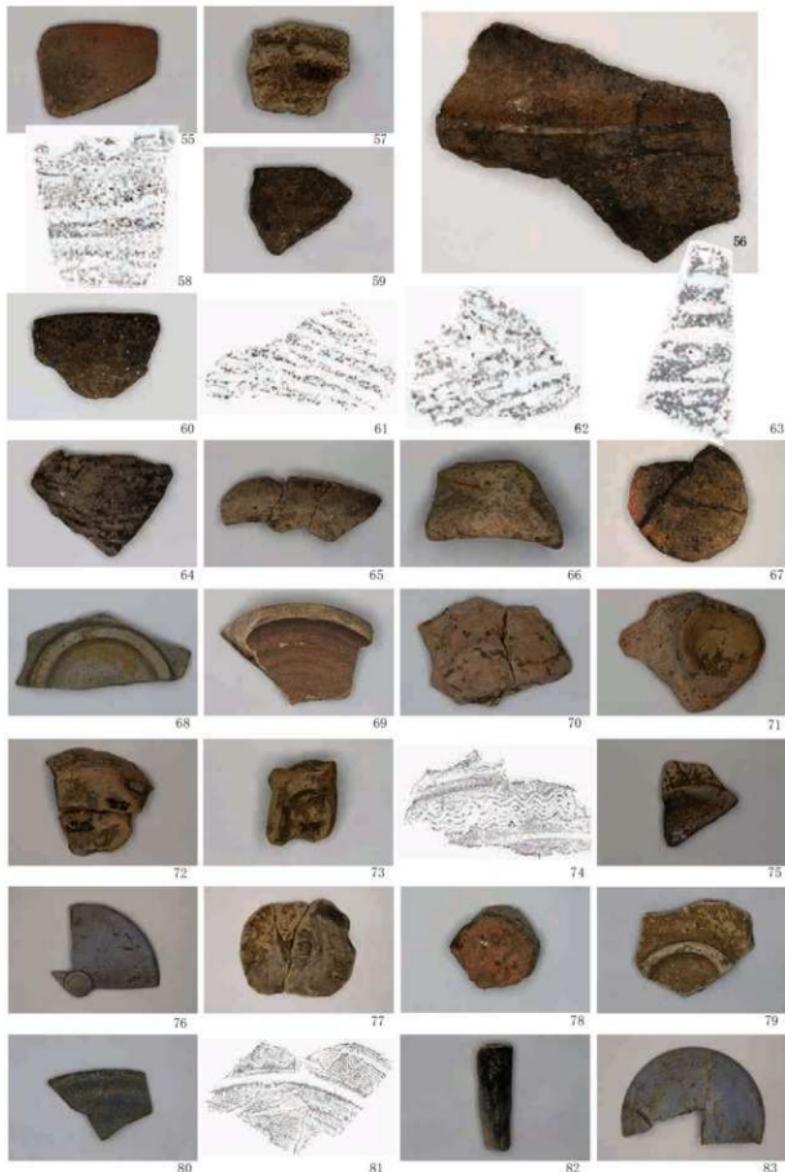


写真202 出土遺物(土器)④



写真203 出土遺物(土器)⑤



写真204 出土遺物(玉類)



写真205 出土遺物(土製品・金属器)



写真206 出土遺物(石器)①



写真207 出土遺物(石器)②

表6 出土遺物(土器)観察表

法量( )は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①:外側②:内側	色調 ①:外面②:内面	胎土	備考
1	1号住居SK3	土師器 壺	体部	②(2.0) ③残高9.8	①灰白色(7.5YR7/1) ②褐色(7.5YR6/6) ③浅黄色(2.5Y7/3)	0.5~3mmの長石・石英含む	
2	1号住居SK3	土師器 高壺	壺部	①(18.2) ③残高7.3	①に5~5.5cm褐色(5YR7/4) ②灰黄色(2.5YR7/2)	0.5~3mmの長石・石英・チャート含む	
3	1号住居SK3	土師器 壺	口縁部～底部	①(14.4) ②3.0 ③27.6	①に5~5.5cm褐色(10YR7/4) 褐色(7.5YR7/6) 暗褐色(N3/)	0.5~5mmの長石・石英含む	
4	1号住居床面	土師器 高壺	壺部～脚部	①(17.0)	①②褐色(5YR6/6)	0.5~1mmの長石含む	1号住居SK3と接合
5	1号住居床面	土師器 高壺	口縁部	③残高3.65	①に5~5.5cm褐色(10YR6/3) ②に5~5.5cm褐色(10YR7/3)	0.5~1mmの長石含む	
6	1号住居床面	土師器 高壺	壺部	③残高4.1	①②褐色(7.5YR7/6)	1mmの長石含む	
7	1号住居床面	土師器 高壺	脚部	②(11.3) ③残高6.9	①に5~5.5cm褐色(10YR7/3) ②に5~5.5cm褐色(10YR6/3)	0.5~1mmの長石・石英含む	
8	1号住居床面	土師器 壺	口縁部	①17.8 ③残高3.6	①に5~5.5cm褐色(7.5YR7/4) ②褐色(7.5YR6/6)	0.5~1mmの長石含む	
9	1号住居床面	土師器 壺	体部		①明赤褐色(5YR6/3) ②黒褐色(2.5Y3/1)	0.5~1mmの長石含む	
10	1号住居床面	土師器 壺	体部		①に5~5.5cm褐色(7.5YR6/4) 黒褐色(2.5Y3/1) ②浅黄色(2.5Y7/3)	0.5~1mmの長石含む	1号住居SK3と接合
11	2号住居主柱穴1	土師器 小型壺	頸部～体部	③残高7.3	①に5~5.5cm褐色(10YR5/3 ～6/3) ②褐色(7.5YR6/6)	0.5mmの長石含む	

法量( )は復元值

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①山積地盤高	色調 ①外面 ②内面		胎土	備考
					①橙色(7.5YR6/6) 褐色(7.5YR4/1) ②橙色(5YR6/6) 明赤褐色(2.5YR5/6)	①明赤褐色(5YR6/3) 褐色(5YR6/6) ②浅黄色(10YR5/3) 褐色(2.5Y3/1) ③にごり黄褐色(10YR5/4)		
12	2号住居 埋土	土師器 高坏	口縁部	③残高3.8		0.5~1mmφの長石含む		
13	2号住居 床面	土師器 高坏	坏部	③残高2.2	①明赤褐色(5YR6/3) 褐色(5YR6/6)	0.1~0.3mmφの砂粒含む		
14	2号住居 床面	土師器 壺	口縁部 ~体部	①(16.0) ③残高11.5	①にごり黄褐色(10YR5/3) 褐色(2.5Y3/1) ②にごり黄褐色(10YR5/4)	0.5~3mmφの長石・石英含む		
15	3号住居 主柱穴3	土師器 小型壺	口縁部 ~体部	①13.0 ③残高14.7	①橙色(5YR6/6) 黑色(10YR2/1) ②橙色(5YR6/6) 褐色(10YR4/1)	0.5~5mmφの長石・石英含む		
16	3号住居 壁溝	土師器 高坏	坏部	③残高3.25	①②明赤褐色(2.5YR5/6)	0.5~1mmφの長石・石英含む		
17	3号住居 床面	土師器 高坏	口縁部	③残高2.9	①明赤褐色(5YR5/6) ②明赤褐色(5YR5/8)	0.5~1mmφの長石・石英・チャート含む		
18	3号住居 床面	土師器 高坏	坏部	③残高2.3	①にごり橙色(7.5YR7/4) ②にごり黄褐色(10YR7/3)	0.5~3mmφの長石・石英含む		
19	3号住居 床面	土師器 高坏	脚部	③残高0.9	①②橙色(7.5YR7/6)	0.5~1mmφの長石含む		
20	3号住居 床面	土師器 小型壺 ~体部	口縁部 ~体部	①(9.6) ③残高11.2	①にごり黄褐色(10YR7/4) ②にごり黄褐色(10YR7/3)	0.5~2mmφの長石含む		
21	4号住居 SK1	土師器 高坏	脚部	③残高5.55	①②橙色(5YR6/6)	0.5~2mmφの長石含む		
22	4号住居 壁溝	土師器 壺	口縁部	③残高2.85	①②黄褐色(2.5Y4/1)	0.5~1mmφの長石含む		
23	4号住居 南西区 サブトレント	土師器 高坏	坏底部 ~脚部	③残高3.95	①橙色(2.5YR6/6) ②橙色(7.5YR7/6)	0.5~4mmφの長石・石英・チャート含む		
24	4号住居 北東区 サブトレント	土師器 壺	口縁部	③残高2.0	①②橙色(5YR6/6)	0.5~1mmφの長石・石英・チャート含む		
25	4号住居 南西区 床面	土師器 高坏	坏部 ~脚部	①(20.0)	①②明赤褐色(5YR5/6)	0.5~2mmφの長石・石英含む 0.5~5mmφのチャート含む		
26	4号住居 床面	土師器 高坏	坏部 ~脚部		①明赤褐色(5YR5/6) ②にごり黄色(2.5Y6/3) 明赤褐色(5YR5/6)	0.5~1mmφの長石・石英含む		SK44(2層)と接点なし同一個体
27	4号住居 南西区 床面	土師器 高坏	坏部	①(18.8) ③残高4.6	①橙色(2.5YR6/6) ②橙色(7.5YR7/6)	0.5~3mmφの長石・石英含む		
28	4号住居 南西区 床面	土師器 高坏	坏部	③残高2.7	①にごり黄褐色(10YR6/3) 明赤褐色(2.5YR5/6) ②橙色(2.5YR6/6)	0.5~2mmφの長石含む		
29	4号住居 床面	土師器 高坏	坏部	③残高1.55	①②橙色(5YR7/6)	0.5~1mmφの長石・チャート含む		
30	4号住居 床面	土師器 高坏	脚部	②(10.1) ③残高7.7	①橙色(5YR6/8) ②橙色(7.5YR6/8)	0.5~1mmφの長石・石英含む		4号住居埋土、SD4と接合
31	4号住居 南西区 床面	土師器 高坏	脚部	③残高8.75	①②橙色(7.5YR7/6)	0.5mmφの長石含む		
32	4号住居 南西区 埋土	土師器 高坏	脚部		①橙色(2.5YR6/6) ②灰黄褐色(10YR5/2)	0.5mmφの長石含む		
33	4号住居 床面	土師器 高坏	脚部	③残高2.85	①淡黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(5Y8/2)	0.5mmφの長石含む		
34	4号住居 十字アゼ	土師器 高坏	脚部	③残高1.3	①②浅黄色(2.5Y7/4)	0.5mmφの長石含む		
35	4号住居 十字アゼ	土師器 高坏	脚部	③残高1.85	①浅黄色(2.5Y7/3) ②橙色(5YR6/6)	0.5mmφの長石含む		
36	4号住居 床面	土師器 壺	口縁部 ~体部	①14.7 ③残高9.7	①灰黄色(2.5Y6/2~7/2) ②灰黄色(2.5Y7/2) 暗灰色(2.5Y5/2)	0.5~3mmφの長石・石英含む 0.5~1mmφの長石含む		4号住居十字アゼと接合

法量( )は復元量

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①単位面積面積	外色 ①外面 ②内面	胎土	備考	
							①暗灰黄色(5Y4/2) 浅黄色(2.5Y7/3) ②暗灰黄色(2.5Y4/2) 浅黄色(2.5Y7/3)	0.5~3mmの長石・石英・チャート含む
37	4号住居 南西区 床面	土師器 壺	口縁部 ～肩部	①(13.9) ③残高7.5	④灰黄褐色(10YR5/2) ⑤灰白色(10YR8/2)	0.5~3mmの長石・石英含む	4号住居南 北アゼ前落 土(おそらく 壊れ)と接合	SK44(2 層)と接合
38	4号住居 床面	土師器 壺	口縁部 ～肩部	①(19.4) ③残高4.8	④灰黄褐色(10YR5/2) ⑤灰白色(10YR8/2)	0.5~3mmの長石・石英含む		
39	4号住居 十字アゼ	土師器 壺	口縁部	③残高3.7	①にぶい黄褐色(10YR5/3) ②灰黄褐色(10YR6/2)	0.5~1mmの長石・石英含む		
40	4号住居 南西区 床面	土師器 壺	頭部 ～体部	③残高7.4	①浅黄褐色(7.5YR8/3) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.5~2mmの長石・石英含む		
41	4号住居 床面	土師器 壺	体部 ～底部		①赤褐色(2.5YR4/6) ②黒褐色(10YR3/1)	0.5~2mmの長石・石英・チャート・くさり織含む		
42	4号住居 (SK44 2層)	土師器 壺	口縁部	③残高4.25	①にぶい橙色(2.5YR6/4) ②にぶい黄褐色(10YR5/3)	0.5~3mmの長石・石英含む		
43	4号住居 (SK44 2層)	土師器 壺	口縁部	③残高3.0	①②橙色(5YR6/6)	0.5~1mmの長石・石英含む		
44	4号住居 (SK44 2層)	土師器 壺	体部		①浅黄褐色(10YR8/4) ②灰黄褐色(10YR4/2) ③浅黄褐色(10YR8/3) ④にぶい黄褐色(10YR7/3)	0.5~3mmの長石含む		
45-1	4号住居 床面	須恵器 球	口縁部 ～頸部	①(11.9)	①灰色(N5/6) ②灰白色(7.5Y7/1) ③灰色(N5/6)	砂粒をほとんど含まない	SK44(1 層)と接合	
45-2	4号住居 (SK44 1層)	須恵器 球	口縁部 ～頸部		①灰色(N5/6) ②灰色(N6/6)	砂粒をほとんど含まない	4号住居十 字アゼと接合	
45-3	北側 包含層2	須恵器 球	肩部		①灰白色(N8/8) ②灰色(N5/6) ③灰色(N4/6)	5mmのチャート含む	SK44(2 層)と接合	
45-4	4号住居 床面	須恵器 球	体部 (注口)		②灰白色(N5/6)	砂粒をほとんど含まない		
45-5	4号住居 (SK44 1・2層)	須恵器 球	体部		①灰白色(N8/8) ②灰色(N5/6) ③灰色(N5/6)	砂粒をほとんど含まない		
45-6	4号住居 (SK44 2層)	須恵器 球	底部		①灰白色(5YR6/2) ②灰色(N5/6) ③灰色(5YR8/2)	砂粒をほとんど含まない		
46-1 1-2	4号住居 東北区 サブフレン チ	須恵器 高坏	口縁部	①(17.8) ③残高6.8	①青灰褐色(SB5/1) ②灰色(N5/6)	砂粒をほとんど含まない	SK44(1・2 層)と接合	
46-3	北側 包含層2	須恵器 高坏	把手部		①灰色(N5/6) ②灰白色(7.5Y7/1)	砂粒をほとんど含まない		
47	Pit204	土師器 壺か	底部	③残高1.1	①灰黄色(2.5Y7/2)			
48	Pit325	土師器 豆	口縁部 ～体部	①(9.4) ③残高4.75	①にぶい橙色(7.5YR6/4) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)	0.5~2mmの長石含む 1mmのくさり織含む		
49	SK1	弥生土器 壺	口縁部	③残高2.85	①暗灰色(N3/3) ②灰白色(5Y8/1)	0.5~1mmの長石含む		
50	SK1	弥生土器 壺	口縁部	③残高4.1	①浅黄色(5Y7/3) ②橙色(7.5YR6/6)	0.5~1mmの長石含む		
51	SK111	土師器 高坏	脚部	③残高0.9	①②橙色(5YR6/6)	0.5~1mmの長石含む		
52	SK113	土師器 豆	口縁部 ～底部	①(12.7) ②4.05 ③6.4	①にぶい橙色(5YR7/6) ②灰白色(2.5Y8/1) ③にぶい黄褐色(10YR7/3) ④にぶい橙色(5YR7/4)	0.5~1mmの長石含む		
53	SK113	土師器 壺	口縁部 ～底部	①(12.1) ③残高19.1	①にぶい橙色(7.5YR7/4) ②灰褐色(7.5YRA1/1) ③にぶい橙色(7.5YR7/4) ④灰褐色(7.5YR6/2)	0.5~7mmの長石・チャート 含む		
54	SK119	土師器 高坏	坏部	③残高3.7	①にぶい橙色(7.5YR7/4) ②にぶい黄褐色(10YR7/2)	0.5~3mmの長石・石英含 む		
55	SK119	土師器 壺	口縁部	③残高2.7	①橙色(5YR6/6) ②にぶい橙色(7.5YR7/4)	0.5~2mmの長石含む		

法量( )は復元值

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量(cm) ①柱径・底径・高さ	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考	
56	NR1 4層	縄文土器 深鉢	頭部 ～胴部	③残高7.75	①褐色(10VR4/1) 灰黄褐色(10YR6/1) ②褐色(2.5Y4/1)	0.5～3mmの長石・石英・ チャート含む		
57	NR1 4層	縄文土器 器種不明	底部	③残高2.65	①淡黄色(2.5YR8/3) ②灰色(SV6/1)	0.5～2mmの長石・石英・ チャート含む		
58	NR1 4層	縄文土器 器種不明	口縁部	③残高2.4	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰色(SV4/1)	0.5～2mmの長石・石英含 む		
59	NR1 4層	縄文土器 器種不明	口縁部	③残高1.9	①黄褐色(2.5Y4/1) ②オリーブ黒色(5Y3/1)	0.5～5mmの長石・石英・ チャート含む		
60	NR1 4層	縄文土器 器種不明	口縁部	③残高2.2	①②オリーブ黒色(5Y3/1)	0.5～3mmの長石・石英・ チャート含む		
61	NR1 4層	縄文土器 器種不明	胴部		①に似い黄褐色(10YR5/3) ②灰黄褐色(10YR4/2)	0.5～2mmの長石・石英含 む		
62	NR1 4層	縄文土器 器種不明	胴部		①明褐色(7.5YR5/6) ②に似い褐色(7.5YR5/4)	0.5～3mmの長石・チャート 含む		
63	NR1 4層	縄文土器 器種不明	胴部		①に似い黄色(2.5Y6/3) ②オリーブ黒色(5Y3/1)	0.5～3mmの長石・石英含 む		
64	NR1 4層	縄文土器 器種不明	胴部		①灰黄色(2.5Y6/2) ②明褐色(7.5YR5/6) 黑褐色(2.5Y3/1)	0.5～2mmの長石・石英含 む		
65	NR1 3層	弥生土器 館	口縁部	③残高3.1	①暗黄色(2.5Y8/3) に似い黄褐色(10YR5/3) ②淡黄色(2.5Y8/3)	0.5～4mmの長石・石英・く さり織・チャート含む		
66	NR1 3層	弥生土器 館	底部	②(5.8) ③残高3.2	①浅黄褐色(10YR8/3) ②灰白色(2.5Y7/2)	0.5～2mmの長石含む		
67	NR1 2層 (肩部)	縄文土器 深鉢	底部	②(8.9) ③残高1.9	①灰黄褐色(10YR5/2) ②淡黄色(2.5Y8/3)	0.5～3mmの長石・石英・ チャート含む		
68	遺構検出 中	陶器 瓶	底部	②(4.8) ③残高1.3	輪:暗オリーブ色(7.5Y4/3) 蓋地:灰白色(5Y7/1)	砂粒を含まない		
69	南西部 遺構検出 中	陶器 器種不明	底部	②(9.0) ③残高1.9	①輪:灰白色(2.5Y8/1) 蓋地:浅黄褐色(10YR8/3) ②に似い橙色(7.5YR6/4)	砂粒を含まない		
70	北部 上層遺構 基盤層	弥生土器 高坏	坏部	③残高1.85	①浅黄褐色(7.5YR8/3) ②浅黄褐色(10YR8/3)	0.5～4mmの長石含む		
71	北側 包含層2	弥生土器 高坏	坏部 ～脚部	③残高3.3	①灰白色(100YR8/2) に似い黄褐色(10YR7/4) ②に似い橙色(7.5YR7/4)	0.5～4mmの長石・石英含 む		
72	北側 包含層2	弥生土器 館	口縁部	③残高2.1	①②に似い黄褐色 (10YR7/3)	0.5～1mmの長石・石英含 む		
73	北側 包含層2	土師器 高坏	脚部	③残高3.0	①②淡黄色(2.5Y8/4)	0.5～1mmの長石・くさり織 含む		
74	北側 包含層2	須恵器 高坏	坏部	③残高2.7	①灰色(N4/7) ②灰色(N5/7) ③灰白色(7.5Y7/1)	0.5～2mmの長石含む		
75	北側 包含層1	土師器 高台付坏	底部	③残高1.6	①淡黄色(2.5Y8/3) 灰白色(7.5Y7/1) ②灰白色(SV7/1)	0.5～2mmの長石含む		
76	北側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部 ～口縁部	①(11.0) ③2.2	①②灰白色(N7/1)	0.5～2mmの長石含む		
77	南西配溝 区 包含層	土師器 高坏	坏部	③残高2.4	①灰黄色(2.5Y7/2) ②浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～2mmの長石・石英含 む		
78	旧床土	土師器 高坏	基部	③残高2.0	①灰白色(2.5Y8/2) ②に似い橙色(7.5YR7/4)	0.5～4mmの長石・チャート 含む 1～2mmのくさり織含む		
79	遺構検出 中 (旧床土)	土師器 高台付坏	底部	②(5.6) ③残高2.0	①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(SV8/2)	2mmの長石含む		
80	旧床土	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①②青灰色(B6E/1)	0.5～1mmの長石含む		
81	遺構検出 中 (旧床土)	須恵器 高坏	坏部	③残高4.2	①灰色(10Y5/1) 灰白色(N8/1) ②灰白色(N7/1)	0.5～1mmの長石含む	北側包含層 2と接合	
82	遺構検出 中 (旧床土)	瓦質土器 足鍋	脚部	③残高5.6	①暗灰色(N3/1) 灰白色(5Y8/2)	0.5～1mmの長石・チャート 含む		

法量( )は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①長さ②幅(横幅)③厚さ(重さg)	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
83	南西拡張区 旧耕土 ・旧床土	須恵器 壺蓋	天井部 ～口縁部	①(10.8) ③残高2.1	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	南西拡張区 遺構検出中、北側包 含層1、NR 1アゼ(1層) と接合
84	南西拡張区 旧耕土 ・旧床土	陶器 描鉢	口縁部	③残高5.85	①に5%褐色(7.5YR6/4) に5%黄褐色(10YR6/4) ②灰褐色(7.5YR6/4)	1mmの長石含む	須佐床津
85	南西拡張区 旧耕土 ・旧床土	瓦質土器 羽釜	口縁部	③残高2.1	①浅黄色(2.5Y7/3) に5%黄色(2.5Y6/3) ②に5%黄色(2.5Y6/3)	0.5～1mmの長石・石英含 む	
86	南西部 整地土下 旧耕土	磁器 染付碗	底部	②(3.2) ③残高1.85	①明緑灰色(10GV8/1) 明緑灰色(10GV7/1) ②明緑灰色(7.5GV8/1) 裏地:灰白色(10Y8/1)	砂粒を含まない	
87	南西部 整地土下 旧耕土	白磁 紅皿	口縁部 ～底部	①(4.7) ②(1.7) ③1.5	①灰白色(10Y8/1) ②灰白色(5Y8/1)	砂粒を含まない	
88	南西部 整地土	陶器 壺	口縁部	③残高7.5	①灰白色(2.5Y8/2) ②に5%黄褐色(10YR7/3)	0.5～2mmの長石含む	
89	南西部 整地土	磁器 染付碗	口縁部	③残高1.95	①②明青灰色(10BG7/1) 青灰色(SB5/1) 裏地:灰白色(7.5Y8/1)	砂粒を含まない	
90	南西部 整地土	磁器 染付碗	口縁部	③残高4.4	①②明青灰色(10BG7/1) 青灰色(SB5/1) 裏地:灰白色(10Y8/1)	砂粒を含まない	
91	南西部 整地土	磁器 染付碗	底部 ～底部	②(4.2) ③残高4.1	①明青灰色(BB7/1) 青灰色(SB5/1) 裏地:灰白色(10Y8/1)	砂粒を含まない	

表7 出土遺物(玉類)観察表

法量( )は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm) ①長さ②幅(横幅)③厚さ(重さg)	材質	備考
92	3号住居 炙跡サンプル	玉	①0.3 ②0.3 ③0.155 ④計測不可	不明	
93	3号住居 炙跡サンプル	玉	①0.4 ②0.4 ③0.2 ④0.04	不明	
94	3号住居 炙跡サンプル	玉	①0.4 ②0.4 ③0.2 ④0.04	不明	

表8 出土遺物(土製品)観察表

法量( )は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm) ①長さ②幅(横幅)③厚さ(重さg)	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
95	NR1 4層 不明		①(4.85) ②(2.85) ③(2.3) ④(25.73)	①浅黄色(5Y7/3) オリーブ黄色(5Y6/3)	0.5～3mmの長石・石英・ チャート含む	

表9 出土遺物(金属器)観察表

法量( )は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm) ①長さ②幅(横幅)③厚さ(重さg)	備考
96	南西部 整地土下 旧耕土	針	①(3.55) ②0.7 ③0.6 ④(3.43)	

表10 出土遺物(石器)観察表

法量( )は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm) ①長さ②幅(横幅)③厚さ(重さg)	石材	備考
97	2号住居 床面	剥片	①6.4 ②5.0 ③0.9 ④24.63	石英安山岩	
98	3号住居 床面	不明	①3.6 ②7.95 ③5.6 ④326.16	石英	
99	SK44 1層	不明	①(4.35) ②(5.75) ③(1.45) ④(49.99)	安山岩	
100	SK44 2層	作業台	①(28.7) ②(16.1) ③(9.1) ④(6520)	火山礫凝灰岩	
101	SK71	剥片	①(2.5) ②(1.3) ③(0.9) ④(3.08)	黒曜石	
102	NR1 4層	石錐	①9.5 ②8.0 ③1.7 ④176.64	石英安山岩(ダイサイト) 質溶結凝灰岩	
103	NR1 4層	磨石	①10.65 ②9.9 ③5.6 ④968.31	火山礫凝灰岩	
104	NR1 4層	石鍼	①3.35 ②1.65 ③0.45 ④2.04	安山岩	
105	NR1 4層	剥片	①5.2 ②2.0 ③0.6 ④8.12	安山岩	
106	北側 包含層1	石斧	①(10.4) ②(6.9) ③(2.9) ④(264.89)	安山岩	

## (6) 小結(図38~40)

当調査は、吉田構内の中心部に位置する「中央広場」敷地にて実施された。構内はその名のとおり中央広場を中心各学部施設が配置されている。北に面する総合図書館、東に面する農学部および共同獣医学部、南東に面する理学部、南西に面する経済学部、西から北西に面する共通教育棟、そして北東に面する埋蔵文化財資料館を含め、いずれも埋蔵文化財保護を目的とした発掘調査が実施されていない。換言すれば、総合図書館増築工事に伴う発掘調査を除くと、吉田構内の中央部は長らく地下の様相が不明瞭のまま現在に至っていたことになり、重ねて換言すれば、そのために中央広場では地下の遺跡が破壊されず現在に至ったことになる。

このたび、その吉田構内中央部において、福利厚生施設(FAVO(山大生協運営) : カフェレストランや売店、ブックストア、多目的ルームを併設)新営工事が計画されたことを受け、初めて本格的な発掘調査が実施されることになった。

調査の結果、堅穴式住居跡や掘立柱建物跡からなる古墳時代中期中葉の集落が確認されるに至った。集落は吉田構内の南に聳える今山から北西方向に派生した丘陵端部に形成されたとみらる。集落の南西には北西に走る自然河川が検出されたが、集落が営まれた時期にはその機能は失われ、窪地に姿を変えている。一方集落の北方80mにも西流する自然河川が検出されており(総合図書館3号館敷地)、この河川は少なくとも平安時代まで機能し続けている。調査地は後世に大きく削平にされているため、当時の地盤高は推定しがたいものの、各堅穴式住居跡の床面高が25cmの差に収まっていることから、集落は南東から北西に緩やかに降下する尾根上に営まれたものと推測される。

検出された4棟の堅穴式住居跡は、出土遺物からは明確な時期差は見いだせず、同時期に営まれていたとみられる。住居跡は南北軸をそれぞれ違えているが、住居内焼土(地床炉)の位置や入り口施設とみられる痕跡から、4号住居跡を除くと、2号住居跡の南側空間に向けて建物を配し、掘立柱建物群は、空間の南西に設けられたと考えられる。

堅穴式住居跡は、1号および3号住居跡は4本主柱で、2号および4号は2本主柱である。3号住居跡は他の建物に比して平面積が小さく、床面の広範囲に焼土が広がることから、中央に柱を配せない理由があつたのだろう。住居ではなく作業場や工房などの用途が推定される。ほぼ同時期と推定される集落跡で、2本主柱堅穴式住居跡を複数棟確認した朝田墳墓群VII地区の調査では、山口県内の古墳時代中・後期の堅穴式住居はほとんどが4本主柱であり、2本主柱が稀な存在であることが指摘されている。両遺跡は権野川をはさみ4kmの隔たりがあるが、その出自由来については今後の課題となろう。

県内では、堅穴式住居内の造り付け竈が普及するのは6世紀以降と考えられており、今回検出された各住居跡とも造り付け竈は確認されていない。注目されるのは、当調査区の北方140mの低丘陵部(第2学生食堂敷地北西部)にて確認された集落跡である。昭和46年(1971)に山口大学吉田遺跡調査團によって実施された発掘調査では、6棟の堅穴式住居跡が検出されている。4本主柱とみられる第1号住居跡を除くと主柱の位置が明確ではないが、その内2棟で造り付け竈の存在が指摘されている(図38)。竈を有する第2号住居跡は第3号住居跡を切っており、同じく竈を有する第6号住居跡は両者にほぼ接していることから、同時存在は考えがたい。各号住居跡出土遺物を見ると、二重口縁壺や小型器台など、中央広場住居跡出土土器に比してやや古い様相を示すように感じられるものの、6号住居跡から出土している初期須恵器壺と中央広場4号住居跡出土壺に時期差は見いだせないようである。また、調査團の調査精度やその後の出土遺物保管状況を考慮すると、直ちに集落間の先後関係に言及できる状況はない。



図38 吉田遺跡第I地区E区遺構分布図

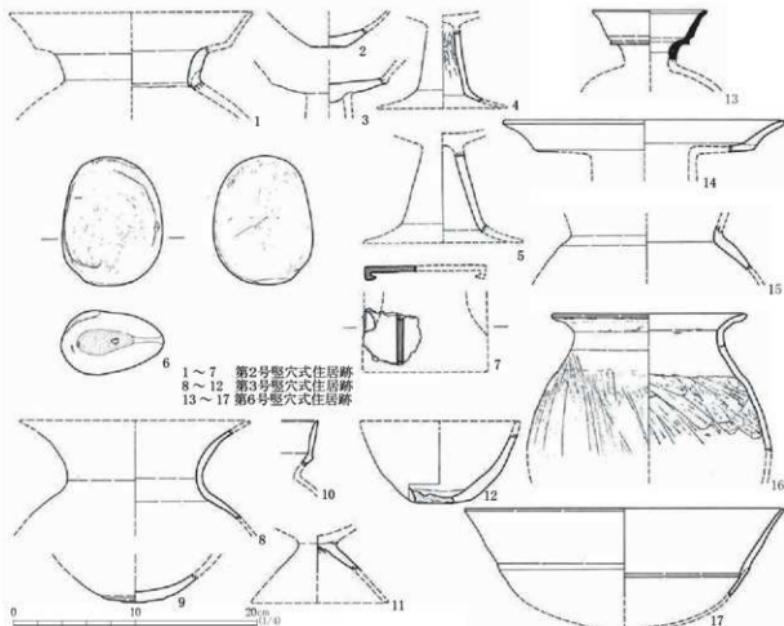


図39 吉田遺跡第I地区E区堅穴式住居跡出土遺物

一方で吉田構内が所在する権野川左岸の平川地区は、県内でも最初期に造り付け竈が出現する地域の一つに数えられている。吉田遺跡の南西1.25kmに位置する小路遺跡では、造り付け竈を有する堅穴式住居跡が2棟確認されている。柱の配置が不明確で、住居としては小型過ぎるように思える施設であるが、出土遺物に乏しいものの、古墳時代中期前葉に比定されている。<sup>28)</sup>吉田遺跡第2学生食堂敷地第6号住居跡は、それに次ぐ中期中葉の造り付け竈を有する住居となるが、中期後葉の堅穴式住居跡が検出されている西遺跡や神郷大塚遺跡など近隣の遺跡を概観すると、その後造り付け竈は定着せず<sup>29)</sup>に6世紀を迎えるようである。古墳時代中期の造り付け竈の出現は、当地域の生活様式を急速に大きく変化させる要素とはなり得なかった可能性が高い。<sup>30)</sup>

初期須恵器に注目すると、4号堅穴式住居跡出土高坏・罐は、第2学生食堂敷地第6号住居跡出土罐口縁部片、総合図書館3号館敷地自然河川埋土出土甕底部片に次ぐ出土例となる。罐は焼成不良が著しく、産地は断定できないものの遠路はるばる運ばれたことに驚嘆する資料である。また、高坏脚柱部の欠落にも注目すべきであろう。後世の削平时に欠失したとも考えられるが、住居跡およびSK44埋土、そして遺構上部を覆う遺物包含層から小破片すら出土していないのは偶然であろうか。1号住居廃棄時祭祀遺構の可能性があるSK3からは、人為的に脚柱部を欠失させた土師器高坏に小型蓋が載せられた状態で出土している。現在となっては写真記録が残るのみだが、壺の腹部には焼成後穿孔が見られたことから、罐として用いられたと推定される。4号住居跡初期須恵器を強く連想させる状況であろう。憶測にはなるが、高坏脚柱部を欠落させることに何らかの祭祀的意義が存在した、もしくは初期須恵器高坏が当地にもたらされた際には既に脚柱部が欠落していたなどの可能性までをも考えておきたい。

最後に、再度4号堅穴式住居跡の埋め戻し保存について書き記しておく。本学では、教育研究の利便性を優先するため、近年は遺跡の現地保存が行えない状況が続いてきた。当開発計画は教育研究と直接的に関係しないことから、計画変更による現地保存が可能と軽々に考えた自分が許しがたく、遺跡に關し新たな知見が得られる喜び以上に陰鬱な現地調査が続いた。末筆ではあるが、遺跡の保存に理解を示し、自ら設計変更を提案してくれた山口大学生活協同組合には、深く感謝の意を表したい。

(横山)

#### 【註】

- 1) 本学が吉田構内において埋蔵文化財保護への取り組みを開始した昭和41年(1966)にすでに竣工していた農学部・共同獣医学部本館南棟は兎も角、その他の施設については、いずれも不充分ながら本学に埋蔵文化財保護体制が整えられた後に建設されている。その経緯に至る詳細な記録は残されていないが、「本学の教育研究のため」という辞柄のもと遺跡破壊が横行していたことは想像に難くない。
- 2) 河村吉行(1985)「中央図書館増築予定地M-16区の発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅱ』、山口
- 3) 横山成己(2016)「図書館改修工事及び環境整備(図書館周囲道路迂回)工事に伴う本発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』、山口
- 4) 小南裕一ほか(2009)『朝田墳墓群Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ地区的調査成果』、山口県埋蔵文化財センター調査報告第71集、山口県埋蔵文化財センター館(編)、山口
- 5) 小野忠熙(1976)『山口大学構内吉田遺跡発掘調査概報』、山口大学吉田遺跡調査団、山口  
豆谷和之(1994)「付篇 I 第1章 吉田遺跡 I 地区E区の調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)、『山口大学構内遺跡調査研究年報XII』、山口
- 6) 註4文献(豆谷)で、第5号堅穴式住居跡は中世の遺構である可能性が指摘されている。

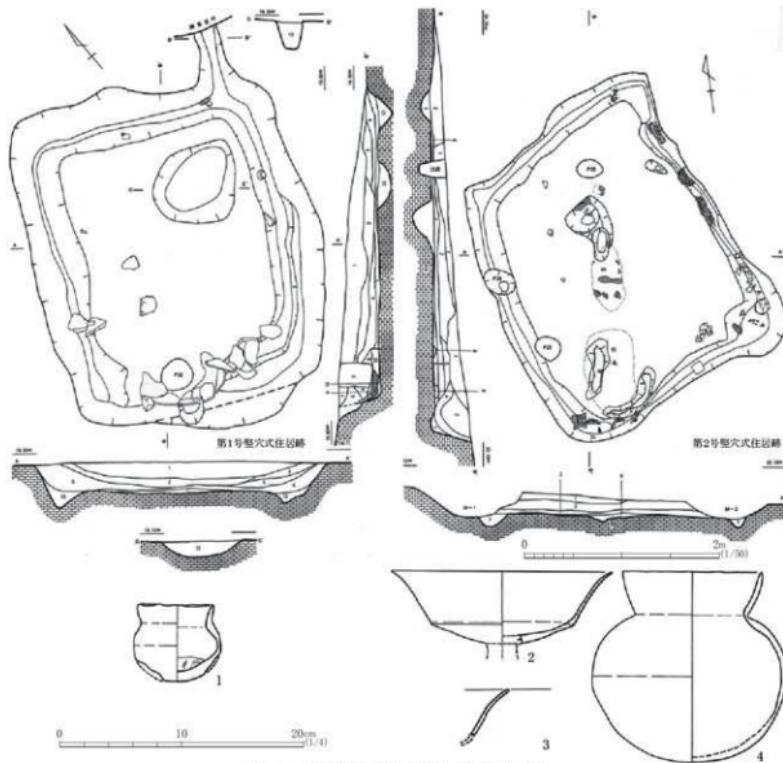


図 40 小路遺跡の竪穴式住居跡と出土遺物

- 6) 註4文献(豆谷)では、住居跡の切り合い関係と初期須恵器と土師器の対比から、2号→3号→6号の変遷を想定している。
- 7) 当館に残された吉田遺跡第Ⅰ地区E区の調査カラー写真を見ると、第2号竪穴式住居跡床面の北部に口縁が全周し、部分的に肩部まで遺存している須恵器甕に見える土器が写り込んでいる(田畠直彦(1998)『学内発掘20年の歩み』、山口大学埋蔵文化財資料館(編)、山口)。当遺物は当館に残されていないことから、文献4(豆谷)では触れられていない。
- 8) 縄田潔(1991)『小路遺跡Ⅱ』山口市埋蔵文化財調査報告書第37集、山口市教育委員会・山口市文化財センター(編)、山口  
9) 石川克彦・菅波正人(1986)『西道路』山口市埋蔵文化財調査報告書第21集、山口市教育委員会(編)、山口
- 10) 増野淳一・杉原一惠(1991)『神郷大塚遺跡』山口市埋蔵文化財調査報告書第38集、山口市教育委員会(編)、山口
- 11) 納合図書館3号館敷地にて検出された自然河川南東流路最下層から、古墳時代前中期の土器とともに移動式窯が出土していることには注目しておきたい。

## 3. 教育学部附属特別支援学校ガス管引替工事に伴う立会調査



図 41 調査区位置図



写真 208 A地点土層断面（南西から）

調査地区 吉田構内C-21区 D-20・21区

調査面積 41.5m<sup>2</sup>

調査期間 平成29年7月24・25日

調査担当 横山成己

## 調査結果

教育学部より、附属特別支援学校正門から教室棟Bまでのガス管を更新する工事計画が寄せられたことから、立会調査を実施する運びとなった(平成29年度第1回埋蔵文化財資料館専門委員会(5月11日(木)開催:メール審議)にて承認)。

調査地の南に隣接して行われた立会調査では、現地表下60cmに遺物包含層とみられる層厚10cmの黒褐色砂質土層を検出し、その下位には河川堆積と思われる砂礫土層が認められた(図41)。今回の掘削深度は50cmであったが、慎重を期して掘削が開始される南西部(A地点)からB地点まで2日間の工事立会を実施した。

その結果、既設ガス管との距離が近かったためか、全域で造成土下に既設管の巻砂が確認され、自然堆積層が検出されなかったことから(図42、写真208)、以北の工事区間の調査は中止することとなった。

## 【註】

- 横山成己(2014)「教育学部附属特別支援学校雨水排水補修工事に伴う立会調査」。山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成22年度－』。山口

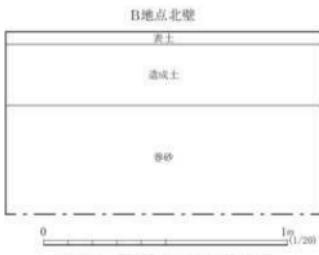


図 42 A地点土層断面柱状図

## 4. 解剖実習棟屋外環境整備工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内R-19区

調査面積 40.3m<sup>2</sup>

調査期間 平成29年11月6・7日

調査担当 横山成己

## 調査結果

平成29年度に入り、共同獣医学部より解剖実習棟の屋外環境整備工事を行いたい旨相談があつた。計画地は、古代官衙に関連する造構や遺物が密に埋存する地域であり、慎重な埋蔵文化財保護対応が必要となるが、計画は本発掘調査が実施された解剖実習棟の南側、動物医療センター2号館の西側に近接してコンクリート土間を設置し(A地点)、実習等の北東部に動物の逃亡防止用フェンスを設置する(B地点)というものだった。B地点においても、北に隣接する果樹園で現地表下20~40cmで土壤や溝、ピットが密に分布することが判明しているため、平成29年度第2回埋蔵文化財資料館専門委員会(8月4日(金)開催)にて対応が審議され、立会調査を実施することが承認された(図43)。

調査の結果、A地点では解剖実習棟と動物医療センター2号館の本発掘調査区とみられる埋め戻し土が確認されたが、現地表下70cmで旧耕土、下位に旧床土が遺存している部分を確認することができた(図44、写真209)。B地点の掘削深度はわずか20cmであったが、10cmの表土下位に遺物包含層の可能性がある褐色土層を確認した。今後とも細心の注意を払い埋蔵文化財保護対応を行う必要がある。

## 【註】

- 1) 田畠直彦(2004)「平成7・10~14年度山口大学構内遺跡調査の概要」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X VI・X VII』、山口
- 2) 横山成己(2019)「動物医療センター(リニアック室等)新設その他工事に伴う本発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)、『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』、山口
- 3) 横山成己(2014)「農学部附属農場果樹園側構新設工事に伴う立会調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』、山口



図43 調査区位置図



写真 209 A地点北壁上層断面（南から）

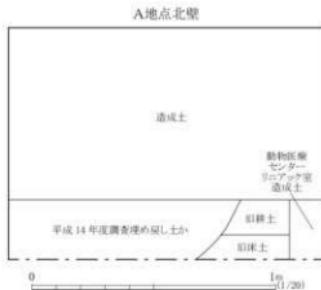


図44 A地点土層断面柱状図

## 5. 環境整備(ため池5)雨水改修工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内O-6区 K・L-10区 調査面積 18.5m<sup>2</sup>

調査期間 平成29年11月15・24日 調査担当 横山成己

### 調査結果(図45、写真210・211)

吉田構内の正門東隣にある蓮池は、平成19年(2007)に山口市仁保の源久寺から古代(大賀)蓮約50株を分けていただき整備したもので、長らく学生や地域住民の目を楽しませてきたものの、近年は池への水回りが悪くあまり開花しない状態が続いている。施設環境部よりため池5から蓮池への導水工事を行いたい旨相談があったのは、本来であれば蓮の見頃を迎える平成29年度の梅雨時期のことであった。

ため池5掘削地点(A地点)は周知の埋蔵文化財包蔵地外であるが、池の成立は古く、近世に作成された地下上申絵図「吉田村」にはすでに「山王堤」の名で描かれている。またビオトープに導水するB地点も新規掘削となることから、慎重を期し立会調査を実施することが第2回埋蔵文化財資料館専門委員会(8月4日(金)開催)にて承認された。調査の結果、両地点とも埋蔵文化財に支障は生じなかつた。



図45 調査区位置図



## 6. 理学部1号館駐輪場設置工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内N-20区

調査面積 約3.8m<sup>2</sup>

調査期間 平成30年3月13日

調査担当 田畠直彦

## 調査結果

理学部1号館(人文・理学部管理棟)北側で駐輪場の屋根の新設に伴い、6箇所で基礎部分の掘削工事が計画され、立会調査を実施することになった(平成29年度第5回埋蔵文化財資料館専門委員会(1月4日(木)開催:メール審議)にて承認)。

工事は基礎部分について平面形約80cm×80cm、現地表下約80cmまで掘削を行うものである。

調査の結果、現地表下17~23cmまでは造成土で、以下で弥生時代以降の遺構面形成層である明黄褐色(2.5Y7/6)シルトを検出した。統合移転前に存在した水田耕土と床土は検出されず、調査区内は削平されていることが判明した。

今回調査区の西側に位置する理学部駐輪場屋根新設工事に立会調査区では、西半部では床土とみられるるぶい黄褐色(10YR5/3)粘質土が確認されたが、東半部では造成土直下で弥生時代以降の遺構面形成層である明黄褐色(2.5Y6/6)シルトが検出されたことから、今回調査区付近は構内造成時に削平されたと考えられる。

## 【注】

- 1)横山成己(2020)「理学部駐輪場屋根新設工事に立会調査」、  
山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成27年度—』、山口

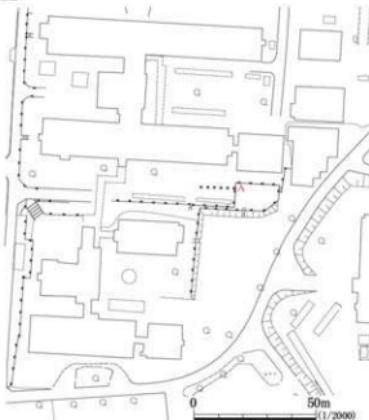


図 46 調査区位置図



写真 212 調査区全景（南西から）



写真 213 A地点土層断面（南から）

### 第3節 平成30年度 吉田構内(吉田遺跡)の調査

#### 1. 福利厚生施設新営工事に伴う緊急立会調査



図47 調査区位置図



写真 214 破壊状況の確認（南西から）



写真 215 破壊状況の確認（西から）

調査地区 吉田構内M-18区

調査面積 91m<sup>2</sup>

調査期間 平成31年3月25・26日

調査担当 横山成己 水久保祥子

#### 調査結果

##### (1) 調査の経緯(図47、写真214・215)

福利厚生施設新営工事に伴う本発掘調査は埋め戻しを平成30年(2018)10月25日(木)に終了し、山口大学生活協同組合(以下「山大生協」)に敷地の引き渡しを行った。

発掘調査中のネットフェンスから工事用目隠しフェンスに付け替えられたため、平地からは工事の様子を窺うことができなくなったが、新営施設の設備関連工事立会が目前に迫った翌年3月15日(金)に、北に隣接する総合図書館1号館3階南側テラスから工事地内の状況を確認したところ、基礎杭と地中梁の配置(形状)が本発掘調査区の形状と異なることに気づいた。直ちに施設環境部に連絡を入れ、同日中に工事現場に入り、被害状況を確認した(写真214・215)。

3月19日(火)に山大生協および開発請負業者、本学事業主体となった学生支援部、工事の助言者的立場にあり、山大生協と当館とのつなぎ役を務める施設環境部に経緯を問いただしたところ、開発図を付した文化財保護法93条提出(11月15日付)後の12月に新規建物の南西部に地中梁を追加する設計変更を行ったこと(図47)が判明した。山大生協から施設環境部および学生支援部には12月中に新たな設計図が渡されていたが、その設計図が当館には届けられることはなく、山大生協から設計変更の説明などもなかったことから、施設環境部も変更に気づかなかつたとのことであった。

工事ではすでに基礎及び地中梁が設置されていたが、15日の観察で記録を残せる箇所が残存していることを確認したことから、当該地での工事を差し

止め、緊急対応として立会調査を実施することとなった。

### (2) 調査の成果(図48、写真216~223)

ここでは、本発掘調査での南西拡張区東側破壊部をA区、北側破壊部をB区とする。

A区の破壊部は基礎及び地中梁設置部に限られており(写真216)、梁間は島状に残されていたが、梁部の掘削は遺構検出面である地山まで及んでいた(写真217)。遺構の破壊が推定されたが、すでに構造物が設置されていることから調査を断念した。

B区の基礎及び地中梁設置部も同様の状況であったが、地中梁間も掘削が行われていたことから、より破壊が深刻であった。地中梁により区画ができていたため、ここではそれぞれ北調査区、南調査区とする(図48)。工事により掘削面が荒れていたため、まず掘削面の精査を行い、破壊状況を確認することになった(写真218)。

精査の結果、南区では、本発掘調査南西拡張区北壁の遺存を確認した。調査区外の掘削は、東側で地山直上に設けられた整地土層に止まる部分を確認したが、西側では地山が露出しており、本発掘調査SK132の延長部が上部の削平された状態で検出された(写真219~220)。

北区の削平は更に甚大で、全城で地山が削平を受けていた。検出されたのは溝1条、杭跡6箇所と少數であった(写真222~223)が、本来はさらに複数の遺構が存在した可能性がある。

開発請負業者に確認したところ、地中梁間はそのまま埋め戻すことであったため、遺構検出後は写真撮影を行い、本発掘調査区と合成できるよう遺構平面図(1/20)を作成し(写真221)、調査を終えることになった。

### (3) 遺跡の破壊について

今回の遺跡破壊の経緯と調査成果については、3月29日(金)に開催された第6回埋蔵文化財資料館専門委員会にて報告を行った。連絡不足や確認不足の指摘、文化財保護法を遵守すべき等の意見が出されたが、長きにわたり当開発計画に対応した担当者として、今回の破壊に関する意見を書き記しておく。

福利厚生施設新営が立案されて以降、当工事に対し本学には常にひとごと感が漂っていた。当案件に関し、本学関係部署に対応等を求める際には、冒頭に「それは生協が(に)…」と回答されるのが常であった。そのような状況に面するたび警鐘を鳴らしたつもりであったが、最後までひとごと感を拭い去事ができなかつた。その状態こそが遺跡を破壊した主原因と断定したい。

確かに、開発者は山大生協であり、建設費用だけでなく埋蔵文化財調査費用も本学ではなく山大生協が負担するという内容での計画であったが、建設されるのはあくまでも山口大学の施設であり、だからこそ本学関連部署が動いていたはずである。埋蔵文化財調査に関しては、法律上も実態もその主体者は本学で、調査担当者は当館館員となっている。当館による発掘調査終了後の開発状況の点検が手緩かったことも含め、今回遺跡を破壊したのは紛れもなく吾々なのだ。法を遵守するだけで文化財が護れるわけではない。問われるべきは本学の文化財保護理念であり、それを具体化するよう吾々が行動できているかにある。自戒も込め、この失態を糧に漸進的にでも向上して行けるよう、今後努めていきたい。

#### 【註】

1) 現に本学が公開している『キャンパススマスター・プラン2021』(山口大学施設環境委員会)には、「皆付による整備」として「(吉田)

福利厚生施設(FAVO)新営」と明記されている(89頁)。

2) 文化財保護法第92条の「調査主体者」は学長名が記入され、提出されている。

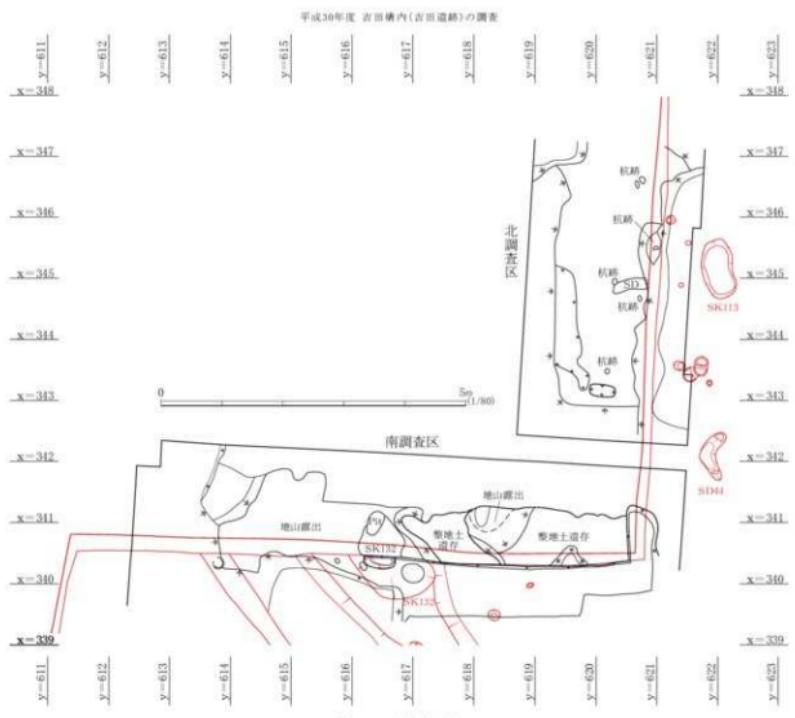


写真 216 A区の状況（南西から）



写真 217 A区の工事掘削状況（西から）



写真 218 B区南調査区作業風景（西から）



写真 219 B区南調査区遺構検出状況（西から）



写真 220 B区南調査区遺構検出状況（南東から）



写真 221 B区南調査区作業風景（南東から）



写真 222 B区北調査区遺構検出状況（北から）



写真 223 B区北調査区遺構検出状況（南西から）

## 2. 福利厚生施設新営工事に伴う立会調査



図 49 調査区位置図

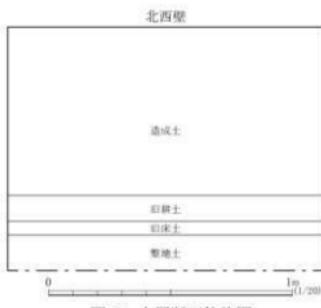


図 50 土層断面柱状図



写真 224 配管掘削ルート (北東から)



写真 225 北西壁上層断面 (南東から)

## 3. 農学部附属農場牛舎改修工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内T-10区

調査面積 1.35m<sup>2</sup>

調査期間 平成31年2月5日

調査担当 横山成己

## 調査結果

昭和41年(1966)に始まる本学吉田構地区統合移転において、最初に移転した学部は農学部であった。農学部は校舎の設置と同時に附属農場の整備も進めたが、本学が埋蔵文化財保護対応を開始する前の事業であったため、附属農場敷地に埋存したであろう多くの遺構は、消滅の憂き目に遭ったもののが多かったと推定される。

当時の附属農場関連整備工事で、唯一埋蔵文化財保護対応が取られるのは、昭和41年に実施された牛舎新営に伴う発掘調査(第IV地区の調査)であった。調査では4棟の竪穴式住居跡や土壙、ピット、溝などが検出されており、調査後の略報では古墳時代後期の竪穴式住居跡と評価されたが、当館による出土資料再調査により、古代の竪穴式住居跡であることが判明した。<sup>1)</sup>

工事は既設牛舎内の改修が主体で、地下の掘削は牛舎北部の狭小範囲に限られたが、昭和41年度の調査では地表直下が構造面であったことを重視し、立会調査を実施する運びとなった(図51)。

掘削は40cmの深度で、調査の結果、現地表下27cmまでが表土及び造成土で、下位には暗褐色(10YR3/3)と明黄褐色(10YR6/6)のシルトが混ざり合う地山状の土層が確認された(図52、写真226)。昭和41年の発掘調査後の土地改变の状況が不明であるが、地山状土が調査区の埋め戻し土である可能性も排除できない。今後も慎重な対応が求められる。

## 【註】

1) 小野忠熙(1976)『山口大学構内 吉田遺跡発掘調査概報』、

山口大学吉田遺跡調査団、山口

2) 横山成己(2021)「吉田遺跡第IV地区的調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成28年度—』、山口



図 51 調査区位置図



写真 226 東壁土層断面（西から）



図 52 土層断面柱状図

## 4. 経済学部身障者用カーポート設置工事に伴う立会調査



図 53 調査区位置図



写真 227 A区北壁土層断面（南から）



写真 228 B区北壁土層断面（南から）



調査地区 吉田構内K-21区

調査面積 3.6m<sup>2</sup>

調査期間 平成31年2月20日

調査担当 横山成己

## 調査結果

次年度に車椅子を使用して通学する学生が入学する予定であることから、経済学部より身障者用駐車場カーポートの設置計画が届けられた。12月14日(火)から第4回埋蔵文化財資料館専門委員会を開催(メール審議)し、埋蔵文化財保護対応として基礎工事掘削部の立会調査を実施することが承認された。

工事予定地の北西約100mには、弥生時代から古墳時代にかけての集落が営まれた微高地(遺跡保存公園)が存在しており、予定地の西に隣接する東アジア研究棟・経済学研究科棟新営に伴い実施された予備発掘調査では、調査区西側においてその微高地の延伸地が、東側において埋没河川が確認された。<sup>註1)</sup>埋没河川は、造成土および旧耕土、旧床下位の現地表下95cmで検出されている。

基礎掘削は南北2箇所(A・B区)で行われた(図53)。A区では現地表下60cmに旧耕土とみられる灰色(10Y4/1)シルトを確認したが、B区の掘削は造成土内に止まった(図54、写真227・228)。

## 【註】

- 横山成己(2013)「経済学部東アジア研究科・経済学研究科棟新営工事に伴う予備発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)、『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成21年度－』、山口

A区北壁



図 54 土層断面柱状図

## 5. 理学部3号館横駐輪場設置工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内P-18区

調査面積 64.1m<sup>2</sup>

調査期間 平成31年3月5日

調査担当 横山成己

## 調査結果

11月に至り、理学部より理学部3号館南側に新たに駐輪場を設置する事業計画が寄せられた。駐輪場基礎部の掘削は6箇所程度で、深度は約60cmとのことであった(図55)。

理学部3号館は元来農学部の校舎として、吉田地区統合移転開始期の昭和41年(1966)に建設されたため、埋蔵文化財調査が実施されていない。東西道路を挟んで南に隣接する共同獣医学部実験動物施設は、新營時に試掘調査が実施されており、北側調査区で地表下60~90cmで地山もしくは谷(河川)埋土とみられる砂礫層を確認している。その他に周囲に目立った調査歴が存在しないことから、11月27日(火)から開催された第3回埋蔵文化財資料館専門委員会(メール審議)では立会調査が提案され、承認された。

実際の掘削は基礎設置部5箇所で行われ、いずれも造成土内に止まることが確認された(図56、写真229・230)。

吉田構内は、動物医療センター周域など地下の掘削を伴う工事計画が頻出する地域と、開発が止まる地域に二分される傾向があるが、当地域は後者に該当する。詳細な地下の情報を得るために、今後も調査を継続していきたい。

## 【註】

1) 河村吉行(1992)「吉田構内農学部動物舍新営に伴う試掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X』、山口



図 55 調査区位置図



写真 229 調査区全景（東から）



写真 230 D区北壁土層断面（東から）



図 56 土層断面柱状図

## 6. 実験研究棟（中高温微生物研究センター）改修工事立会調査



図57 調査区位置図

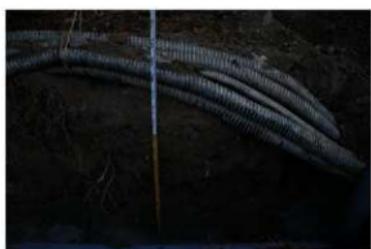


写真231 A地点(北から)



写真232 B地点(南西から)

調査地区 吉田構内O-16区

調査面積 21m<sup>2</sup>

調査期間 平成30年10月22・24日

平成31年1月15日

調査担当 水久保様子

## 調査結果

中高温微生物研究センターの改修工事に対し、平成29年度第7回埋蔵文化財資料館専門委員会での審議により埋蔵文化財保護対応を工事立会とするとなり、それに基づき給排水設備の管路掘削に対して立会調査を行った。

A地点は現地表下140cmまでの掘削で全て造成土の範囲内であった。B地点の掘削は現地表下75cmで、アスファルト敷の裏込めの疊層(層厚約30cm)、その下層に造成土が確認された。C地点は現地表下75cmの掘削で全て造成土であった。

なお、当調査地に近い連合獣医学科研究棟新営工事に伴う発掘調査では縄文時代の遺物を包含する河川跡が検出されており、今後も慎重な対応が必要である。

## 【註】

1)豆谷和之(1994)「吉田構内農学部連合獣医学科棟新営に伴う発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X II』、山口



写真233 C地点(北から)

## 7. 国際総合科学部誘導サイン取設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内I-16区

調査面積 0.85m<sup>2</sup>

調査期間 平成30年7月12日

調査担当 横山成己

## 調査結果

平成29年度末に、施設環境部より教育学部の北側に国際総合科学部の誘導サインポードを設置する計画の相談があった。国際総合学部は、平成27年(2015)に新設された学部であるが、教育学部校舎の一部を移管したため、校舎の位置が分かりづらいとの指摘に対応するための措置であった(図58)。

予定される基礎掘削範囲は狭小であり、深度も60cmとのことであった。周域施設の設置時期が古く、埋蔵文化財調査を経ずに建設されていることから、平成29年度第7回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成30年3月26日(月)開催)にて立会調査が提案され、承認された。

工事計画地が斜面地であったことから、実際の掘削は現地表下100cmに及んだ。調査の結果、掘削範囲の大部分は表土下が造成土であったが、南東端部において現地表下60cmに層厚8cmの旧床土、下位に明黄褐色(2.5Y7/4)シルト(地山)が遺存することを確認した(図59、写真234)。

地山がなぜ大きく削平を受けているのか不明だが、比較的浅くに地山が遺存していることを確認できたことは、将来的な周辺域での開発に備える意味で貴重な成果となった。



図 58 調査区位置図



写真 234 南壁土層断面 (北西から)

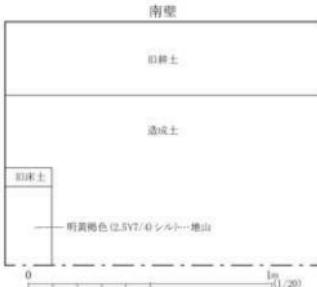


図 59 土層断面柱状図

## 8. 基幹・環境整備(ブロック塀対策)工事に伴う立会調査

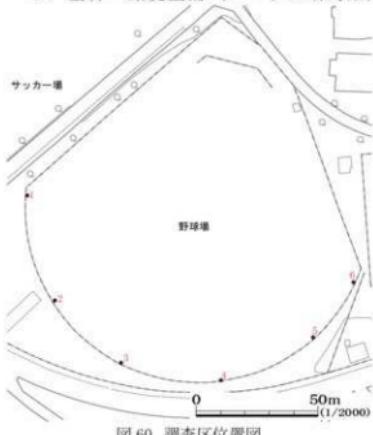


図 60 調査区位置図



写真 235 第3地点北東壁土層断面(南西から)



写真 236 第5地点北西壁土層断面(南東から)

第3地点北東壁

表土
旧耕土
旧床土
暗灰黄色(2.5Y5/2)粘性のあらシルト…遺物包含層か

第5地点北西壁

表土
明黄褐色(2.5Y7/4)シルト…地山

図 61 土層断面柱状図

調査地区 吉田構内H-22・23区 I-J-23・24区

K-23区

調査面積 0.54m<sup>2</sup>

調査期間 平成30年12月27日

調査担当 横山成己

## 調査結果

平成30年(2018)6月18日に発生し、深度6弱を観測した大阪府北部地震では、ブロック塀の倒壊により2名の犠牲者が生じたことから、全国規模でブロック塀の安全調査が実施され、基準を満たさない塀の改修工事が進めることになった。本学でも各構内で調査が進められ、順次改修工事を行うこととなつたが、埋蔵文化財に支障が生じる可能性があるものは立会調査にて対応することが第2回埋蔵文化財専門委員会(11月22日(木)～開催(メール審議))で諮られ、承認された。

吉田構内野球場外野を巡る既設ブロック塀は、雨水排水溝(U字溝)に載せられた状態であったため、U字溝の手前に埋設し直す計画となった。平成21年度に実施した防球ネット設置工事に伴う予備発掘調査にて外野周辺には密に遺構や遺物包含層が遺存することが確認されていたが、掘削深度が最深部で45cmと浅く、掘削の大半がU字溝の余掘に収まることが予想されることから、施設環境部及び工事請負業者の協力により、事前に6箇所で試掘を行い、地下の様相を確認することとなった(図60)。

調査の結果、第1・2・4地点では造成土内に収まっており、第3地点では表土下に層厚8cmの旧耕土、層厚5cmの旧床土、層厚10cm以上の暗灰色(2.5Y5/2)シルト(遺物包含層か)が確認され(図61、写真235)、第5・6地点は表土直下に明黄褐色(2.5Y7/4)シルト(地山)を確認した(図61、写真236)。工事業者に慎重な対応を指示し調査を終了した。

## 【註】

1) 横山成己(2013)「野球場防球ネット設置工事に伴う予備発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)、『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成21年度－』、山口

## 9. 桜花爛漫植替工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内L-12区

調査面積 51.5m<sup>2</sup>

調査期間 平成31年1月3日

調査担当 横山成己

## 調査結果

吉田構内事務局北側の空閑地は、現在その大半が仮設駐車場として活用されているが「社会連携ゾーン」としてゾーニングされている。その社会連携ゾーンにはヤマザクラをはじめ数種の桜が街路樹として植えられている。これは平成22年(2010)1月から開始された「桜花爛漫～維新伝心プロジェクト～(寄付総額55,000円でネームプレートを付けた桜を植樹する)」によるものであり、目標であった植樹150本、寄付金額750万円は10年間かけて無事達成されたそうである。この地は以前農学部附属農場が実験水田として使用しており、その後平成23年(2011)開催の国民体育大会・全国障害者スポーツ大会にあわせ延伸された山口宇部道路工事で排出した花崗岩風化土(赤土)を譲り受け造成されている。土に養分が含まれているはずもなく、結果桜の植え替え工事や土の入れ替え工事を頻繁に行うこととなり、平成30年度も植え替え工事と排水溝設置工事が計画され(図62)、排水溝掘削部に対し立会調査を実施することが承認された(第2回埋蔵文化財資料館専門委員会:11月22日(木)～(メール審議))。

掘削は長さ65m、幅50cm、深さ70cmの規模で行われ、調査の結果、工事地の東側(A地点からB地点)で造成土下に水田の旧耕土を確認したが、以西は造成土内に止まった(図63、写真237・238)。



図 62 調査区位置図



写真 237 桜植え替え掘削全景（東から）



写真 238 A地点南壁土層断面（北から）

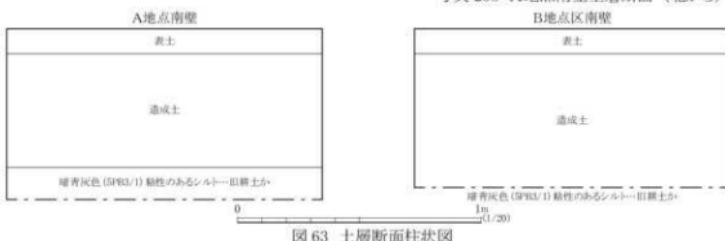


図 63 土層断面柱状図

## 10. 音楽サークル棟空調設備設置工事に伴う立会調査



図 64 調査区位置図



写真 239 調査地点西壁土層断面（東から）

○ 調査地区 吉田構内G-14・15

調査面積 52.4m<sup>2</sup>

調査期間 平成31年3月7日

調査担当 横山成己

## 調査結果

平成30年(2018)末に至り、学生支援部より吉田構内音楽サークル棟Aに空調設備を設置するに当たり、電気容量増加のため第2体育館電気室既設ハンドホールから音楽サークル棟Aまで電源配線を埋設したいとの相談を受けた。掘削は総延長で60m、幅60cm、深度は50cmとのことであった(図64)。音楽サークル棟A東側で実施した立会調査成果により、工事計画地の北端部では現地表下1mまで造成土であることが判明していたが、周辺に建つ文化サークル棟A(昭和42年(1967)竣工)、第1武道場(昭和44年(1969)竣工)<sup>211</sup>がいずれも埋蔵文化財調査を経ず建設されたため、以南の地下の様相が不明確であった。第4回埋蔵文化財資料館専門委員会(12月14日(金)～(メール審議))にて埋蔵文化保護対応が諮られ、立会調査を実施することが承認された。

調査の結果、掘削はいずれも造成土内に止まることが確認された(図65、写真239)。

## 【註】

1) 田畠直彦(2005)「基幹震境整備(外灯新設)工事に伴う立会調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)、『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』、山口



図 65 土層断面柱状図

## 第4節 平成30年度 白石構内(白石遺跡)の調査

### 1. 教育学部附属山口小学校運動場鉄棒改修工事に伴う立会調査

調査地区 共用棟A南東側運動場

調査面積 15m<sup>2</sup>

調査期間 平成31年2月18日

調査担当 横山成己

#### 調査結果

平成30年(2018)末に至り、教育学部より附属山口小学校運動場の老朽化した鉄棒の撤去・新設工事の相談が寄せられた。新規鉄棒の基礎掘削は布掘りで総延長26m、幅80cm、深さ60cmとのことであった(図66)。

共用棟A(旧給食棟)に隣接する運動場敷地での調査歴は少なく、今回計画地に最も近接して調査されたのは、共用棟Aの南西10m地点で実施された試掘調査で、地表下80cmに地山を確認しており、ピットの可能性のある落ち込みを検出している。<sup>1)</sup>当工事計画に対しては、第4回埋蔵文化財資料館専門委員会(12月14日(金)～(メール審議))にて埋蔵文化保護対応が諮られ、立会調査を実施することが承認された。

調査の結果、掘削範囲全域で層厚20cmの表土、層厚30cmの造成土、層厚10cmの灰オリーブ色(5Y6/2)シルト(旧耕土)が確認された。北東端部から南西8mの地点はやや深掘りされており、旧耕土下に旧床土とみられる浅黄色(2.5Y7/3)シルトが確認できた。その下位は遺物包含層または地山と予想されることから、周域では70cm程度の掘削で埋蔵文化財に支障が生じる可能性があり、注意が必要である。

#### 【註】

- 1) 河村吉行・杉原和恵(1987)「亀山構内教育学部山口附属学校汚水排水管布設に伴う試掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報VI』、山口



図 66 調査区位置図



写真 240 調査区北東端部土層断面（南西から）



写真 241 調査区北西壁土層断面（南東から）



図 67 土層断面柱状図

## 第5節 平成30年度 小串構内(山口大学医学部構内遺跡)の調査

### 1. 総合研究棟(医学系)新営工事(機械設備工事)に伴う立会調査



写真242 調査区東壁土層断面 (西から)  
東壁



図69 土層断面柱状図

調査地区 小串構内総合研究棟A北西空閑地

調査面積 6m<sup>2</sup>

調査期間 平成30年6月12日

調査担当 横山成己

#### 調査結果

平成28年度末に、小串構内南東部域に位置する総合研究棟(現名称:総合研究棟B)の南隣に、新たに総合研究棟(現名称:総合研究棟A)を新営する計画が提出された。当該地においては、平成14年度の総合研究棟B新営時に試掘調査が実施されており、縄文土器や土師器、須恵器などが確認されているが、量的には希薄だったという。既往の調査成果により、小羽山丘陵に近い構内北東部の自然堆積層に、密に遺物が含まれることが明らかとなっていることから、新営建物の北西部で行われる機会設備工事時に立会調査を実施することが平成28年度第6回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成29年3月24日(金)開催)にて提案され、承認された(図68)。

大規模建物新営のため、工事は長期間に及び、機会設備工事が開始されたのは平成30年を迎えてからのことであった。機械設備枠設置箇所において立会調査を実施したが、現地表下125cmまでの造成土、下位に層厚10cmの旧床土、層厚15cm以上の灰白色(2.5Y8/1)シルト(近世客土)で掘削が止まっていることを確認した(図69、写真242)。

#### 【註】

- 1) 当該年度年報未刊。

## 2. 基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事に伴う立会調査

調査地区 小串構内新病棟北東・南東側空閑地

調査面積 75m<sup>2</sup>

調査期間 平成30年9月5日、10月25日、2月22日

調査担当 横山成己 水久保洋子

## 調査結果

当工事は平成26年度に開始されており、新営建物に対しては当該年度中に予備発掘調査を実施している。平成30年度は長期に及ぶ工事の最終年度であり、機械設備工事に対して立会調査を実施した(図70)。調査を行ったのは、建物北東隣接地2箇所(A・B調査区)と建物南東隣接地1箇所(C調査区)である。A調査区は2.4m、B調査区は3.7mの掘削が行われ、近世客土下の自然堆積層を確認した(図71、写真243)。C調査区は2.8mの掘削が行われたが、矢板により土層断面は観察できず、底面の貝混じりの海成砂層のみ確認した。

## 【註】

- 1) 横山成己(2019)「基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事に伴う予備発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成26年度-』、山口



図 70 調査区位置図



写真 243 B調査区北東壁土層断面（南西から）



図 71 土層断面柱状図

## 3. 基幹・環境整備(熱源設備更新)工事に伴う立会調査



写真 244 北壁土層断面（南から）

北壁



調査地区 小串構内特高受変電棟南側道路

調査面積 15m<sup>2</sup>

調査期間 平成30年10月27日

調査担当 横山成己

## 調査結果

小串構内にて熱源設備更新工事が計画された。一部で1.5mの深度で新規掘削が行われるとのことであり、平成29年度第7回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成30年3月26日(月)開催)にて埋蔵文化財保護対応が諮られ、立会調査を実施することが承認された。

新規掘削工事は小串構内北西部、特高受変電棟南側道路部分で行われた(図72)。近隣地での既往の調査成果から、現地表下1.5mで近世客土に到達すると予測されたが、当該地はすでに大きく擾乱を受けているようで、造成土内に止まる結果となった(図73、写真244)。

## 【註】

1)横山成己(2006)「医学部基幹整備(地下オイルタンク他)工事に伴う試掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)、『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成16年度－』、山口

## 第6節 平成30年度 光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査

### 1. 基幹・環境整備(ブロック塀対策)工事に伴う立会調査

調査地区 光構内

調査面積 約7.3m<sup>2</sup>

調査期間 平成31年3月8日

調査担当 田畠直彦

#### 調査結果

教育学部附属光小学校でブロック塀対策として、既設のブロック塀を撤去して新たにメッシュフェンスを新設する工事が計画された。上記に伴う地下掘削は支柱を設置する20箇所で予定されており、立会調査を実施することになった(平成30年度第2回埋蔵文化財資料館専門委員会(11月22日(木)開催:メール審議)にて承認)。

調査区附近の敷地外縁は校庭よりも50~60cm程度高く、植樹がある。基礎部分の掘削は現地表下約40~50cmまでであったが、調査の結果、全ての地点で造成土の範囲内であり、埋蔵文化財に支障はなかった。

今回の工事では埋蔵文化財の保護に支障は生じなかつたが、小学校校庭では遺物包含層や遺構が確認されていることから、引き続き、慎重な対応が必要である。

#### 【註】

- 1) 河村吉行(1992)「光構内教育学部附属光小学校運動場改修工事に伴う発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X』、山口
- 田畠直彦(2022)「教育学部附属光小・中学校上水道(給水管)改修工事に伴う試掘・立会調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XIX』、山口



図 74 調査区位置図



写真 245 調査区全景(南西から)



写真 246 A地点土層断面(西から)

## 付節1 平成29・30年度 山口大学構内遺跡調査要項

## 山口大学大学情報機構規則

改正 平成18年3月14日規則第27号

## (趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人山口大学学則(平成16年規則第1号)第9条第2項の規定に基づき、国立大学法人山口大学(以下「本法人」という。)の大手情報及び情報基盤を総合的に整備する山口大学大学情報機構(以下「機構」という。)に関し必要な事項を定める。

## (組織)

第2条 機構は、次の施設をもって組織する。

(1)図書館

(2)メディア基盤センター

(3)埋蔵文化財資料館

2 前項の施設に関し必要な事項は、別に定める。

## (業務)

第3条 機構は、次の業務を行う。

(1)大学情報及び情報基盤の戦略的整備計画の策定に関すること。

(2)大学情報及び情報基盤の整備の施策及び実施に関すること。

(3)情報セキュリティの施策及び実施に関すること。

(4)その他機構が必要と認めた事項に関すること。

2 前項の業務を行うため、機構は、各学部、各研究科、全学教育研究施設及び事務組織と相互に連携を図るものとする。

## (運営委員会)

第4条 機構に、機構の管理及び運営に関する事項を審議するため、山口大学大学情報機構運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

## (情報セキュリティ委員会)

第5条 機構に、情報セキュリティに関する事項を審議するため、国立大学法人山口大学情報セキュリティ委員会(以下「情報セキュリティ委員会」という。)を置く。

2 情報セキュリティ委員会に関し必要な事項は、別に定める。

## (情報基盤整備委員会)

第6条 機構に、情報基盤の整備に関する事項を審議するため、国立大学法人山口大学情報基盤整備委員会(以下「情報基盤整備委員会」という。)を置く。

2 情報基盤整備委員会に関し必要な事項は、別に定める。

## (機構長)

第7条 機構に機構長を置き、学术情報担当副学長をもって充てる。

2 機構長は、機構の業務を統括する。

## (副機構長)

第8条 機構に副機構長2名を置き、本法人の専任教授のうちから機構長が指名した者をもって充てる。

2 副機構長は、機構長を補佐する。

3 副機構長の担当は、機構長が定める。

4 副機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、機構長である副学長の任期の終期を超えることはできない。

5 副機構長に次員が生じた場合の後任の副機構長の任期は、前任者の残任期間とする

## (専任大学教育職員)

第9条 機構に、専任大学教育職員を置く。

2 専任大学教育職員の選考は、運営委員会の議に基づき、学長が行う。

3 専任大学教育職員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

## (事務)

第10条 機構に関する事務は、情報環境部学術情報課において処理する。

## (規則)

第11条 この規則に定めるもののはか、機構に関し必要な事項は、別に定める。

## (附 则)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

平成29・30年度山口大学構内遺跡調査要項  
**山口大学埋蔵文化財資料館規則**

平成16年4月1日規則第148号

改正 平成17年3月24日規則第52号

(趣旨)

第1条 この規則は、山口大学大学情報情報規則(平成16年規則第13

9号)第2条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館(以下「資料館」という。)の組織及び運営に關し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 資料館は、文化財保護法(昭和25年法律第214号)に基づき、国立大学法人山口大学(以下「本法人」という。)に所在する遺跡の埋蔵文化財の発掘調査及び研究を行い、出土品を収蔵・公開することを目的とする。

(業務)

第3条 資料館は、次の業務を行う。

- (1)本法人構内等から出土した埋蔵文化財の収蔵・展示及び調査研究
- (2)本法人構内等における埋蔵文化財の発掘調査及び報告書の刊行
- (3)その他埋蔵文化財に関する必要な業務

(職員)

第4条 資料館に、次の職員を置く。

- (1)館長
- (2)副館長
- (3)資料館所属の専任大学教育職員
- (4)その他必要な職員

2 埋蔵文化財に関する特別な分野の調査研究を行うため、資料館に特別調査員若手名を置くことができる。

3 特別調査員は、専門委員会の議に基づき、館長が委嘱する。

〈館長〉

第5条 館長は、大学情報機構長をもって充てる。

2 館長は、資料館の業務を掌理する。

〈副館長〉

第6条 副館長の選考は、国立大学法人山口大学の専任の教授又は准教授のうちから山口大学大学情報機構運営委員会の議に基づき、学長が行う。

2 副館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、副館長に欠員が生じた場合の後任の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。

3 副館長は、館長を補佐し、日常的な業務の執行及びこれに必要な意思決定に關し、館長を助けるものとする。

〈事務〉

第7条 事務部に關する事務は、情報環境部学術情報課において処理する。

〈隸属〉

第8条 この規則に定めるもののほか、資料館に關し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 第5条第1項の規定にかかわらず、当分の間、館長は、大学情報機構副機構長のうちから大学情報機構長が指名した者をもって充てる。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

**山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会内規**

(趣旨)

第1条 この規則は、山口大学大学情報機構運営委員会(平成16年規則第140号)第8条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会(以下「専門委員会」という。)の組織及び運営に關し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 専門委員会は、山口大学埋蔵文化財資料館(以下「資料館」という。)に關し、次の事項について審議する。

(1)管理及び運営に關する事項

(2)整備充実に關する事項

(3)予算に關する事項

(4)その他資料館に關し必要な事項

(組織)

第3条 専門委員会は、次の委員をもって組織する。

(1)機構長

(2)副機構長

(3)館長

(4)副館長

(5)資料館所属の専任大学教育職員

(6)考古学担当の国立大学法人山口大学専任の大学教育職員

(7)メディア基盤センター所属の専任大学教育職員のうち館長が指名した者1名

(8)施設環境部長	第6条 専門委員会が必要と認めたときは、専門委員以外の者を専門委員会に出席させることができる。
(9)情報環境部長	
(10)情報環境部学術情報課長	(部会等)
(11)発掘調査地に開港のある部局の事務部の長	第7条 専門委員会は、必要に応じて部会等を置くことができる。
(任期)	2 部会等に開港必要な事項は、専門委員会が別に定める。
第4条 前条第7号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に次員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。	(事務)
(委員長)	第8条 専門委員会の事務は、情報環境部学術情報課において処理する。
第5条 専門委員会に委員長を置き、館長をもって充てる。	(規則)
2 委員長は、専門委員会を招集し、その議長となる。	第9条 この内規に定めるもののほか、専門委員会の運営に開港必要な事項は、専門委員会が定める
3 委員長に事故あるときには、副館長がその職務を代行する。	附 則
(委員以外の者の出席)	この規則は、平成18年4月1日から施行する。

### 平成29年度 山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会

委員長	根ヶ山 徹（大学情報機構長・館長・人文学部教授）
委員	多田村 克己（大学情報機構副機構長・創成科学研究科教授）
藤間 充（副館長 農学部准教授）	村田 裕一（人文学部准教授）
斎藤 智也（メディア基盤センター助教）	岩永 仁（施設環境部長）
山根 信二（情報環境部長）	叶井 貴一郎（情報環境部学術情報課長）
田畠 直彦（埋蔵文化財資料館助教）	横山 成己（埋蔵文化財資料館助教）
川島 尚宗（埋蔵文化財資料館助教）	

### 平成30年度 山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会

委員長	根ヶ山 徹（大学情報機構長・館長・人文学部教授）
委員	多田村 克己（大学情報機構副機構長・創成科学研究科教授）
藤間 充（副館長 農学部准教授）	村田 裕一（人文学部准教授）
江口 節（メディア基盤センター助教）	岩永 仁（施設環境部長）
山根 信二（情報環境部長）	金重 幾久美（情報環境部学術情報課長）
田畠 直彦（埋蔵文化財資料館助教）	横山 成己（埋蔵文化財資料館助教）
水久保 祥子（埋蔵文化財資料館技術職員）	

## 付節2 山口大学構内の主な調査

表11 山口大学構内の主な調査一覧表

吉田構内

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和41年	第I地区A・B区	L~N-15	1	30?	土壤、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器	事前	調査担当 小野忠熙	年報 31-32
	第II地区家畜病院新營	R-20-21 S-T-19-20	2	2,000	溝、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、須恵器	#	#	年報 32
	第II地区		3			弥生土器、土師器	試掘	#	①
	第IV地区牛舎新營	S-T-10-11	4	300	弥生溝、土壤、古墳敷穴住居、中世住跡、溝	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器	事前	#	年報 14
	第IV地区		5				試掘	#	
	第III地区杭町区 および陸上競技場	D-19-20 E-17-19~21 F-17-18	6	1,600	杭列、弥生整穴住居	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、矢板状木杭	事前	#	
	第III地区南区	G-21~23 H-22	7		河川路、柱穴	縄文土器、弥生土器、木器、石器	#	#	
	第III地区北区	H-20 I-19~21 J-20-21	8	1,400	整穴住居、溝、土壤、柱穴		#	#	
	第III地区東南区	G-23 H-23-24 I-J-24 K-23-24 L-23	9		弥生整穴住居	弥生土器	#	#	②
	第III地区野球場		10		中世柱穴	瓦質土器	試掘	#	
昭和42年	第V地区学生食堂	J-20 N-14 P-18	11		弥生溝、古墳土壤	弥生土器、土師器	事前	#	
	第V地区		12		河川路、柱穴、土壤	弥生土器、土師器	試掘	#	調査担当 山口大学吉田 遺跡調査室
	第I地区C区大学本部新營	K-L-14	13	600	整穴住居、溝、土壤	土師器、須恵器、瓦質土器	事前	#	
	第V地区教育学部				河川路	弥生土器、土師器、須恵器	試掘	#	
	第I地区D区第1地点	L-13	14		近世大廈	弥生土器、木灰屑	#	#	
昭和46年	第I地区D区第2地点	L-13	15			弥生土器、土師器、瓦質土器、石鍋	#	#	
	第I地区D区第3地点	M-13-14	16		土壤、柱穴	弥生土器、瓦質土器	#	#	
	第I地区D区第4地点	M-N-14	17		土壤、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、石器	#	#	
	第I地区D区第5地点	L-12-13	18		弥生溝	弥生土器、土師器	#	#	
	第I地区D区第6地点	M-13	19		柱穴	弥生土器、土師器、石器	#	#	
	第I地区D区第7地点	M-N-13	20			須恵器	#	#	
	第I地区E区第2学生食堂新營	M-N-14-15 O-15	21	900	古墳敷穴住居、土壤、溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、石器、鐵製品	事前	#	年報 X II X III
昭和50年	第II地区					弥生土器	試掘	#	③
昭和51年	第III地区				整穴住居	弥生土器、土師器、須恵器	#	#	
昭和53年	人文学部校舎新營	M-N-21	22	160			#	調査担当 近藤義一	年報 X
昭和54年	教育学部附属養護学校新營	A-20-21 B-19-20 C-19	23	410	溝、土壤	縄文土器、弥生土器	試掘	#	山口大学埋蔵 文化財資料館 山口市 教育委員会
	理学部校舎新營	N-O-19-20	24	250			#		年報 X
	農学部動物学新營	P-19	25	380			#		
昭和55年	本部管理棟新營	L-14	26	740	溝、土壤、柱穴、中世井戸、土壤墓、住跡	弥生土器、土師器、石製品	事前		年報 X
	経済学部校舎新營	K-21	27	66			試掘		
	農学部農業機械実験施設新營	P-Q-15	28	50	溝、土壤		事前		年報 X
昭和55年	本部環境整備	E-14~16 F-15-16	29				立会		

調査年度	調査名	構内地図番	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和55年	農学部環境整備	N-11 O-10・11 P-9・10	30				"		年報X
	教育学部校舎新設	H-19	31		弥生堅穴住居、土壙、溝、柱穴	弥生土器、石製品	事前		
	教育学部音楽棟新設	H-16	32		溝		"		
	教育学部美術棟新設・技術科実験実習棟新設	J-K-19・20	33		旧河川、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器	"		
	正門橋脚新設	I-11	34				立会		
	時計塔設置	I-14	35				"		
	本館構内擁壁取設	K-1・13・14	36				"		
	教育学部構内擁壁取設	I-15・17 J-17	37				" 工法等変更		
	構内微循環道路舗装	M・N-16	38				"		
	農学部中庭整備	N・O-17	39				"		
昭和56年	暖房施設改修	O-16	40				" 工法等変更		年報Y
	学生部文化会車庫新設	M-8・9	41				" 工法等変更		
	学生部馬場整備	M・N-8・9	42				"		
	附属図書館増築	L・M-16	43	600	弥生～古墳、土壤、柱穴、杭列	弥生土器、土師器、須恵器、石器	事前		
	大学会館新設	M・N-14・15	44	130	弥生堅穴住居、溝	弥生土器	試掘		
	教育学部附属養護学校アーネスト新設	A・B-21	45	890			立会		
	放射性同位元素総合実験室	O-18	46	2			"		
	講水園同位元素総合実験室								
	教養部自動車置場	L-17	47	10			"		
	附属図書館新設	J-K-16	48	150			"		
昭和57年	大学会館新設	M-N-12・13	49	2,000	古墳井戸、土壤、柱穴、中世井戸、羅立柱建物	弥生土器、土師器、須恵器、輸入陶磁器、国産陶器、瓦質土器、縄文陶器、木簡、石器	事前		年報Z
	ラグビー場防球ネット新設	G-18・19 H-19・20	50	114	弥生層、弥生～古墳堅穴住居、土壤	弥生土器、土師器、石製品	"	堅穴住居は工法変更により現地保存	
	理学部大学院校舎新設	M-N-20	51	409			立会		
	正門・南門・二輪車置場	I-J-12・13 H-23	52	183			"		
	学生部アーチチャーリー場の有・無柱設置	N-8・9	53	33			"		
	学生部飯舎整備	M-7・8	54	1,6			"		
	学生部野球場散水栓取設	I-21 K-22	55	1			立会		
	教養部環境整備	I-15・16 J-15 K-17・18 L-18	56	81			"		
		C-18 D-17 E-15・16 F-16	57	12			"		
		N-12	58	160	弥生土壤、柱穴	弥生土器	事前		
		J-L-13	59	180	弥生～中世遺物包含層、古墳土壤、古代～中世土壤、溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、青磁、白磁、瓦質土器	"		
昭和58年	大学会館ケーブル敷設	B-17 C-16・17 D-16 E-15	60	25	古墳以降の遺物包含層	土師器	試掘		年報A'
	学生部テニスコート改修	E-15					立会		
	経済学部樹木移植	K-19・21	61	8			"		
	大学会館排水管布設								
	大学会館樹木移植								
昭和59年	大学会館周辺整備	L-14・15 M-N-15	62	592	弥生～中世堅穴住居、貯蔵穴、土壤、古代～近世土壤、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、輸入陶磁器、国産陶磁器、土製品、石斧、原石、鐵器、雷程	試掘		年報B'
	経済学部環境整備(樹木移植)	K-L-20	63	5			立会		
	農学部附属農場肥料園								
	排水溝復整備	R-17～19	64	30	古代末～中世河川跡	須恵器、土師器、輸入陶磁器、縄口、石器、铁片	"		
	農学部附属農場農道改修	V-15～17	65	325			"		
昭和60年	教育学部前庭環境整備	I-J-19	66	430			"		年報V
	中央ボイラー換車止設置	O-P-16	67	2,5		須恵器	"		
	農学部附属農場肥料園								

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和60年	大学会館環境整備(樹木移植)	M-15	68	9		弥生土器、土師器、須恵器、石鍋、桃石、鉄滓	#		年報V
	交通標識設置	J-20 N-14 P-18	69	3			#		
	農学部解剖実習棟周辺環境整備 (実験室・演習場設置)	Q-18	70	16			#		
	理学部環境整備(緑化設置)	N-21	71	4			#		
昭和61年	農学部附属畜産病院舎	S-T-19	72	270			#		年報VI
	国際交流会館新館	M-22・23 N-22	73	76	弥生～古墳河川跡 中世～近世墓	弥生土器、土師器、瓦質土器、須恵質土器、陶磁器、鐵滓玉、加工痕のある剝片	試掘		
	山口銀行現金自動支払機設置 (電線路埋設)	J-19	74	11	包含層(河川跡か)	弥生土器	立会		
	農学部附属農場農道整備	S-20 T-U-19	75	165	中世墓、柱穴	土師器、瓦質土器	#	工法変更	
	農学部附属農場農道規制 (監説ボール設置)	M-10 P-15 Q-15～17	76	12			#		
	正門横(木田川)境界杭設置	J-10	77	0.25	包含層か		#		
	経済学部環境整備 (樹木移植・記念碑建立)	L-20	78	3			#		
	吉田構内交通標識設置	G-23 K-9 O-22 S-20 V-17	79	3		須恵器	立会		
昭和62年	市道神郷1号線および 開田神郷線の送水管設設	B-17・18 C-18・19 D-19・20 E-20・21 F-21・22 G-22・23 H-23・24 I-J-K-24 L-23・24 M-N-23 O-22・23 P-Q-22 R-21・22 S-21 T-20・21 U-19・20 V-18・19 W-X-18	80	2,100	古墳・弥生墓、 古代河川跡、 弥生包含層	弥生土器、土師器、 須恵器 (墨書きのもの含む) 瓦質土器、製塙土器、 石斧、板石	立会	山口市教育 委員会 山口大学埋蔵 文化財資料館	年報VI
	教養部自動洗車機設置 (屋根設置および複数台移動)	K-L-18	81	3.5			#		
	教養部身体障害者用 スロープ設設	L-15・16	81	3			#		
	経済学部散水設置	L-20	83	4			#		
	吉田構内水泳プール 改修等	E-15 F-15・16 H-15	84	26.5	包含層		#		
	農学部附属農場 木道管理設	S-12	85	3			#		
	吉田構内汚水排水管等 整修改修	M-18 O-15	86	15.5		土師質土器	#		
	本部身体障害者用スロープ 設設	L-14	87	12			#		
	経済学部身体障害者用 スロープ設設	K-18～20 L-18	88	78			#	工法等変更	
	附属図書館荷物運搬用 スロープ設設	L-16	89	8		弥生土器	#		
昭和63年	教養部新教室改修	K-16	90	1			#		年報VII
	教育学部附属教育実践 研究指導センター新設	J-K-18・19	91	240		ブランク、削器、 植物遺体	事前		
	教養部複合棟新館	J-K-17	92	35	埋甕上墻、溝、柱穴	土師質土器、須恵器、 土師質土器、石斧	試掘		
	教養部複合棟新館	I-J-16	93	30	溝状遺構	弥生土器	立会		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和62年	教養部複合棟新営	J・K-17・18	94	900	郭六、河川跡、 窓穴、柱根、土壇、溝、 井戸、堆積土壌、 獨立柱脚跡、 瓦状造構、柱穴	縄文土器、土師器、 須恵器、土師質土器、 須恵質土器、 陶磁器、石器、石斧、 木製品	事前		年報Ⅷ
	九田川局部改修	B-16・17 C-16	95	20			立会	山口県教育委員会 山口大学埋蔵文化財資料館	
	国際交流会館新営	M-N-22・23	96	195			#		
	教育学部附属幼稚園学校 自転車置場設置	B-20	97	1			#		
	農学部附属農場D圃場 排水管理設置及び E圃場進入路整備	L-N-12	98	55	中世土壤層か	弥生土器、土師器、 須恵器、輸入白磁、 国産磁器、磁石	#		
	農学部植栽	N-17	99	3			#		
	経済学部集水槽設置	J-20	100	0.5			#		
	教養部複合棟新営に伴う 自転車置場設置	I-16	101	1	包含層か		立会		
	国際交流会館新営に伴う 排水管理設置	N-O-22	102	35	河川跡(溝か)、 包含層	弥生土器、須恵器	#		
	教養部複合棟新営に伴う ケーブル埋設	J-18	103	1			#		
昭和63年	サッカーラグビー場改修	F-19・21 G-18	104	25	性格不明	弥生土器	#		年報Ⅸ
	消防用水設置	K-M-22	105	7.5			#		
	木眼灯新営	J-L-15	106	4	古墳横状造構柱穴	弥生土器、土師器、 須恵器、 六連式製塙土器	事前		
	樺野寮ボイラー設備改修	O-20・21	107	25			立会		
	野球場防球ネット新営	H-22 I-21・22 J-K-21	108	7	包含層	弥生土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 陶器	#		
	防火水槽配管布設	K-21・22	109	15	柱穴		#		
	吉田寮ボイラー設備改修	M-B	110	4			#		
	体育施設系給水管改修	G-H-16	111	50		陶器	# 工法等変更		
	大学会館前記念植樹	M-13	112	6			#		
	吉田寮ボイラー棟 地下貯油槽設備改修	M-B	113	45	包含層	土師器、須恵器、 土師質土器、陶器、 剝片、 二次加工のある剥片	#		
平成元年	第2武道場排水渠新営	G-15	114	2	渠		#		年報Ⅹ
	案内標識設置	I-14 L-18	115	0.5			#		
	本宿東宿給水管改修	L-13	116	6.5		弥生土器	#		
	大学会館前庭擁壁整備	N-14・15	117	35	中世溝		#		
	大学会館前庭擁壁整備	M-15	118	2			#		
	第一学生食生活設備改修	I-J-19	119	7			#		
	教育学部附属幼稚園学校案内板設置	E-20	120	1			#		
	農学部附属幼稚園学校新営	O-P-17	121	76	織文川用	縄文土器、石器	試掘		
	農学部仮設プレハブ倉庫設置	P-17	122	6		須恵器	立会		
	農学部微生物実験室 その他機械設備改修	P-17	123	8			#		
平成2年	大学会館前記念植樹	L-M-15	124	2			#		年報X I
	サークル棟新営	F-14	125	1			#		
	農学部准融合医学科棟新営	O-P-17	126	980	織文川用	縄文土器、石器	事前		
平成3年	交通規制標識及びバリアー設置	H-22 M-10 O-22 R-19 S-20	127				立会		年報X II
	吉田構内道路 (南門ロータリー)改設	H-23	128	40			#		
	ボイラー室給水管漏水補修	O-16	129	4			#		
	農学部附属農場ガラス室新営	S-14	130	3.5			#		
	大学会館前記念植樹	L-M-15	131	3			#		
	東町平川線緊急地方道路整備工事 及び山口大学吉田団地 環境整備(正門周辺)	E-11・12	132				#		
	東町平川線緊急地方道路整備 (信号機設置)	I-11	133	7			#		
	本部裏給水管設置	K-M-13	134	70	渠、柱穴	弥生土器、土師器、 滑石製模造法	事前		
	人文学部・理学部講義棟新営	M-20	135	4			試掘		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成5年	第2号内運動場新設	G-H-16	136	144	護	弥生土器、須恵器、砾石	#		年報XIII
	農学部給水管理設	N-P-18	137	9			#		
	基幹整備 (屋外施設水管改修)	L-15 M-17-18	138	16			立会		
	農学部連合獣医学棟新設 電気設備	O-16	139	4			#		
	大学会館前庭アリカーレンジ	N-14	140	1			#		
	大学会館前庭記念植樹	L-15	141	1.6			#		
	九田川河川局部改良	C-16 D-15-16	142	40			#		
	農学部電柱立替	V-17	143	0.2			#		
	農学部ガラス室設置	S-14	144	10			#		
	教育学部給水管管理設	H-J-19	145	15			#		
	環境整備(大学会館前庭)	L-14 M-13-15 N-14-15	146	140.9			#		
	H-20	I-19-21 J-20-21	147	361			#		
	環境整備(遺跡保存地区)	G-13 H-12	148	350			#		
	グランド屋外照明施設新設	E-20 F-21 G-18-22 H-19-20 I-21	149	600	調文河川、弥生住居、 護、土坑、弥生～ 古墳河川、近世溝	調文土器、弥生土器、 土師器、ガラス小玉、 砾石、磨石、鐵石	事前	工法等変更	
	第2号内運動場新設	G-I-15-16	150	726	弥生～古代溝、 貯蔵穴、土坑、 近世溝、土坑	弥生土器、土師器、 須恵器、砾石、磨石、 鐵石、片、須恵器、 瓦質土器、 土師質土器、陶器、 磁器、瓦、下駄	#		
平成6年	グランド屋外照明施設配線埋設	F-21 G-20-21 H-19-20	151	200	調文河川、弥生住居、 護、土坑、弥生～ 古墳河川、近世溝	調文土器、弥生土器、 土師器、ガラス小玉、 砾石、磨石、鐵石	#	工法等変更	年報XIV
	経済学部商品展示新設	K-L-21	152	87.5	河川	陶器、磁器	試掘		
	実験際液処理施設新設	H-12-13	153	2	河川		#		
	体育器具庫及び便所新設	G-H-17	154	60	河川		#	工法等変更	
	経済学部商品資料館 仮設電柱設置	L-22 M-22-23	155	5			立会		
	人文学部前駐車場整備	K-23 L-22-23	156	6			#		
	教育学部附属養護学校 生活棟排水管改修	F-19	157	2			#		
	テニスコート改修	C-17 C-16-18 D-15-17 E-15-16	158	15			#		
	教育学部附属養護学校 生活訓練施設棟新設	B-20-22 C-20	159	16			#		
	陸上競技場整備(透水管埋設)	C-18 D-18-19	160	200			#		
	ハンドボール場改修(プレハブ設置)	K-22	161	30			#		
	野球場フェンス改修	H-22 I-21-22	162	3			立会		
	基幹環境整備 (ボイラー室配電盤設置)	O-16	163	4	河川か		#		
	九田川河川局部改良	D-15 E-14-15	164	100			#		
	第2号内運動場電柱設置	G-14-15	165	0.5			#		
	教養部水道管破裂修理	I-16	166	2			#		
	グランド屋外照明施設配線埋設	E-20 F-20-21 G-18-19-22 H-19-20 I-20-21	167	150			#		
平成7年	公共下水道接続 (教育学部附属養護学校 プール排水施設設置)	A-21	168	4			#		年報XIV
	サークル棧給水管設置	F-14	169	1			#		
	プール新設給水管設置	E-15 F-15-16	170	10			#		
	公共下水道接続 (汚水管粗水排水施設設置)	C-18	171	6	河川	土師器	#		
	教育学部ロープ設置(音楽棟)	H-17	172	10			#		

## 山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成 7年	農学部H1実験研究施設新宮	Q・R-17	173	75	近世溝	磁器	試掘		
	農学部H1実験研究施設新宮	Q・R-17	174	520	中世井戸、近世溝	石斧、須恵器、磁器、瓦器	事前		
	公共下水道布設	C-18 E-16 G-14	175	70	溝、土坑、河川跡、柱穴	弥生土器、土師器	試掘		
	公共下水道布設	C・D-18 D・E-17 E・F-16	176	240	土坑、河川跡、柱穴	弥生土器、石器、骨角器	事前		
	農学部附属農場牛舎新宮	T-10	177	22			試掘		
	施設宿舎改修	N・O-22	178	25.5	河川		試掘		
	第2学生食堂増築	N・O-15	179	48	柱穴、包含層	石器	試掘		
	第2層外運動場外周照明施設 新設	G-15・16	180				立会		
	機器分析センター新営工事用 電気仮設	O-19～21 P-22	181				〃		
	農学部附属畜病院バリカ新設	S-20	182				〃		
平成 8年	吉田寮可燃ごみ置場新設	N-10	183				〃		
	農学部H1実験研究施設電気・情報 ケーブル及びガス・給排水管布設	Q・R-17	184				試掘		
	情報処理センター新設	O-19	185				〃		
	基幹環境整備 (ATMネットワークケーブル布設)	F-19・20 F-18・19 G-18	186				〃		
	基幹環境整備(外灯新設)	I-15・16 J-20 K-19 M-10・11 N-12 O-16～18・20 P-18・19 Q-17・18	187				〃		
	基幹環境整備(施設宿舎・国際交流 会館排水管布設)	M-23 O-22	188	22.5	河川		試掘		年報 XVI
	基幹環境整備(外灯新設)	H-I-21・22	189	306	河川	織文土器、弥生土器、 土師器、石器	試掘		
	農学部附属農場排水管布設	S-10・11	190	93	包含層、ピット	土師器、須恵器	試掘		
	地上・壁面鉄構造取除	G-18	191	5.5	包含層		立会		
	農学部附属農場排水溝改修	R-11	192	2.2			〃		
平成 9年	種野寮バリカ新設	O-20・21	193	7			〃		
	サッカー場給水管取替	H-19・20 I-19	194	12	包含層		〃		年報 XVII
	基幹環境整備(共通教育セン タースロープ・ラックス新設)	J-K-17	195	14.3	河川	織文土器、須恵器	〃		
	丸田川河川局部改良	E-14	196	18			〃		
	農学部附属農場道路舗装	K-12・13 L-12 M-11	197	27.6	近世用水路、溝状遺構	弥生土器、土師器、 須恵器、陶器、磁器	〃		
	本部裏排水管取替	K-14	198	2			〃		
	農学部附属農場畜病院 整備会場設置	S-T-19	199	1			〃		
	農学部附属農場堆肥合新宮	S-10	200	41.5			試掘		
	農学部ハイ才環境制御施設 新宮	Q-15・16	201	140	河川、溝	土師器、須恵器、 製塙土器、石器	試掘		
	カーブミラー新設	M-11 N-21	202	0.8			立会		
平成 10年	基幹環境整備(外灯新設)	J-K-21 K-L-22 L-23	203	23.5	包含層		〃		年報 XVIII
	共通教育棟エレベーター新設	K-16	204	42			〃		
	丸田川河川局部改良	E-14	205	48			〃		
	本部2号館西側バリア新設	L-13	206	0.5			〃		
	教育学部附属農業学校 時代別新設	D-21	207	1.4	包含層	土師器	〃		
	基幹環境整備(教育学部附属 農業学校排水管敷設)	C-D-21	208	17	河川		〃		
	基幹環境整備 (施設屋表土すきり)	O-16	209	40			〃		
	第2学生食堂の増築及び改修	N-O-15	210	967.2	掘立柱建物、溝、 土坑、柱穴	弥生土器、土師器、 須恵器、陶器、磁器、 石器、鉄製品	事前 立会		年報 XIX
	教育学部附属養護学校給食室改修	C-21	211	12.3	織文河川、土坑、柱穴	織文土器、弥生土器	試掘		
	丸田川河川局部改良	E-F-14 F-13	212	60			立会		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成10年	基幹環境整備(バターカー新設)	H-15・F-20 O-16・18 L-22	213	3.4			#		年報XIV
	農学部動物用便却却改修	Q-18	214	53			#		
	基幹環境整備(外灯新設)	L-17・19 M・N-18	215	4			#		
	理学部スロープ新設	M-18	216	16			#		
平成11年	ステンレス回転モニメント新設	M-13・14	217	27.6			#		年報XV
	第2学生食堂増築その他に伴う 埋地電力線路施設整備	O-14～16	218	6.6	包含解、柱穴、河川	土師器、須恵器	#		
	九田川河川局部改良	F・G-13 G・H-12	219	222			#		
	第2学生食堂北西擴張新設	N-14	220	43			#		
	バッカーバン消音防護ネット新設	G・H-22	221	3.2			#		
	第1体育館・共通講義本館 スロープ新設	H-15 K-16	222	201.1			#		
	I-12 K・L-18 L-15 M・N-17	223	4			須恵器	#		
	基幹環境整備(外灯新設)								
	総合研究棟新設	Q-18 E-17～19	224	268	河川	土師器、須恵器	試掘		
	総合研究棟新設	Q・R-18・19 S-20	225	808	河川、土坑	織文土器、土師器、 須恵器、製塙土器、 瓦質土器、石器	事前 立会		
平成12年	飯舎及び周辺施設改修	M-8	226	3.6			立会		年報XX
	O-15 P-15・16 Q-14・15 18・19 R-13・14 R-5・19 S-14	227	268	包含解			#		
	架空電線取り外し埋設								
	H-11・12 I-10・11 J-9・10 K・L-9	228	616				#		
	山口合同ガスガバナー室新設 及びガス配管布設	O・P-22	229	313			#		
	基幹環境整備 (バターカー新設)	N-22 M-10 V-17	230	0.4			#		
	あずまや新設	L-18	231	5			#		
	共通教育センター空調設備 新設	J-16	232	1.4			#		
	基幹環境整備(外灯新設)	J-K-21 M-10	233	2			#		
	経済学部校舎改修 (プレハブ校舎新設)	K-21	234	40	河川	織文土器、土師器、 須恵器	試掘		
平成13年	九田川河川局部改良 (平成12年工事追加分)	K-9 L-8・9	235	42	河川		立会		年報XXI
	総合研究棟新設(屋外配管布設)	P・Q-18	236	60			#		
	M-18～20 N-19～21 O-19	237	76				#		
	九田川河川局部改良	L-8	238	96			#		
	I-14・15 J-L-15 M-15 N-16 Q-17・19 R-17・19 S-T-U-V-17	239	15.4	河川			#		
	理学部校舎改修2期 (ボンボン配管布設)	M-19	240	11			#		
	理学部校舎改修2期 (自転車置場・渡り廊下屋根新設)	M・N-20	241	196			#		
	第1学生食堂・トイレ改修	I-J-19	242	6			#		
	経済学部校舎改修 (プレハブ校舎配管布設)	L-21	243	10			#		
	農学部校舎改修(解剖実習棟 プレハブ校舎新設)	R-S-19	244	520	脳立柱建物、柱穴、 土坑、包含解、河川	土師器、須恵器 (墨書き土器)、 製塙土器、縄袖陶器、 瓦、輪印、銅鈴石	事前 立会		
平成14年	農学部附属農場実験圃場整地	O-14	245						
	農学部校舎改修	N-Q-17・18	246		河川	織文土器	#		
	理学部改修3期工事(柔品庫揭示板) 自転車置場新設	N-O-19 M-19・20	247				#		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成14年	東アジア研究科 プレハブ校舎新設	N-21	248				"		年報1
	農学部校舎改修(解剖実習棟 プレハブ校舎新設)	R-S-19	249		河川、包含層		"		
	教育学部トイレ改修	I-18	250				"		
平成15年	農学部附属農場ガス管漏洩修理	O-P-16 Q-15	251	12	河川		立会		年報1
	教育学部附属農場排水管給食調理員 専用トイレスペース新設	C-21	252	1.7			"		
	農学部鹿屋城跡湖東駒林南側温室	P-Q-15	253	52			"		
平成15年	理学部中庭通路植樹新設	N-19	254	5.8			"		年報1
	理学部中庭あづまや新設	N-20	255	6.8			"		
	基幹環境整備(外灯)	F-16, H-14 G-13~15+18 I-16~19 J-19, L-12 Q-15	256	11.5	河川		"		
平成17年	教育総合研究センター改修Ⅰ期	J-K-16	257	130	ビット、河川	弥生土器、土師器	予備		年報3
	教育総合研究センター改修Ⅰ期	I-I-K-16 H-12, E-20	258	580	ビット、河川	弥生土器、土師器 須恵器	立会		
	日本・ベトナム学会 木本土壤の断面調査	R-16	259	3.1	河川		"		
平成17年	基幹環境整備(外灯)取設	H-17~22+23	260	7.7			"		年報3
	教育総合研究センター改修Ⅱ期	K-L-16, K-17 J-16~17	261	92	ビット、溝、河川	弥生土器、土師器 石器	予備		
	農学部附属畜産病院改修Ⅰ期	S-20	262	36	包含層・谷	土師器、須恵器 剪塙土器	予備		
平成18年	農学部附属畜産病院改修Ⅰ期	S-20	263	225	盛立柱建物跡、溝、土壤	土師器、須恵器 縄袖陶器、木製品(柱根)	本		年報4
	農学部附属畜産病院改修Ⅰ期	S-20	264	19	包含層		立会		
	教育総合研究センター改修Ⅱ期	K-L-16	265	84	ビット、河川、糾列	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器	本		
平成18年	教育総合研究センター改修Ⅱ期	J-K-L-16 I-J-K-L-17	266	480	ビット、河川、溝	弥生土器、土師器 打製石斧、柱材	立会		年報4
	資料館(東亞經濟研究所)新宮	L-20~21	267	100	土壤、落ち込み、河川		予備		
	プレハブ倉庫移設	I-16	268	29			立会		
平成19年	第一学生食堂改修	J-20	269	75			"		年報5
	国際会議前広場環境整備	L-17~18	270	55			"		
	プレハブ校舎新設	F-14~15, G-15	271	400			"		
平成20年	人文学部外灯用遮蔽敷設	M-20	272	6			"		年報6
	テニスコートフェンス改修	B-C-17, C-18	273	10	河川、包含層		"		
	農学部附属動物医療センター改修Ⅱ期	T-20	274	48	土壤、ビット	土師器、須恵器 瓦質土器	本		
平成20年	駐車場整備工事	J-21	275	10			立会		年報6
	資料館(東亞經濟研究所)新宮	L-20~21	276	550			"		
	第一事務局庁舎改修	L-15	277	5			"		
平成20年	吉田寮前配水管敷設	M-11	278	11			"		年報6
	農学部附属農場内電線敷設	Q-15, S-18	279	0.5	ビット	須恵器	"		
	経済学部研究棟改修工事	L-M-19	280	26	河川、落ち込み		予備		
平成21年	新教育研究棟新設	M-N-11~12	281	473	谷、ビット、溝	弥生土器、土師器 須恵器、瓦質土器 青磁	"		年報7
	新教育研究棟設備開通工事	L-12~14 M-12~13	282	313	ビット、溝、土壤	土師器、須恵器 縄袖陶器、白磁、青磁 因縄陶器、砥石	本		
	新教育研究棟新設	M-N-11~12	283	1,333	盛立柱建物、ビット 溝、土壤、井戸、谷	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器、青磁 縄袖陶器、瓦質土器 木製品	"		
平成21年	農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期	T-19 S-20	284	250	盛立柱建物、ビット 溝、谷	弥生土器、土師器 須恵器、製塙土器 青磁、瓦質土器 木製品	"		年報7
	国際交流会館田舎改修工事	N-O-22 N-23	285	457	河川		立会		
	サッカーグラウンド防球ネット取設	H-21~22 I-21	286	8.5	河川、ビット		"		
平成21年	正門改修等工事	L-13 M-12~13	287	174	ビット、溝、落ち込み	土師器、須恵器 瓦質土器、陶器、磁器	"		年報7
	教育実践センター耐震フェンス取設	K-19	288	2	土壤	縄文土器	"		
平成21年	東アジア研究棟・経済学研究科新宮	K-21	289	117	溝、河川	弥生土器、土師器 須恵器、木製品	予備		年報7

調査年度	調査名	構内地図	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
	野球場防球ネット取設置	H-23 I-24	290	40	ビット、溝、包含層	弥生土器、跳石	予備		
	K-24								
	教育学部研究実験A棟改修工事	H-4-17-18 I-8-24	291	35.3			#		
	里山整備工事	Q-10 O-P-Q-11	292	36.9			#		
	新教育研究棟新設	C-D-11 M-11-12	293	340.5			立会		
	ピオーネ周辺雨水配水管取設	H-12	294	60			#		
	仮設涵渠引込工事	I-M-10-11	295	7			#		
	ため池整備工事	S-8	296	130			#		
	基幹整備(鉄筋管改修)	J-14-15	297	156	包含層		#		
	事務局外灯設置	J-14	298	1			#		
	第1施設庁舎外壁塗装カバー設置	L-14	299	1.2	ビット		#		
平成21年	基幹・環境整備 (第1体育館周辺排水整備)	H-13	300	300			#		
	男子学生寮東側石垣設置復旧	N-8 O-8-9	301	700			#		
	人文部屋外灯設置	N-21	302	10			#		
	人文部屋西側アプローチ改修	M-20	303	750			#		
	教育学部研究実験棟A棟改修電気設備	K-18	304	40	包含層、河川		#		
	理学部ソーラー外灯設置	O-20	305	9.3			#		
	農学部インター・ロッキング設置	P-17	306	9			#		
	農学部附属動物医療センター改修整備	S-19-20	307	154	包含層、埋没谷	土師器、須恵器	#		
	Q-15-16 R-15								
	S-15 T-15	308	96	包含層、河川	土師器、須恵器	#			
	U-15 V-15								
	農学部植物工場新設	P-15	309	98	包含層	土師器、須恵器	#		
	男子学生寮新設	M-10-11	310	1350			#		
	ラグビー場排水整備	E-20 F-21	311	58.6			#		
	アーチエント通路整備工事	N-7-8 O-7-8	312	750			#		
平成22年	テニスコート改修	C-17 D-16-17	313	18.3			#		
	共通教育講義棟改修	U-17	314	11.6			#		
	石庭美術場整備その他	N-O-P-S Q-9	315	29			#		
	教育学部研究実験棟B棟改修工事	H-I-J-18	316	80	落ち込み、溝	弥生土器	予備 立会		
	音楽サークル新設工事	G-14	317	13.5			予備		
	教育学部研究実験棟G棟改修工事	G-18	318	22			立会		
	方舟改修工事	I-M-9	319	1,820			#		
	基幹整備(鉄筋管改修)工事	Q-18	320	13.6	河川		#		
	基幹整備(第1体育館周辺排水整備)工事	G-13	321	8			#		
	事務局2階手洗台設置工事	L-14	322	3.6	土壤		#		
	里山遊歩道手すり取設工事	N-O-14	323	15.2			#		
	人文部屋駐輪場外灯設置工事	M-22	324	13.6			#		
	教育学部附属特別支援学校	C-D-21	325	18	包含層、河川		#		
	構内沼水排水整備工事	R-S-19	326	10	ビット、溝、土壤		#		
	農学部附属農業機械倉庫清掃工事	P-Q-16	327	380	ビット、杭跡、河川	土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、石繩	本 立会		
平成23年	特高受電電線架設新設工事	R-S-T-U-V-17	328	72			立会		
	基幹整備 (第1体育館周辺排水整備)工事	G-13-14	329	48			#		
	埋蔵文化財資料館スロープ取設工事	N-16	330	8			#		
	第2学生食堂西側	M-15	331	224	ビット		#		
	農学部植物工場取設工事	P-15	332	75			#		
	農学部進合試験田科種模倣倉庫	O-17	333	16.8			#		
	施設・新築工事								
	教育学部附属特別支援学校	C-D-21	334	172	河川、杭跡	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、縄輪陶器、製陶土器、石器、跨傳丸瓶	本		
	敷水栓増設工事								
平成24年	図書館改修工事及び環境整備 (図書館周辺道路整備)工事	M-16	335	45			予備		
	産業物実験施設新設工事	S-T-10	336	48	溝	須恵器	予備		
	横野寮新設工事	O-21-22 P-22	337	66.1	河川、ビット	弥生土器、土師器	予備		
	第1学生食堂増築工事	I-19-20 J-20	338	495	河川、溝		立会		
	陸上競技場トラック排水溝改修工事	D-17~19 E-17~19 F-16~19 G-16~18							
	人文・理学部管理棟EV設置工事	M-20	339	42.75			#		
	農場木箱事業室等改修機械設備工事	R-S-13	340	27			#		
	図書館改修その他工事 (魔芋施設・ブルーベン)	K-10	341	25			#		

年報  
7年報  
8年報  
9年報  
10

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成24年	国際交流会館1号館引込 給水管改修工事	M+N-22	342	15			立会		年報10
	歴史医学園教育研究センター棟 新宮工事	P+Q-17	343	608	縄文時代河川	縄文土器	本		
	第1武道場耐震改修その他工事	F+G-16 G-17	344	692	弥生古墳時代河川底、土壤	弥生土器、土師器、石器 竹製刷代編み製品	n		
	第1武道場耐震改修その他工事	H-15	345	1			立会		
	農場木前研究・実験室改修工事	S-13	346	4			n		
	農学部本館他電気接地改修工事	S-13	347	1			n		
	桜野寮新宮工事	O-20+21	348	35	落ち込み、ビット、河川		n		
	陸上競技場外灯設置工事	E-19+20 F-19 G+H-18	349	56			n		
	自転車置き場設置工事	G+H-15	350	90			n		
	瓦幹・廃壁整備(太陽光発電設備)工事	L-M-15 L-19	351	20			n		
平成25年	J-15 K-11 L-13 M-11+12 O-18						n		
	交通標識設置工事		352	6	包含層		n		
	学術情報資源の集約管理システム 設備工事	K-14	353	22.8			n		
	動物医療センター(ニッタク室等)新宮 その他工事	R-19 S-19+20	354	247	埋没谷 土壤	須恵器、土師器、鉄器 製塗土器、墨書き器 木製品	本		
	桜野寮1号棟改修工事	O-20+21 P-20+21	355	801	落ち込み、ビット、河川	須恵器、土師器	立会		年報11
平成26年	動物医療センター改修電気設備工事	S-19	356	9			n		
	農学部附風呂橋用水田排水工事	U-V-17	357	50			n		
	経済学部D棟改修電気設備工事	K-19	358	4			n		
	第1学生食堂増築工事	I-19+20	359	341	河川	弥生土器	n		
	第1学生食堂増築電気設備工事	J-20	360	16			n		
	南門アプローチ整備工事	H-1+21+22	361	66.5	河川	弥生土器、土師器	n		
	総合研究棟(国際総合科学部) 改修工事	H-18+19	362	56.5	土壤、ビット、溝	弥生土器	本	工事位置変更	
平成27年	動物医療センター(ニッタク室等)新宮 その他工事(設備関連)	R-S-19	363	44.5	埋没谷	須恵器、土師器	立会		
	動物医療センター(ニッタク室等)新宮 その他工事(プレバッジ撤去)	S-19+20	364	50	埋没谷	須恵器、土師器 製塗土器、輪羽口 木製品(骨壺木飾)	n		
	動物医療センター(ニッタク室等)新宮 その他工事(外灯設置)	S-20	365	2	遺物包含層	須恵器	n		
	動物医療センター外灯設置工事	S-20	366	22	土壤、溝埋没谷	須恵器、土師器	n		
	共同医大医学部解剖実習棟前 動物体塊却印設置工事	R-19+20 S-20	367	10.75	遺物包含層		n		
平成28年	共同医大医学部却印設置工事	R-S-20	368	25	遺物包含層		n		
	共同医大医学部カーボン設置工事	N-17	369	3			n		
	農学部附風呂橋用水田排水工事	T-U-15+17	370	100	溝		n		
	理学部駐輪場埋根新設工事	N-20	371	16			n		
	図書館周辺用水井整備工事	N-16	372	35			n		
	総合研究棟横(新バーカー)設置工事	Q-18+19	373	0.25			n		
	総合研究棟北側倒壊廻所新設工事	Q-17+18	374	4.5			n		
平成29年	陸上競技場埋根新設工事	E-20 H-18	375	2			n		
	正門前植木移設工事	I-12	376	5			n		
	事務局前植木移設工事	K-15 I-16	377	14.5			n		
	実習棟(動物病理学講義施設)新宮 その他工事	Q-R-19	378	491	埋没谷、土壤、ビット 楓倒木痕	須恵器、土師器、円面環 製塗土器、輪羽口 鍛瓦剥片、打製石器 焼石、礫石、砾石、 木製品	本		年報14
	実習棟(動物病理学講義施設)新宮 その他工事	Q-R-18+19	379	233	遺物包含層	須恵器、土師器	立会		
平成30年	総合研究棟(国際総合科学部) 改修工事	H-18	380	160			n		
	農学部菜園排水工事	O-15	381	9	竪穴式住居跡か 土壤、ビット	須恵器、土師質土器	n	工法変更 (盛土保存)	
	人文学部駐輪場埋根新設工事	M-20	382	26			n		
	共生教育棟周辺駐輪場整備工事	J-K-L-16 J-L-17	383	53	河川、遺物包含層		n		
平成31年	福利厚生施設新宮工事	M-17+18	384	149	竪穴式住居跡 櫛立柱建物跡、土壤	縄文土器、弥生土器 初期須恵器、須恵器 土師器、石器、石錐 磨石	手掘		
	福利厚生施設新宮工事	M-17+18	385	1,100			本	一部埋め戻し 保存	年報15
	教育学部附属特別支援学校ガス管 引替工事	C-21 D-20+21	386	41.5			立会		

## 山口大学構内の主な調査

調査 年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (af)	造構	遺物	調査 区分	備考	文献
平成 29年	解剖実習棟屋外環境整備工事	R-19	287	40.3			立会		
	環境整備(ため池5)雨水改修工事	O-6 K-10	388	18.5			〃		年報 15
	L-10						〃		
	理学部1号館駐輪場設置工事	N-20	389	3.8			立会		
	福利厚生施設新設工事(緊急)	M-18	390	91	土壤、ビット、漢		立会		
	福利厚生施設新設工事(設備)	M-18	391	20			〃		
	農学部附風機場今井改修工事	F-10	392	1.35			〃		
	経済学部身障者用駐車場 カーポート設置	K-21	393	3.6			〃		
	理学部3号館横駐輪場設置	P-18	394	64.1			〃		
	実験研究棟(中高温微生物 研究センター)改修工事	O-16	395	21			〃		年報 16
平成 30年	国際総合科学部講義サイン取扱 工事	I-16	396	0.85			〃		
	基礎・環境整備(ブロック解対策) 工事	H-22・23 I-J-23・24 K-23					〃		
	桜花園漫植替工事	L-12	398	51.5			〃		
	音楽サークル練習設置設置	G-14・15	399	52.4			〃		

## 白石構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育部附属山口小学校・幼稚園運動場整備		1	60	古墳堅穴住居、溝状遺構	土師器、須恵器、瓦質土器、瓦、石製品、木製品	試掘		年報III
昭和60年	教育部附属山口小学校・瓶水栓改修		2	1			立会		年報V
	教育部附属山口中学校球技コート整備		3	2			#		
	教育部附属幼稚園環境整備(樹木植樹)		4	1			#		
昭和61年	教育部山口附属学校	幼稚園・小学校部分	5	57	中世土壤分、	繩文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、土師質土器。	試掘		年報VI
	污水排水管布設	中学校部分		20	河川跡&杭跡	陶磁器、不明鉄製品、石鐵、剝片、植物遺体			
昭和61年	教育部附属山口小学校電柱移設		6				立会		年報VI
昭和62年	教育部附属幼稚園道戸室整備		7	40			#		年報VII
昭和63年	教育部附属山口中学校屋内消火栓設備改修		8	35	包含層	土師器、磁器、剝片	#		年報VIII
平成元年	教育部附属幼稚園・山口小学校汚水管排水管布設		9	260	弥生～古墳堅穴住居、土壤、溝、柱穴、河川跡	繩文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵質陶器、黑色土器、搔器、二次加工のある剝片、使用痕のある剝片、剝片、石核	事前		年報IX
	教育部附属幼稚園バレーコート支柱設置		10	0.3			立会		
	教育部附属幼稚園・山口小学校汚水管布設		11	170	弥生溝状遺構	弥生土器、土師器、打製石斧、削器、剝片、石核	#		
平成2年	教育部附属山口中学校汚水管排水管布設		12	70	溝状遺構	繩文土器、弥生土器、土師器、瓦質土器、不明鉄製品、石鐵、鐵石、扁平打製石斧、砥石	事前		年報X
			13	130		弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、圓錐陶器、扁平打製石斧、砥石	立会		
平成6年	教育部附属山口小学校ブル新貯蔵給水管設		14	3			#		年報XIV
	教育部附属山口中学校ブル新貯蔵給水管設		15	7			#		
平成7年	教育部附属山口中学校自転車置場新設		16				#		
平成10年	教育部附属山口小学校給食室改修		17	15.8			試掘立会		年報XVII
平成12年	教育部附属山口中学校防球ネット新設		18				立会		年報XX
平成14年	教育部附属山口中学校給水設備改修		19				#		
	教育部附属幼稚園運動場整備		20		河川、柱穴	土師器	#		
平成15年	教育部附属山口幼稚園新設山口小学校スクープ新設		21	27.7			立会		年報I
平成16年	白石地区市道歩道改修		22	1 河川			立会		年報2
	教育部附属山口小学校事務室新設		23	101	河川、土壤または溝		#		
	教育部附属山口幼稚園・小学校フェンス・通用門改修		24	11			#		
平成17年	教育部附属山口幼稚園・小学校排水管改修		25	10			立会		年報3
平成19年	教育部附属山口中学校校舎等改修		26	121	河川、落ち込み、ビット	繩文土器、弥生土器	予備		年報5
平成21年	教育部附属山口小学校共用棟・教室B棟間連絡廊下屋根取扱		27	38	河川、包含層		立会		年報7

## 山口太学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成21年	教育学部附属幼稚園園内中庭池修改整備		29	50	落ち込み		立会		年報7
平成22年	教育学部附属山口中学校中庭庭敷付造り廊下設置		30	1.5			#		年報8
平成23年	教育学部附属山口小学校渡り廊下設置工事		31	12			立会		年報9
平成24年	教育学部附属学校園案内板設置工事		32	1			立会		
平成24年	教育学部附属幼稚園渡り廊下設置工事		33	11.5			#		
平成24年	教育学部附属幼稚園遊具設置工事		34	0.35			立会		
平成24年	教育学部附属幼稚園園舎テラス設置工事		35	7.9			#		
平成24年	教育学部附属山口中学校看板表示設置工事		36	0.6			#		年報10
平成24年	教育学部附属山口中学校テニスコート防球ネット張上げ工事		37	4.8			#		
平成24年	教育学部附属山口中学校武道場新規植物移植工事		38	3			#		
平成25年	教育学部附属山口中学校武道場新設工事		39	235.8		弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、木製品	予備		年報11
平成25年	教育学部附属山口中学校武道場新規工事に伴う外構及び壁の撤下取設工事		40	77.6		縄文土器、弥生土器、土師器	立会		
平成27年	教育学部附属山口中学校グラウンド防球ネット新設工事		41	1.3			立会		年報13
平成27年	教育学部附属山口小学校ガス管交換工事		42	8			#		
平成28年	教育学部附属山口小学校雨水管改修工事		43	24	土壤、溝、ビット	弥生土器、瓦質土器、龜器	立会		年報14
平成30年	教育学部附属山口小学校運動場鉄棒改修		44	15			立会		年報16

## 小串構内

調査年度	調査名	構内地図割	地点	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	医学部体育館新設		1	260		土師器、瓦質土器、石器	試掘		年報Ⅲ
	医学部図書館増築		2	4			立会		
	医学部体育館新設		3	1			#		
昭和59年	医学部浄化槽新設		4	44	近世溝	土師器、瓦質土器、磁器	事前		年報Ⅳ
	医学部体育館新設		5	65		土師器、瓦質土器、磁器	#		
	医学部基幹整備 (特高受電設備)		6	28		動物遺体(貝殻)	試掘		
昭和60年	医学部臨床講義棟 病理教育別棟新設		7	38			#		年報Ⅴ
	医学部附属病院 外来診療棟新設		8	390		土師質土器、瓦質土器、陶磁器	#		
	医学部基礎研究棟新設		9	10		近世陶器	#		
昭和61年	医学部看護師宿舎改修		10	25.5		近世陶磁器	立会		年報Ⅵ
	医学部看護師宿舎改修		11	20			#		
	医学部理場整備(樹木移植)		12	40			#		
昭和61年	医学部附属病院 外来診療棟新設		13	5			#		年報Ⅶ
	医学部附属病院 外来診療棟周辺 理場整備等(樹木移植設)		14	18			#		
	医学部附属病院東駐車場改修		15	6			#		
昭和62年	医学部附属病院病棟新設		16	104		削器、ナイフ形石器、細石刃核	試掘		年報Ⅷ
昭和63年	医学部附属病院病棟新設		17	300		二次加工のある削片、使用痕のある削片、剥片、礫石、鐵、原石、土師器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器	立会		年報Ⅸ
	医学部附属病院運動場整備		18	220			#		
平成元年	医学部附属病院MRI棟新設		19	45		削器、細石刃、二次加工のある削片、剥片、石核	試掘		年報Ⅹ
平成3年	医学部臨床実験施設新設電気工事		21	0.5			立会		年報X I
平成4年	施却棟地盤調査		22				#		年報X II
平成5年	医学部臨床実験施設新設その他		23	9			#		年報X III
	医学部附属病院基幹設備 (焼却棟新設)		24	6			#		
平成6年	医学部附属病院 MRI-CT装置新設		25	300			#		年報X IV
平成7年	医学部附属病院 看護師宿舎新設		26	40			試掘		
平成8年	医療技術短期大学部 屋外排水管布設		27	6			立会		年報X V
平成9年	医学部歴史講・納骨堂新設		28	15.2			試掘		年報X VI
	基幹環境整備 (看護師宿舎净化槽撤去)		29	4			立会		
	医学部附接移設		30	10			#		
平成10年	宇部市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸河内線)		31	253.1	包含層、近世～近代用水路	削片、弥生土器、土師器、陶器、磁器	事前	宇部市教育委員会と 合同調査	年報X VII
	宇部市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸河内線・医学部 敷地西側特殊道路)		32	381.1	包含層、近世～近代溝	削片、圓文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器	#	宇部市教育委員会と 合同調査	
平成11年	宇部市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸河内線)		33	818.9	近世～近代用水路 土坑	瓦質土器、土師質土器 陶器、磁器、錢貨	#	宇部市教育委員会と 合同調査	年報X VIII
平成12年	医学部附属病院立体駐車場新設		34	229	包含層	圓文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器 鉄釘	試掘		年報X IX
平成13年	医学部附属病院高ニタルギー 棟新設		35	13.25			#		
平成14年	総合研究棟新設		36	382	包含層	圓文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器	#		
平成15年	基幹環境整備(焼却)新設		37	76			試掘		年報I

## 山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成16年	医学部基幹環境整備 (地下オイルタンク他)		38	144		織文土器、土師器、陶器、磁器、石錐	試掘		年報2
	医学部職員宿舎他公共下水接続		39	400		弥生土器、土師器、瓦質土器、陶器、磁器	#		
	医学部総合研究棟北側 連絡用渡り廊下取設		40	40.6			立会		
平成17年	医学部附属病院基幹環境整備 (冷熱源設備他改修)		41	37			#		年報3
	医学部南側通用門廊取設		42	30			#		
平成18年	モニターポスト設置		43	6.2			#		年報4
平成19年	医学部総合研究棟改修Ⅰ期		44	6.75			予備		年報5
平成20年	医学部総合研究棟改修Ⅱ期		45	9			#		年報6
平成21年	小串宿舎B棟修理及ガス管改修		46	58			立会		年報7
平成22年	医学部附属病院患者用・職員用立体駐車場建設		47	125		縦管、陶器、鐵器、瓦質土器、土師器	予備 立会		年報8
	地域医療教育研修センター新宮		48	156	柱跡、溝	磁器、陶器、泥メンコ、土人形、縦管、土錐、土師器、須恵器、弥生土器、織文土器	予備		
平成23年	地域医療教育研修センター新宮工事		49	4			立会		年報9
平成26年	基幹・環境整備及び診療棟・病棟 新宮工事		50	90		織文土器、土師器、石錐	予備		年報12
	基幹・環境整備及び診療棟・病棟 新宮工事		51	30			立会		
	廃棄物管理棟新宮工事		52	149			#		
平成27年	保育所新宮その他工事		53	50		陶器	予備		年報13
平成28年	基幹・環境整備及び診療棟・病棟 新宮工事(自家発電設備工事)		54	100		弥生土器、石錐	立会		年報14
平成30年	総合研究棟(医学系)新宮工事 (機械設備工事)		55	6			立会		年報16
	基幹・環境整備及び診療棟・病棟 新宮工事		56	75			#		
	基幹・環境整備(熱源設備更新)工事		57	15			#		

## 常盤構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	工学部校舎新設		1	70		須恵器	試掘		年報Ⅲ
昭和59年	工学部図書館増築		2	70			〃		年報Ⅳ
昭和60年	工学部尾山宿舎排水管布設			20			立会		年報V
昭和60年	工学部尾山宿舎排水管取設等			65			〃		年報V
昭和60年	工学部受水槽改修		3	1.5			〃		年報VI
昭和61年	工学部尾山宿舎排水管改修			6			〃		年報VI
昭和61年	工学部身体障害者用スロープ取設		4	29			〃		年報VI
昭和61年	精養処理センター(常盤センター) 空調設備取設		5	30			〃		
昭和63年	工学部後却炉上屋新設		6	225			〃		年報VII
平成元年	工学部夜間照明装置 及び防球ネット設置		7	2			〃		年報IX
平成2年	工学部記念植樹		8	2.5			〃		
平成2年	工学部ガス管改修		9	45			〃		年報X
平成3年	大学祭展示物設置		10	7			〃		年報XI
平成4年	工学部プレハブ研究・実験棟新設		11	6			試掘		
平成4年	工学部・工業短期大学部の 改組再編・博士課程設置に伴う 建物等の新設		12	40			〃		年報XII
平成4年	工学部および工業短期大学部 職員宿舎取設		13	9			立会		
平成5年	大学祭展示物設置		14	7			〃		
平成5年	工学部プレハブ研究・実験棟新設		15	12			試掘		年報XIII
平成5年	工学部地域共同研究開発 センター新設		16	16			〃		
平成7年	工学部国際交流会館新設		17	8		石器	〃		
平成8年	工学部国際交流会館新設		18	352	段状構造	ナイフ形石器、銅片	事前		年報XIV
平成12年	工学部福利厚生棟新設		19	38.5			試掘		年報XX
平成13年	工学部インキュベーション センター新設		20	60		土師質土器、瓦	〃		年報XXI
平成14年	総合研究棟新設		21	13.5			〃		
平成15年	工学部本館改修		22	428			立会		年報I
平成16年	工学部走査速度応力顕微計 実験室新設		23	20			試掘		年報2
平成17年	工学部光半導体素子実験室新設		24	52.5			〃		
平成18年	工学部雨水幹線工事		25	9			立会		年報3
平成18年	工学部職員宿舎揚水施設改修		26	65			〃		年報4
平成18年	工学部会議棟身障者スロープ取設		27	38			〃		年報5
平成18年	総合研究棟改修工事 (Ⅱ期・本館北)		28	280			確認		年報6
平成19年	工学部総合研究棟改修(Ⅲ期・本館)		29	147			〃		年報7
平成20年	工学部女子学生寄宿舎新設その他		30	24			予備		年報8
平成21年	工学部ガス管改修		31	12.5			確認		年報9
平成26年	常盤C棟新設工事		32	103			立会		年報12

## 光構内

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育部附属光小学校 自転車置場設置		1	6	近世～近代石垣	瓦質土器、陶磁器、瓦	試掘		年報Ⅹ
昭和59年	教育部附属光小・中学校 施設改修新設		2				立会		年報Ⅺ
昭和60年	教育部附属光中学校 外灯改修		3	1		土師器	〃		年報Ⅴ
昭和61年	教育部附属光小学校創立 記念事業(フロンズ像建立)		4	2.5		土師器、須恵器	〃		年報Ⅵ
昭和62年	教育部附属光中学校 グラウンド防球ネット設置		5	2		弥生土器、土師器、 瓦質土器、土師質土器、 瓦	〃	御手洗清採集	年報Ⅶ
昭和63年	教育部附属光小学校 遊具移設		6	10		土師器、土師質土器、 陶磁器	〃		年報Ⅷ
	教育部附属光小学校 屋外スピーカー設置		7	0.5		土師器、土師質土器、 須恵器、瓦器、 瓦質土器、陶磁器、 土鍬	〃	御手洗清採集	
平成2年	教育部附属光小学校 運動場改修		8	15		縄文土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 施釉陶器、磁器、 土鍬、剥片、範溝	試掘	御手洗清採集 遺物含む	年報Ⅸ
	教育部附属光小学校 運動場改修		9	23	土壤	土師器、須恵器、 須恵器模倣土師器	事前		
平成3年	教育部附属光中学校 武道館新設		10	38	土壤、溝状遺構	土師器、磁器、陶器	試掘		年報X
	教育部附属光小学校 屋外施設設置		11	18		土師器、石鍬	立会		
平成4年	教育部附属光中学校 バックネット新設		12	0.5		土師器	〃		年報X
	教育部附属光中学校 武道館新設		13	500	土壤、柱穴	縄文土器、須恵器、 土師器、瓦器	事前		
平成5年	教育部附属光中学校 武道館新設その他の		14				立会		年報X
	教育部附属光中学校 武道館新設その他の		15	6			〃		
平成6年	教育部附属光小・中学校 ゴール新設給排水管理設		16	19			〃		年報X
	教育部附属光小・中学校 運動場新設		17	7		陶磁器	〃		
平成10年	教育部附属光小学校 給排水室改修		18	5.2			〃		年報X
	教育部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修		19	132	古墳包含層、柱穴、 近世土壤、柱穴	土師器、須恵器、 韓式系土器、磁器、 壺形土器、陶器、磁器	試掘 立会		
平成11年	教育部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修		20	173	石垣	陶磁器	立会		年報X
	教育部附属光小・中学校 護岸石修改		21	23			〃		
平成12年	教育部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修		22	169	ビット、土壤、溝	縄文土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 陶器、磁器、石器	試掘 立会		年報X
	教育部附属光小・中学校 河隣路等新設		23	53		土師器、須恵器	予備		
平成17年	教育部附属光小・中学校 体育器具庫新設		24	40	石垣	磁器陶	立会		年報X
	教育部附属光小・中学校 護岸石修改		25	107	ビット、土壤	須恵器	本		
平成21年	教育部附属光中学校校舎改修工事 に伴うプレート建設		26	225			立会		年報X
	教育部附属光中学校 防球ネット設置		27	1			立会		
平成22年	教育部附属光小学校 下水道接続工事		28	19.4		土師器、須恵器、陶磁器	予備		年報X
	教育部附属光小学校 下水道接続工事		29	20			立会		
平成24年	教育部附属光小学校下水 道接続工事		30	125.4	ビット、土壤、溝、 落ち込み、包含層	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器 韓式系土器、製塙土器	本		年報X
	教育部附属光小学校下水 道接続工事		31	889	ビット、土壤、溝、 落ち込み、包含層	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器 韓式系土器、製塙土器	立会		
平成25年	教育部附属光小学校設置工事		32	67	土壤	土師器	立会		年報X
	教育部附属光小学校改修その他の工事 教育学部附属光小学校改修その他の機械 設備工事		33	412	落ち込み、包含層	土師器、須恵器	立会		

## 山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成26年	教育部附属光小学校グラウンド改修工事		34	23	ピット	礎土器、須恵器、土師器、鉄器	立会	年報12	
	教育部附属光中学校校舎排水管改修工事		35	3			緊急		
平成28年	教育部附属光小学校バスクケットゴール設置工事		36	4			立会	年報14	
	基幹・環境整備(ブロック廻対策)工事		37	7.3			立会		年報16

## その他構内

調査年度	調査名	構内地区別	面積(m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和59年	学生部ボート倉庫合宿研修所整備	宇部市大字小野字土井	0.5			立会	年報IV	
	学生部3号ボート倉庫合宿研修所整備	古敷郷秋他町東字中道				瓦		
昭和60年	燕窩在給湯機器取扱	山口市鷹野町3-21	7			瓦	年報V	
	湯田宿舎給水管改修	山口市湯田温泉6丁目8-6	35	杭		瓦		
昭和61年	経済学部職員宿舎公共下水道切替	山口市旭通り2丁目3-32	1		土師質土器	瓦	年報VI	
		山口市水の上町6-9	7		瓦質土器、陶磁器	瓦		
昭和62年	経済学部職員宿舎公共下水道切替	山口市白石二丁目8-7	1		須恵器、土師器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器	瓦	7号宿舎採集	年報VII
平成元年	本部職員宿舎公共下水道切替	山口市水の上町6-1	1				1号宿舎	年報IX
平成2年	人文・理学部職員宿舎公共下水道切替	山口市石鏡音町1-25	1.2		陶磁器		7号宿舎	年報X
	経済学部職員宿舎公共下水道切替	山口市香山町3-1	0.5				3号宿舎	
平成3年	湯田宿舎A棟給配水系統の他改修	山口市湯田温泉6丁目8-6	30					年報X 1
平成3年	経済学部6号職員宿舎電柱設置	山口市旭通り2丁目3-32	0.5					
	人文・理学部職員宿舎公共下水道切替	山口市天花932-2	1					
平成4年	上堅小路共同下水管布設	山口市上堅小路宇久保7-4	7					年報X II
平成6年	湯田宿舎公共下水道接続及び内蔵水施設改修	山口市湯田温泉6丁目8-29	44					年報X IV
平成15年	ポート部合宿所給排水整備	宇部市大字小野字土井	80					年報1
平成16年	湯田宿舎B棟自転車置場新設	山口市湯田温泉6丁目8-29	11					年報2
平成17年	経済学部職員宿舎2号フェンス取替	山口市水の上街6-9	1					年報3
	工学部職員宿舎(尾山)排水施設改修	宇部市上野町1-33-34	15					
平成21年	秋泡団地(3号)廻庫(津化槽)改修	山口市秋泡東706-2	4.5					年報7

※文献① 山口大学吉田遺跡調査団『吉田遺跡発掘調査概報』(山口大学、1976年)

※昭和41年以降、吉田構内においては、工事に際し随時継続的に調査を実施しているが、昭和52年以前の吉田遺跡調査団の関与した調査については、調査名をすべて把握しているわけではなく注意が必要である。

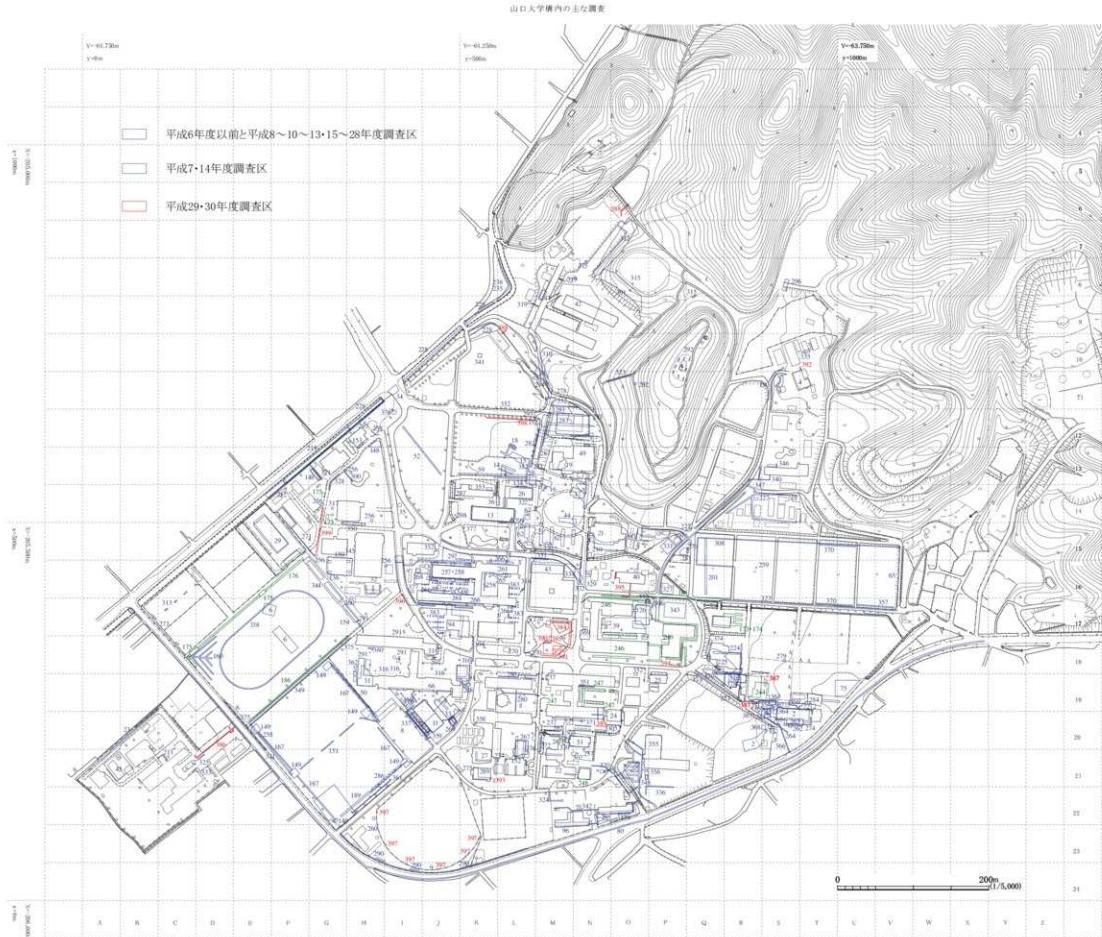


図75 山口大学吉田構内地区割および主な調査区位置図

山口大学構内の主要な調査区

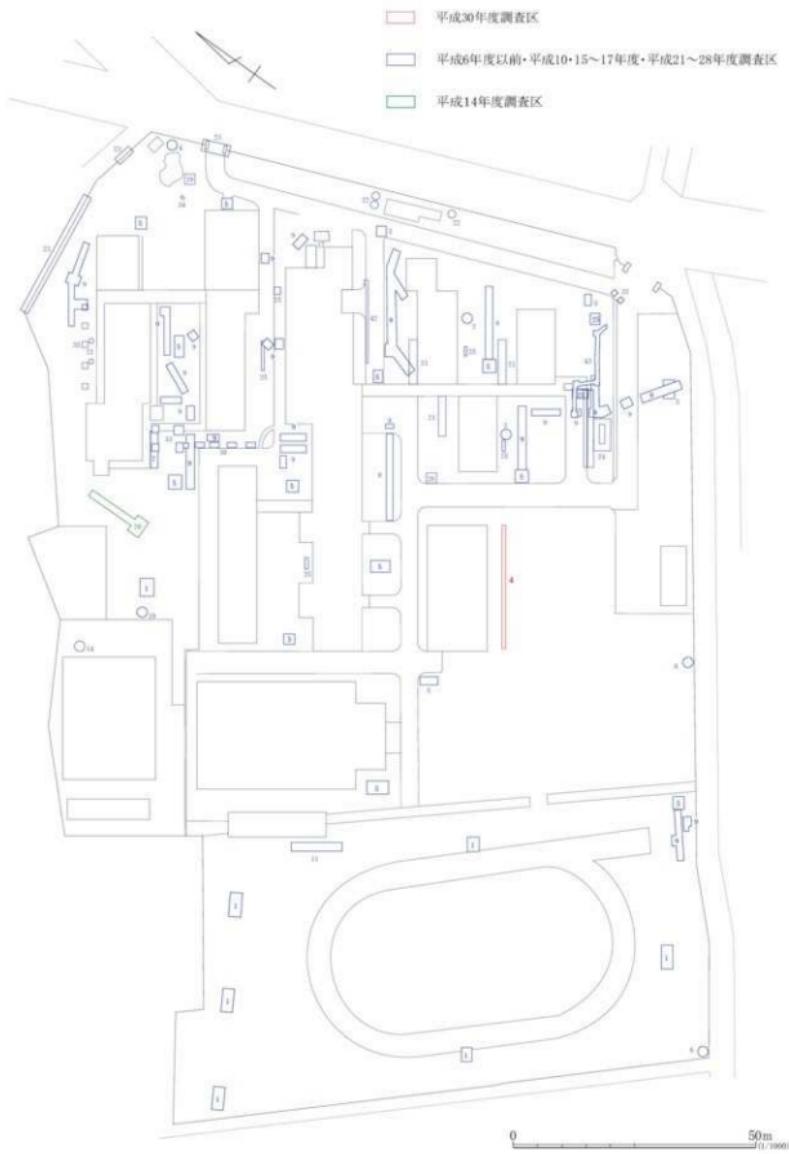


図 76 山口大学白石構内（幼稚園・小学校）調査区位置図

山口大学構内の主要な調査区

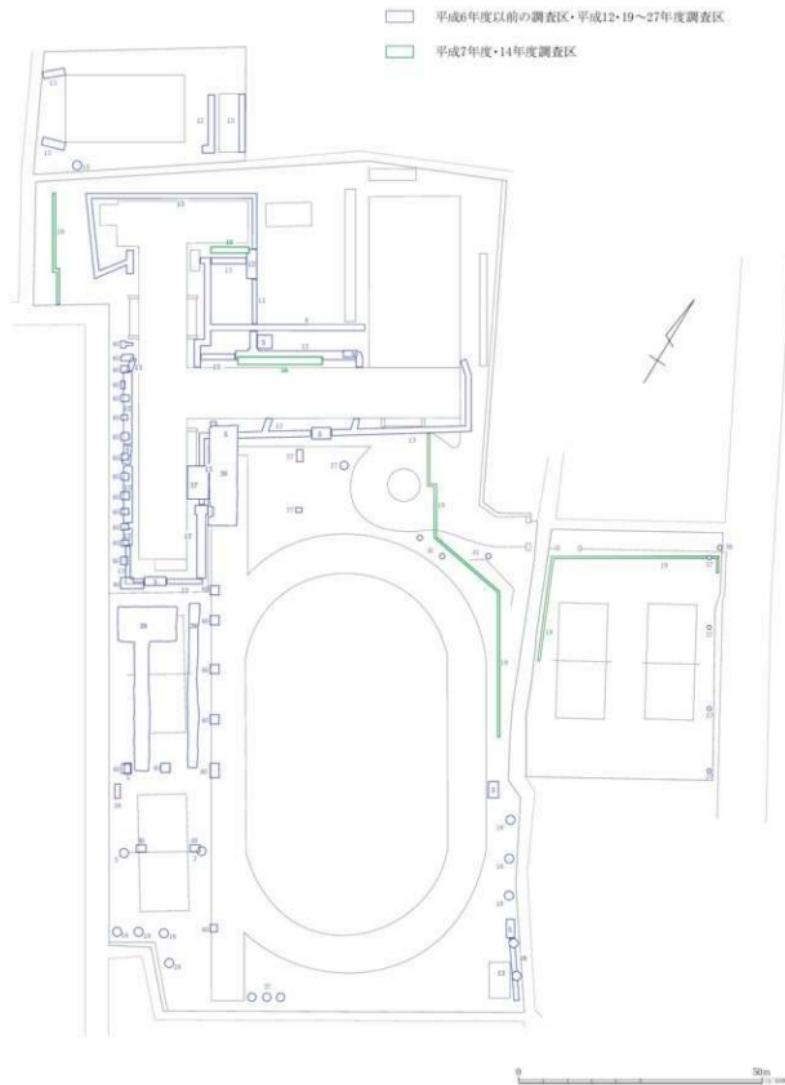


図77 山口大学白石構内（中学校）調査区位置図

山口大学構内の主要な調査



図78 山口大学小串構内調査区位置図

山口大学構内の主要な調査

赤線 構内旧境界線  
黒線 構内境界線

白枠 平成6年度以前と平成8・9・12・13・15～21・26年度調査区

緑枠 平成7年度・平成14年度調査区



図79 山口大学常盤構内調査区位置図

山口大学構内の主要な調査

—— 構内境界線

□ 昭和58年～平成28年度調査区

□ 平成30年度調査区

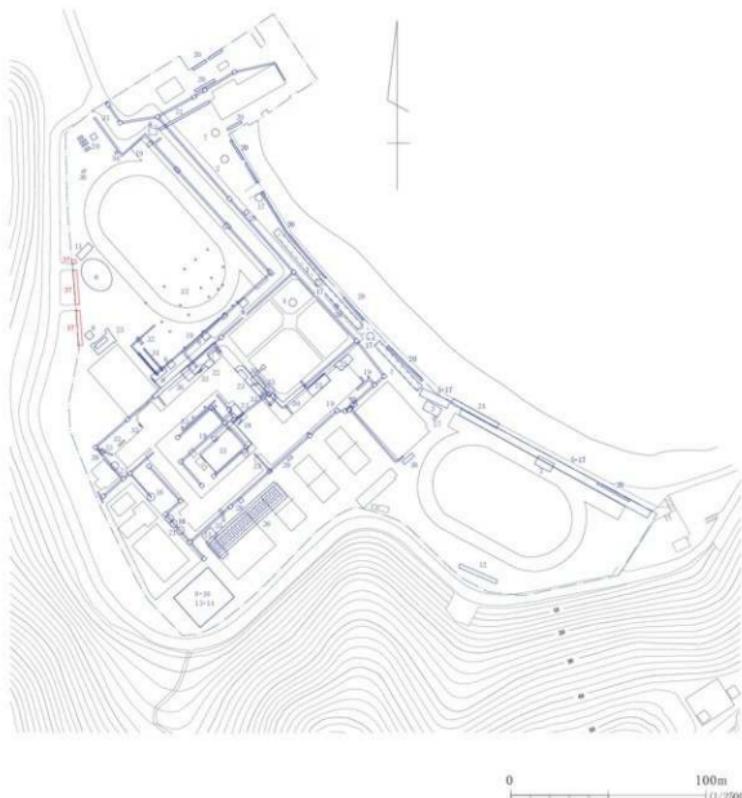


図 80 山口大学光構内調査区位置図

## 付篇1

## 山口大学構内遺跡（吉田遺跡）出土の炭化材の年代測定及び樹種同定

渡邊 正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

## 1.はじめに

本報は文化財調査コンサルタント株式会社が、吉田遺跡発掘調査に伴い検出された1号堅穴式住居跡の年代及び建築部材の用材を確認する目的で、山口大学埋蔵文化財資料館からの委託を受け実施・報告した調査報告書を再編集したものである。

今回の調査では前述の目的達成のために、住居跡から検出された炭化材の年代測定、樹種同定を実施した。

また山口大学構内遺跡(吉田遺跡)は、権野川の成す沖積平野である山口低地南東部に位置し、山口山地から流れ出す小河川によって形成された扇状地上～端部に立地する。

## 2.分析試料について

分析試料とした炭化材は、山口大学(埋蔵文化財資料館)によって図81に示す位置で採取され、保管されていた。

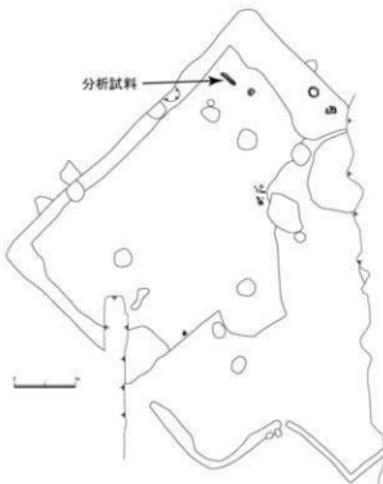


図 81 1号堅穴式住居跡平面図（試料採取地点）

## 3.分析方法

## (1) AMS年代測定方法

塩酸による酸洗浄の後に水酸化ナトリウムによるアルカリ処理、更に再度酸洗浄を行った。この後、二酸化炭素を生成、精製し、グラファイトに調整した。 $^{14}\text{C}$ 濃度の測定にはタンデム型イ

山口大学構内道路(吉田道路)出土の炭化材の年代測定及び樹種同定  
オン加速器を用い、半減期：5568年で年代計算を行った。曆年代較正にはOxCal ver. 4.4 (Bronk Ramsey, 2009) を利用し、INTCAL20 (Reymer et al., 2020) を用いた。

## (2) 樹種同定方法

渡辺(2019)に従って試料を調整し、走査型電子顕微鏡(日立製作所(株)製 S-3000N)下で観察を行った。同定に際し現生標本及び資料との比較を行い、記載、3断面(横断面・接線断面・放射断面)の写真撮影を行った。

## 4. 分析結果

### (1) AMS年代測定結果

年代測定結果を表12、図82に示す。

表12には、試料の詳細、前処理方法、 $\delta^{13}\text{C}$ 値と4種類の測定年代を示している。図82にはINTCAL20 (Reymer et al., 2020) を用いた曆年較正結果を示した。また、確率分布と $\sigma$ 、 $2\sigma$  の構成範囲を示している。

表 12 年代測定試料一覧

試料No.	出土地点(遺構ほか)	状況	重量(g)	推定期間	前処理	
					超音波洗浄	有機溶剤処理:アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2%, 水酸化ナトリウム:1.0%, 監酸:1.2%)
1	1号堅穴住居跡内	炭化材 (シイノキ 属)	0.1302	5世紀前半～中頃		
$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正無年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	曆年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	${}^1\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	${}^1\text{C}$ 年代を曆年代に較正した年代範囲 $1\sigma$ 曆年代範囲	${}^1\text{C}$ 年代を曆年代に較正した年代範囲 $2\sigma$ 曆年代範囲	測定番号
-25.28 $\pm 0.14$	1674 $\pm$ 18	1669 $\pm$ 18	1670 $\pm$ 20	380-118 cal AD (68.3%) 350-424 cal AD (91.0%)	264-274 cal AD (4.4%) 350-424 cal AD (91.0%)	PLD-36671

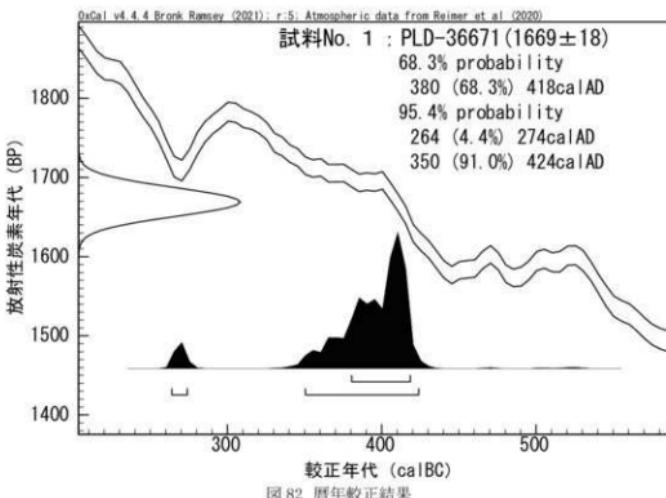


図 82 曆年較正結果

## (2) 樹種同定結果

表12に示したように、分析試料はシイノキ属であった。以下に、記載を行うとともに、写真247に走査電子顕微鏡写真を示した。

### (1) シイノキ属 *Castanopsis* sp.

記載: 孔圈には中庸で梢円形の道管が単独で並ぶ環孔材である。道管の分布は疎で放射方向に並ぶ。孔圈外の幅は狭いが、小さな道管が放射方向に配列する。放射組織はすべて單列同性である。以上の組織上の特徴からシイノキ属と同定した。また広放射組織が認められないことから、スダジイの可能性が指摘できる。

### シイノキ属 *Castanopsis* sp.

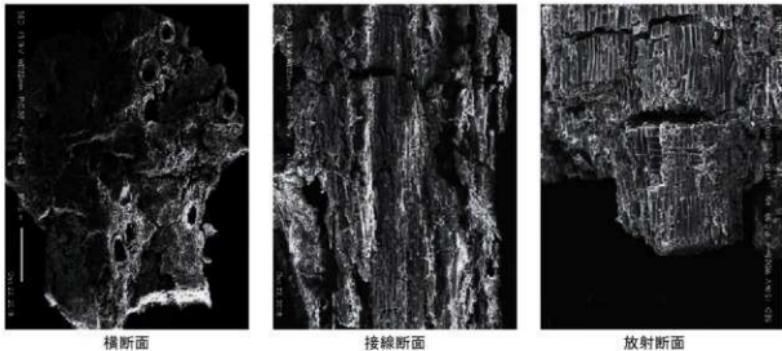


写真247 電子顕微鏡写真（シイノキ属）

## 5. 年代測定について

出土遺物等から、1号竪穴式住居跡は5世紀前半～中頃の遺構と考えられている。一方、第1表、第2図に示したように、年代測定結果として3世紀中頃～5世紀前半( $2\sigma$ )の年代値が得られた。一般に、木材を対象とした年代測定値は樹木の伐採年以前を示すことから、出土遺物等からの推定年代と、測定年代は矛盾ない結果と言える。

## 6. 建築部材としてのシイノキ属について

伊東・山田(2012)によれば、シイノキ属を国的に見ると、弥生時代～古墳時代を中心とした建築部材として1025試料の記載がある。このうち西日本に限定すると597試料と半数以上を占める。また、木材組織の特徴が近いクリは、9265試料の記載があるが東日本での記載が多く、西日本に限定すると753試料と1割に満たない。東日本では建築部材としてクリが多く用いられるが、西日本ではシイノキ属も多用されていたことが分かる。

一方、山口県下では650試料の樹種同定結果が報告されているが、建築部材は6試料に止まっている。これらはいずれも鎌倉時代～江戸時代初期のもので、イスノキ、マツ属、ヒノキと記載されている。今回同定できたシイノキ属については、杭、あるいは矢板として縄文時代晩期～鎌倉時代まで広く用いら

## 7.まとめ

- 山口大学構内遺跡(吉田遺跡) 1号竪穴住居から採取された建築部材を対象としたAMS年代測定、樹種同定結果から、以下の事柄が明らかになった。
- 1) 建築部材はシイノキ属であった。
  - 2) 考古学的な推定年代(5世紀前半～中頃)とAMS年代測定結果(3世紀中頃～5世紀前半:  $2\sigma$ )には矛盾がなく、整合的であった。

## 参考文献

- 伊東隆夫・山田昌久編(2012)木の考古学 出土木製品用材データベース. P447, 海青社, 滋賀.
- Bronk Ramsey, C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, L., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.
- 渡邊正巳(2019)垂水遺跡における自然科学分析. 垂水遺跡・松林寺遺跡・庵寺石塔群 一般国道9号(静間仁摩道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書, 8, 129-135, 国土交通省松江国道事務所・島根県教育委員会.



## 報告書抄録

ふりがな	やまぐちだいがくmaiぞうぶんかざいしりょうかんねんぽう
書名	山口大学埋蔵文化財資料館年報
副書名	－平成29・30年度－
巻次	
シリーズ名	山口大学埋蔵文化財資料館年報
シリーズ番号	15・16
編著者名	田畠直彦 横山成己 永久保洋子
編集機関	山口大学埋蔵文化財資料館
所在地	〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1 Tel083-933-5035
発行年月日	西暦2022年(令和4年)3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
吉田遺跡	山口県山口市 吉田1677-1	35203		34度 08分 50秒	131度 28分 8秒	20180115～ 20181025	1,100m <sup>2</sup>	福利厚生施設 新営工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉田遺跡	集落	縄文～古墳	竪穴式住居跡 掘立柱建物跡 土壙、ビット、溝、河川 風倒木痕	須恵器(初期須恵器) 土師器、弥生土器 縄文土器 小玉、石鐵、磨石 石鍬、石斧	4号竪穴式 住居跡埋め 戻し保存



山口大学埋蔵文化財資料館年報  
—平成29・30年度—

令和4年3月31日

編集 山口大学埋蔵文化財資料館

発行 山口大学

〒753-8511 山口市吉田1677-1

印刷 (有)三共印刷

〒759-0204 宇部市大字妻崎開作1953-8



YAMAGUCHI UNIVERSITY  
ARCHAEOLOGICAL MUSEUM REPORT Vol.15·16

CONTENTS

Chapter I Report of the Yamaguchi University Archaeological Museum activities .....	1
Section 1 Exhibition activities in the 2017 fiscal year .....	3
Section 2 Social education activities in the 2017 fiscal year .....	9
Section 3 Exhibition activities in the 2018 fiscal year .....	11
Section 4 Social education activities in the 2018 fiscal year .....	15
Chapter II The project on the Yamaguchi University campus in the 2017-2018 fiscal year	
Section 1 General outline of the project on the Yamaguchi University campus	
in the 2017-2018 fiscal year .....	17
Section 2 Excavation on the Yoshida campus "Yoshida site" in the 2017 fiscal year .....	21
Section 3 Excavation on the Yoshida campus "Yoshida site" in the 2018 fiscal year .....	110
Section 4 Excavation on the Siraishi campus "Shiraishi site" in the 2018 fiscal year .....	123
Section 5 Excavation on the Kogushi campus "Yamaguchidaiigaku Igauhikukounai site"	
in the 2018 fiscal year .....	124
Section 6 Excavation on the Hikari campus "Mitarai site and Tsukimachiyama site"	
in the 2018 fiscal year .....	127
Appendix 1 The gist of researches and studies at Yamaguchi University	
in the 2017-2018 fiscal year .....	128
Appendix 2 List of researches in Yamaguchi University campus .....	131
Appendix 1 Dating and identification of carbonized lumber excavated from	
Yamaguchi University campus "Yoshida site" .....	156

Published by  
Yamaguchi University Archaeological Museum  
Yamaguchi, 2022